

浮田和民年譜・著作目録

松田 義男 編
改訂 2024 年 7 月 12 日

目次

I 浮田和民年譜	2
II 浮田和民著作目録	16
III 文明協会刊行書目	77

年譜 凡例

本年譜作成にあたっては、中西敬二郎編「浮田和民博士年譜抄例題」(早稲田大学・校史資料室編『浮田和民博士年譜と著作目録』早稲田大学総長秘書室、昭和 41 年)、『早稲田大学百年史』、『同志社百年史』、『早稲田学報』等を参照した。

なお、明治 5 年 12 月 3 日を明治 6 年 1 月 1 日とする太陽暦採用以前については太陰暦により、太陽暦は [] に記した。

著作目録 凡例

*1.1 著書、1.2 訳書、1.3 共著、1.4 序文類、1.5 講義録、1.6 没後刊行書、2. 評論(新聞・雑誌掲載)等に分類した。

*掲載は明らかであるが、原本(復刻含む)未見のものについては、*を付した。

*配列は、原則として年次順としたが、1.5 講義録については分野別(歴史学・倫理学・社会学・政治学)に配列した。

*連載は、初回掲載に一括した。

*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。

*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。

*掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1.と表記し、日刊新聞の号数は省略した。

*収録書については、初出の注記として[]に記した。また、初出の注記とした収録書は、1.3 共著には採録していない。

*その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録作成にあたっては、早稲田大学、日本女子大学、立教大学、国際基督教大学、東京神学大学の各付属図書館をはじめ、国立国会図書館、日本近代文学館、東京大学法学部明治新聞雑誌文庫、同志社大学人文科学研究所、三康文化研究所、成田山仏教図書館、昭和女子大学図書館、早稲田中学校、早稲田大学現代政治経済研究所、早稲田大学史編集所、岡山市立中央図書館、種智院大学図書館、金光図書館より調査・閲覧の便宜を得たほか、大西比呂志、榎本久人、木戸健太郎氏より協力を得ました。

I 浮田和民年譜

安政 6 (1859) 年

12月27日[1860年1月19日]、肥後国熊本竹部久本寺東横町に生まれる。父栗田十太直之、母次の三男、幼名を亀雄。

明治 3 (1870) 年

11月、旧姓浮田に復歸。

明治 4 (1871) 年

9月1日[10月14日]、熊本洋学校に入学(第1回生)。

明治 5 (1872) 年

幼名亀雄を和民に改める。

明治 6 (1873) 年

5月30日、母次逝去。

6月4日、父十太直之逝去。

明治 9 (1876) 年

1月30日、熊本洋学校生徒、宮川経輝、金森通倫、徳富蘇峰、横井時雄らとともに花岡山で奉教に結盟(熊本バンド結成)。

7月、熊本洋学校卒業(第2回卒業生)。

9月9日、京都同志社英学校に入学。

明治 11 (1878) 年

1月、亀山に伝道。

7月、安中に伝道。

8月、岐阜に伝道。

10月18日、『七一雑報』に「源因論」を寄稿。

明治 12 (1879) 年

6月12日、同志社英学校予科卒業(第1回生)。海老名弾上、横井時雄、金森通倫、小崎弘道、宮川経輝ら15名、「真正の知慧」と題して卒業演説。

明治 13 (1880) 年

1月、大阪天満教会会頭就任。

3月11日、大阪教会男子学校教師就任。

明治14 (1881) 年

- 1月、天満教会会頭辞任。
- 3月19日、『六合雑誌』に「心意論」を寄稿。
- 5月15日、新島襄宅で説教。17日、京都四条北座の大演説会で金森通倫、宮川経輝らとともに伝道、「基督之伝」と題して説教。
- 6月11日、大阪道頓堀角座の大説教会で「自由」と題して説教。
- 9月18日、京都で「真の智慧」と題して説教。
- 12月9日、『七一雑報』編集長に就任(～16年5月11日。第6巻第49号～第8巻第19号)。

明治15 (1882) 年

- 3月11日、「學術演説会」(於大阪博労町劇場)で「本邦学士の風潮を論ず」と題して演説。
- 12月9日、「學術講演会」(同上)で「社会教育ノ理」と題して演説。

明治16 (1883) 年

- 4月27日、熊本藩士下村九十郎の三女末子(下村孝太郎の妹)と福岡で挙式。
- 8月、『東京毎週新誌』創刊、小崎弘道等と編集担当。『六合雑誌』編集にも従事。

明治17 (1884) 年

- 2月6日、新島襄の病氣見舞のため京都を訪問。
- 6月、蔵原惟郭等とともに東京浅草井生村楼で演説。

明治19 (1886) 年

- 2月6日、長男直樹生まれる。
- 5月、新島襄より招聘をうけ、同志社政法学校講師に就任、史学担当(「西洋史及び文明史を講じ、傍ら政治学を兼ねた」)。15日、訳書『博愛美談』を警醒社書店から刊行。

明治20 (1887) 年

- 3月12日、『同志社文学雑誌』創刊、「文備拡張論」を寄稿。
- 5月、同志社大学創立募金のため、新島襄の代行として京都府など各地を遊説。
- 7月15日、『国民之友』に「英雄崇拜論」を寄稿。
- 11月26日、婦人奨励会例会で「婦人の地位」と題して演説於京都倶楽部。

明治21 (1888) 年

- 1月30日、次男友樹生まれる。
- 4月12日、明治専門学校(同志社大学)設立のため京都知恩院大広間で「西洋諸国大学ノ起原」と題して演説。

明治22 (1889) 年

- 7月8日、第1回夏季学校(6月29日～7月10日)に講師として出席、「基督の教育主義及び青年の特質」と題して演説。
- 8月1日、宮川経輝、金森通倫等とともにアメリカン・ボード宣教師会議(於比叡山)に出席。

明治 23 (1890) 年

1月18日、妻末、歿(享年23歳)。

2月1日、『国民新聞』創刊号に「国民新聞の発行を祝す」を寄稿。13日、「浮田末子の履歴及び志望」を『国民之友』に寄稿。

明治 24 (1891) 年

9月9日、訳書『経済学之原理』を経済雑誌社から刊行。

この年、熊本藩士下村九十郎の五女(末の妹)、五女(いつめ)と結婚。

明治 25 (1892) 年

3月9日、四男秀樹生まれる。

9月、エール大学(ニューヘヴン)に留学、途中、ニュージャージー州アンナーバーのジェーンズを訪れ、数日間滞在。エール大学ではラッド(G. T. Ladd)に師事、カント哲学等を学ぶ。

明治 26 (1893) 年

4月15日、『九州文学』、『六合雑誌』にジェーンズの近況を伝える「帰郷後のヂエンス先生」を寄稿(～5月15日)。

明治 27 (1894) 年

この年、帰国。同志社政法学校で史学および政治学を担当。

8月15日、「外国宣教師論」を『六合雑誌』に寄稿。

明治 28 (1895) 年

5月21日、長女操生まれる。

7月10日、同志社第7回夏期学校で「自由神学」を説く。

明治 29 (1896) 年

1月、同志社評議員に選出。

3月、同志社学制改革を建議。

4月、同志社尋常中学校教頭に就任、歴史、英語、倫理を担当(生徒山川均、浮田に英語を学ぶ)。同高等普通学校で国家学、憲法講義を担当。

6月、同志社政法学校教頭事務取扱に就任。

12月15日、同志社尋常中学校教頭辞任。

明治 30 (1897) 年

2月11日、大西祝、姉崎正治らと「丁酉懇話会」第1回会合に出席。

5月、同志社改革問題で同志社社長小崎弘道とともに同志社を辞任、上京。東京専門学校西洋史担当の斎藤阿具の後任として講義。

10月10日、『国民之友』社説に「国民の国家国民の政府」を発表。

明治 31 (1898) 年

- 5月29日、「日韓学生倶楽部」第17回例会で「亜細亜の将来」と題して講話。
7月22日以後、東京専門学校「夏季東北巡回講話会」(白河町、宇都宮、郡山、福島、仙台、石巻、涌谷、盛岡等)に天野為之、坪内逍遙等とともに講師として講演。
9月、東京専門学校正教員として西洋史を講義。
10月8日、東京専門学校「科外講義」で「歴史上に於ける亜細亜の地位」と題して講義。
12月4日、早稲田擬国会開催、文部兼外務大臣担当。

明治 32 (1899) 年

- 7月15日、東京専門学校卒業式で「学校教育と社会教育」と題して訓話。
9月4日、来日したラッドの心理学講義を通訳。

明治 33 (1900) 年

- 2月7日、東京専門学校初代図書館長に就任(～明治35年8月)。
4月、同文学部教務主任に就任。
5月3日、青年革進協会(会長島田三郎)主催の演説会に登壇、「理想的青年」と題して演説。
7月13日、訳書『教育学ニ応用シタル心理学』を文学社から刊行。8月5日以後、東京専門学校「北陸巡回講話会」(福井、富山、金沢、八幡、大津、岐阜、豊橋)で天野為之、中村進午等とともに講師として講演。同月、帝国教育会主催夏期講習で北陸地方を巡遊し「社会学」を講義。

明治 34 (1901) 年

- 3月23日、早稲田擬国会開催、通信大臣担当。
4月7、9日、『国民新聞』に「日本の帝国主義」を發表。
7月27日(～8月25日)、東京専門学校「夏季東北巡回講話会」(仙台、弘前、大館、鷹巣、土崎、秋田、大曲、六郷、横手、盛岡、野辺地、八戸、花巻、遠野、盛、高田、気仙沼)で大隈英麿、天野為之、田中穂積とともに講師として講演。同月、曹洞宗大学林主催夏期講習で東北地方巡回「社会学」を講義。
8月1日、『帝国主義と国民教育』を民友社より刊行。
9月、東京専門学校に法学部研究科新設、社会学・政治学を担当。14日、毎日新聞演説会で「国家の理想」と題して演説。
11月26日、『社会学講義』を開発社から刊行。

明治 35 (1902) 年

- 1月10日、『国民新聞』に「帝国主義の理想」を發表(～23日)。
2月28日、訳書『ウイロビー・ボザンケ国家哲学』を東京専門学校出版部から刊行。
3月30日、早稲田擬国会開催、文部大臣担当。
5月、訳書『トライチケ政治学』を早稲田大学出版部から刊行。
6月7日、本郷教会で「史家のキリスト観」と題して演説。29日、『国民新聞』に「帝国主義の教育」を發表(～7月6日)。
7月25日～8月3日、四方温泉夏期講習会で「社会学」を講義。
8月11～16日、明治義会夏期講習会。17日、帝国教育会で「教育者の精神及任務」と題して講演。22日、恵美子生まれる。
9月17日、早稲田大学大学部文学科教務主任・専門部歴史地理科教務主任に就任、大学部政治経済学科で西洋史、大学部文学科で社会学、専門部政治経済科で西洋史・社会学を担当。

11月、研究科で「社会学及政治学」を担当。

明治36（1903）年

3月10日、哲学館事件における文部省の措置に抗議して、桑木巖翼ら丁西倫理会会員11名の連名による「哲学館事件に対する意見」を発表。25日、『国民教育論』を民友社より刊行。
8月5日、東子生まれる。同月、帝国教育会夏季講演会で「教育の新意義」と題して演説。
9月10日、『歴史講話』を早稲田大学出版部内中等教育会から刊行。
11月7日、本郷教会の明道会講演大会「進歩的楽天主義」と題して講演(於神田錦輝館)。

明治37（1904）年

3月、早稲田大学高等師範部長に就任(1907年3月、辞任)。
8月、甲州地方夏期講演。
9月18日、東京市教育会主催講演会で「日露戦争と教育」と題して講演、新聞『日本』の論難を受け問題化、以後数ヶ月にわたって所謂「俘虜留学」論争。
12月17日、早稲田大学の学生サークル「哲学会」例会で「国際上の道徳」を講演。29日、睦樹生まれる。

明治38（1905）年

2月6日、睦樹歿。10日、第13期早稲田擬国会開催、内務大臣担当。
3月19日、本郷教会で「人間の品位」と題して説教。
5月7日、早慶ボート対抗レース、選手慰労会で開会の辞。
12月3日、本郷教会婦人会講演で「婦人の天職」と題して講演。10日、幸子生まれる(同月、歿)。

明治39（1906）年

2月24日、国民作新会発会式(於神田青年会館)で、島田三郎、安部磯雄等とともに登壇、「我国に輿論あるか」と題して演説。
4月1日、大阪教会で「人生に於ける宗教の意義」、「将来の文明に対する歴史上の観察」と題して講演。
5月、早稲田大学大学部・専門部政治経済学科教務委員に就任。
8月、長野県飯田町で夏期講習会。
9月13日、国民作新会晩餐会に出席。26日、第一高等学校弁論部大会に来賓として招かれ「高等教育目的の変化」と題して演説。
10月、帝国教育会が主催するラッドの講演を通訳。
11月5日、国民作新会演説会で「米国に於ける日本人の位置」と題して演説(於神田青年会館)。
12月5日、『歴史講話』を早稲田大学出版部から刊行。

明治40（1907）年

4月1、2日、日本組合教会教役者修養会で「社会理想の進化」と題して講演(於番町教会)。4日、早稲田大学維持員に選出。27日、原田助の同志社社長兼校長就任式に列席、校友会を代表して演説。
5月12日、本郷教会の礼拝集会で「靈魂不滅論」と題して説教。20日、早稲田大学教授会議員に就任。同月、早稲田大学大学部政治経済学科・専門部政治経済科教務委員に就任。
7月11～21日、早稲田大学出版部主催「夏期講習大会」に講師として「社会学」を担当。29日、訳書『教育学』を三省堂書店から刊行。31日、早稲田大学新潟県校友会の招聘で佐渡郡両津町に赴き、学術講演会で「社会教育に就て」と題して講演。
8月1日午前、佐渡郡金沢村明治記念堂を参観、夜、校友大会に臨む(於相川町寿司嘉楼)。2日、相川町

学術演説会に臨み「実業道徳に就て」と題して演説演説(於旧中教院)。

9月、早稲田大学大学部政治経済学科で「政治史」「名著研究」「国家学原理」「社会学」「政治哲学」、専門部政治経済科で「国家学原理」「社会学」、高等師範部および高等予科で「西洋史」を担当、また「宗教研究科」で「中世及近世的基督教」を担当。

12月25日、「政党史」および「民間教育」(大隈重信撰『開国五十年史』上巻)を発表。

明治41(1908)年

1月18日、豊島郡高田村本町に転居。

3月7日、本郷教会春期集中伝道会で「余が不朽観」と題して説教。9日、法学博士の学位を受ける。

4月2～8日、大阪府・滋賀県長浜を講演旅行。3日、大日本文明協会(会長大隈重信)設立、初代編輯長に就任。5日、大阪教会において「男女両性の優劣」と題して演説。

6月21日、本郷教会の礼拝説教で「真理とは何ぞや」と題して説教。

7月18、20、21日、同志社夏期神学校で社会学を講演。25日、山形市に赴き、早稲田大学東北巡回講演一行(有賀長雄・大隈信常・田中唯一郎)に合流。26日、講演会に臨み「国民道徳論」と題して講演(於県会議事堂)、27日、新荘町の講演会に臨む(於同地中学校)。28日、鶴岡町に赴く。29日、湯田川温泉で涼をとる。30日、講話会に臨む(於郡会議事堂)。31日、前日に引き続き講演会に臨む。

8月1日、鶴岡町を発ち酒田町に赴き、劇場で講演会、その後、懇親会に臨む(於小幡楼)。3～7日、田川郡教育会及同好会の招聘に応じ社会学の講習(於鶴岡町郡会議事堂)、鶴岡町滞在中、大山町有志の依頼により小学校で講話。10日、福島県本宮町の講演会に臨む(於高等小学校)。安積郡郡山町に赴き講話(於郡会議事堂)。11日、会津喜多方町に赴き講演(於高等小学校)。12日、帰京の途に就く。27日、本郷教会の礼拝説教で「理想と現実」と題して説教。

10月25日、本郷教会の礼拝説教で「基督の基督教」と題して説教。

11月7日、論文集『人格と品位』を広文堂書店から刊行。22日、本郷教会の礼拝説教で「人格満足主義」と題して説教。

明治42(1909)年

2月1日、『太陽』主幹就任(「太陽の読者に告ぐ」)。同月、『東京毎日新聞』(島田三郎経営『毎日新聞』の改題)社友に就任。

4月、熊本・佐賀・長崎・門司を「巡回講演」(早稲田大学)。

5月1日、同志社維持会会長に就任。

10月1日、論文集『倫理的帝国主義』を隆文館から刊行。

12月13日、帝国育英義会で講演。19日、社会政策学会第3回大会に来賓として出席し演説。

明治43(1910)年

4月2日、日曜学校協会大会に出席。12日、同志社科外講演で「南米の将来」と題して講演。

5月4日、名古屋で早稲田大学校友会演説会に出席、「人格修養と憲法政治」と題して講演(於愛知県会議事堂、聴衆2500余名)。29日、福井県教育会主催教育大会に招かれ講演。

7月20～26日、神戸市で「新道徳論」と題して講演(早稲田大学校外教育部主催「地方講習会」)。24～30日、大阪市で「新道徳論」と題して講演(同上)。同月28日～8月3日、京都市で「新道徳論」と題して講演(同上)。

11月21～25日、横浜市で「国民道徳論」と題して講演(同上)。

明治44(1911)年

3月1日、政府の社会主義・無政府主義取締を「憲法違反」と批判した「社会主義及び無政府主義に対する

- 憲政上の疑義を『太陽』に発表(～5月1日)。
- 4月1日、南朝を正統とする国定教科書改悪を批判した「南北朝正閏論の断案」を『太陽』に発表。15～17日、早稲田大学「地方講演会及巡回講話」講師として、栃木県宇都宮市で「青年の覚悟」「新教育論」「青年の三徳」「新時代の女子教育」と題して講演。
- 5月24日、早稲田大学「科外講義」で「活動主義の道徳」と題して講義。
- 7月21～30日、東京市で「政治と道徳」と題して講演(早稲田大学校外教育部主催「地方講習会」)。
- 8月7～11日、愛知県西尾町で「教育倫理」と題して講演(同上)。13日、岡山市津山町着。14日(～19日)、早稲田大学美術校校友会・岡山市苦田郡教育会連合主催による校外教育講習会で「新道徳論」と題して講演(於津山町男子尋常高等小学校)。15日夜、田町基督教会堂で「基督教と社会主義」と題して講話。17日午後、津山青年協和会支部の招聘に応じ「活学問」と題して講話(於鶴山館)、夜、津山精神修養会主催に係る講話会で「宗教と教育」と題して講話(於田町新地劇場)。18日午後、苦田郡青年団連合会で「自治自修」と題して講話。19日、講習会閉会式・講習修了証書授与式に臨み講師として式辞。20日、帰京の途に就く。
- 9月、早稲田大学大学部政治経済学科で「国家学原理」「近代政治史」「近代及最近政治史」「原書研究」(Franklin Henry Giddings, *Readings in Descriptive and Historical Sociology*)、同文学部史学科で「近代西洋史」、専門部政治経済科で「国家学原理」「近代及最近政治史」、高等師範部および高等予科で「西洋史」を担当。
- 10月22日、グレゴリー氏歓迎の廓清大演説会で「娼娼問題」と題して演説(神田美土代町青年会館)。
- 11月5日夜、東京・横浜の組合教会拡張伝道で「人格の宗教」と題して講演(於本郷教会)。
- 12月5日、稲友会第一回講演会(於早稲田大学大講堂)で「新実業道徳」と題して講演。26日、倉敷日曜講演(於岡山市倉敷町)に招かれ講演。

明治45・大正元(1912)年

- 1月27日、早稲田大学政治学会第3回大会に出席「新支那建設に付き如何なる政体組織を採る可き乎」について討議。
- 2月19日、早稲田大学教旨起草委員に推挙。24日、早稲田大学政治学会第四回大会に出席。
- 4月1日、早稲田大学「地方講演会及巡回講話」講師として、群馬県館林町で「政治と教育」と題して講演。11日、「帰一協会」第1回準備会(於渋沢栄一邸)に出席、趣旨書の起草委員に選出。
- 5月13日、「帰一協会」第2回準備会に出席。17日、皇太子の授業台覧。20日、同志社大学開校式で同志社校友総代として祝辞(於公会堂)、夜、記念大講演会で「教育界の革命」と題して講演(於京都青年会館)。
- 6月20日、「帰一協会」(会長渋沢栄一)創立、評議員・幹事に就任。
- 7月21～30日、東京市で「最近時の教育倫理問題」と題して講演(早稲田大学校外教育部主催「地方講習会」)。
- 8月1～7日、福岡県若松町で「国民道徳論」と題して講演(同上)。7日(～)、兵庫県飾磨郡で「国民道徳論」と題して講演(同上)。
- 10月1日、美濃部・上杉憲法論争に対して「無用なる憲法論」を『太陽』に発表。10日、帰一協会第2回例会に出席(於上野精養軒)。21日、早稲田大学校外教育大講演会で「第二維新」と題して講演(於三田惟一館)。26日、兵庫県国領村で講演。
- 11月1日、帰一協会第3回例会で「内外思想界ノ趨勢ト宗教信念」と題して講演(於上野精養軒)。
- 12月16～22日、東京市で講演。23日、論文集『社会と人生』を北文館から刊行。26日、故高山樗牛十周年記念講演会(於神田青年会館)で「高山樗牛と芸術家の精神」と題して講演。

大正2(1913)年

- 1月10日、帰一協会第5回例会に出席。17日、東京築地精養軒で開かれた全国記者大会に来賓として招かれ、犬養毅、尾崎行雄らとともに演説。
- 2月6日、帰一協会第6回例会に出席(於上野精養軒)。
- 4月1日、「立憲政治の根本義」を『太陽』に発表。同月、同志社大学政治経済部で「西洋文明史論」を定期

- 講演(毎月1回)。
- 5月4日、渋沢栄一主催ピーボディ博士招待会に出席(於飛鳥山邸)。5日、中国民報社客員に就任。8日、マコーレー古希祝賀会に出席し祝辞(於芝三緑亭)。9日、早稲田大学維持員に再選。17日、早稲田大学千葉県校友会の要請で、大隈重信、田中穂積とともに千葉中学校講演会に臨み「現代青年の通弊」と題して講演、引き続き、千葉医学専門学校講演会で「国民衛生論」と題して講演、さらに千葉県校友会開催後の講演会で「立憲時代と国民道徳」と題して講演。
- 6月6日、帰一協会評議員会および第10回例会に出席。17日、発起人の一人としてグリーン博士招待会に臨む(於上野精養軒)。29日、ハーバート大学名誉総長エリオットを招いた午餐会に出席(於渋沢邸)。
- 7月4日、姉崎正治送別会を兼ねた帰一協会第11回例会に出席(於上野精養軒)。8日、早稲田大学高知市校友会の招聘により、東京発、10日、高知着。11日、「第二維新の国是」と題して講演(於公会堂)、校友会主催の歓迎会に臨む、12日、市内中学校、商業学校等の生徒に対し「青年の三徳」と題して講演(於高知座)、市内各高等女学校学生徒に対し「女と男」と題して講演(於公会堂)、夜、高知発、13日、東京着。この月、前橋教会で演説。
- 8月7～12日、姫路市で夏期講習。16日、『新道徳論』を南北社から刊行。同月、福島で講演。
- 9月10～23日、大隈重信の北陸遊説に随行(10日、上野発、新潟県高田市着。11日、高田市で講演。12日、高田発、長岡着。13日、長岡発、新発田着。14日、新潟着、16日、柏崎着。17日、直江津、魚津を経て富山着。19日、石川県金沢着。21日、金沢発、小松を経て福井着。22日、福井発、米原を経て、23日、新橋着)。
- 10月1日、帰一協会第13回例会に出席(於上野精養軒)。19日、早稲田大学創立30周年記念祝賀校友大会で教職員を代表して謝辞。21日、早稲田大学創立三十周年「校外教育大講演会」(於芝三田惟一館)で「第二維新」と題して講演。26日、兵庫県氷上郡国領村通修文庫の招聘により国民道徳について講演。
- 11月5日、神仏耶三教聯合大会に出席(於時築地精養軒)。9日、東亜協会秋季大講演会で「新道徳論」と題して講演。

大正3(1914)年

- 1月21日、「帰一協会」例会に出席、海老名弾正の講演「プロテスタント教の要義」を批評(於上野精養軒)。
- 2月13日、平安教会伝道講演会で講演(～3月1日)。24日、「帰一協会」例会に出席(於上野精養軒)。
- 3月15日、第26期早稲田擬国会開催、内閣総理大臣を担当。21日、帰一協会例会に出席(於上野精養軒)。23日、高田早苗送別会に臨む(於渋沢邸)。25日、丸善「名士講演」で講演。
- 4月5日、早稲田大学創立三十周年記念「校外教育大講演会」(於大阪市土佐堀大阪青年会館)で「輿論政治と群衆心理」と題して講演。同月、同志社大学政治経済部で「現代時論」を定期講演(毎月1回)。
- 5月23日、論文集『新国民の修養』を群書堂から刊行。
- 6月7日、番町教会で「宗教の新意義」と題して説教(予定)。17日、帰一協会例会に臨み、本多日生・吉田静致の講演「教育と宗教的信念との関係」について、「人々をして自己を尊重するの精神を発揮せしめる事が最も必要」と批評(於上野精養軒)。
- 7月21日～30日、早稲田大学校外教育部中央夏期講習会で「国民道徳の危機」と題して講演(於早稲田大学大講堂)。
- 8月1～5日、千葉県大原町で夏期講習。
- 10月3日、早稲田大学第1回時局講演で「欧州大戦の由来」と題して講演。7日、帰一協会例会に臨み菊池大麓の講演「教育と宗教的信念との関係」について批評。18日、江東小学校増築改名記念講演会で「時局と国民の覚悟」と題して演説。
- 11月8日、統一基督教会の婦人問題講演会で「明治大正の婦人問題」と題して講演。
- 12月16日、高田早苗帰朝歓迎会を兼ねた帰一協会例会に出席(於上野精養軒)。

大正4(1915)年

- 1月31日、早稲田大学春期中央校友大会で演説。

- 2月3日、『世界の一回転』を富山房から刊行。7日、統一基督教会の集会で「国民の政治教育」と題して説教。10日、婦一協会主催マシウス博士・ギュリック博士歓迎会に出席(於上野精養軒)。14日、論文集『文明の世』を博文館から刊行。
- 3月14日、第27期早稲田擬国会で司法大臣を務める。25日、論文集『理想と現実』を日月社から刊行。
- 4月15日、神田青年会館で丁未倶楽部主催内閣鞭撻政談演説会に登壇(予定)。
- 5月28日、精神病者慈善救済会(会長大隈綾子、顧問吳秀三)の公開演説会で吳秀三、内ヶ崎作三郎、牧野英一等とともに登壇(於大日本私立衛生会会堂)。
- 6月10日、沼南会で演説(於築地静養軒)。25日、早稲田大学終身維持員に選出。
- 7月7日、婦一協会年次大会(渡米する服部宇之吉・海老名弾正・マコーレー・コーツの送別会を兼ねる)に出席(於上野精養軒)。18日、姉崎正治・服部宇之吉の渡航送迎晩餐会に臨む(於渋沢邸)。21日、早稲田大学校外教育部主催中央暑期講習会で「欧州戦乱突発前後の列強外交」と題して講演。
- 8月1(～5日)、福岡県若松市教育会主催校外教育部講習会で「政治と教育」と題して講演。4日、福岡県遠賀郡大正青年会主催講演会で内ヶ崎作三郎とともに講演。6日、早稲田大学福岡県校友会主催学術講演会で「欧州戦局の将来」と題して講演(於若松市立女児尋常小学校)。
- 9月10、11日、同志社大学で講演。28日、大正会主催芸妓反対大演説会に登壇し、「男女交際の新道徳」と題して演説(神田青年会館)。
- 10月20日、婦一協会主催による渡米する渋沢栄一の送別晩餐会に出席(於築地精養軒)。22日、市原盛宏埋骨式に参列(於雑司ヶ谷墓地)。24日、文明協会主催第1回「学術講演会」(於東京神田青年会館)で「世界的文化の新時代」と題して講演。
- 11月20日、同志社大学で「ルーソー及びバックル比較研究」、「日本の対世界政策」と題して講演。

大正5(1916)年

- 1月22日、同志社大学で「エドモンド・バルクの政治学研究法」、「国民性と国民的理想の戦争」と題して講演。
- 3月20日、直樹歿。同月、大日本青年修養団評議員就任。
- 4月20日、故松枝徳磨君追悼演説会に登壇(於早稲田大学大講堂)。
- 7月13日、渋沢栄一・成瀬仁蔵とともにタゴールを訪問、通訳をつとめる(於横浜・原富太郎別荘)。21日、早稲田大学校外教育部中央暑期講習会(～30日)第1日に「欧州戦乱突発前後の列強外交」と題して講演。24日、早稲田大学校外教育中央暑期講習会で「国際政局の将来」と題して講演。
- 8月13～17日、早稲田大学校外教育の講習会で「政治教育論」と題して講演(於秋田県大館町)。17日、秋田県校友大会に青柳篤恒、内ヶ崎作三郎とともに出席(於秋田倶楽部本館)。18日、秋田県教育会主催講演会で「世界に於ける日本の地位」と題して講演(於秋田市公会堂)、同日帰京。
- 10月28日、大正会主催芸妓反対大演説会で「男女交際の新道徳」と題して演説(神田青年会館)。

大正6(1917)年

- 4月1日、永井柳太郎の選挙応援のため金沢市に赴き推薦演説。同月、婦一協会例会で「戦後の国際平和問題」と題して講演。
- 5月31日、同志社大学で「総選挙の問題と憲法の将来」、「世界と日本の国体」と題して講演。
- 6月、『太陽』主幹辞任。
- 7月16日、早稲田大学に「辞職願」提出。
- 9月26日、早稲田大学の終身維持員を辞任。同月、同大学部政治経済学科で「近代政治史」「原書研究」(Franklin Henry Giddings, *The elements of sociology: a text - book for colleges and schools*)、同文学科史学・社会学科、高等師範部第一部英語科で「西洋史」を担当。
- 10月1日、「早稲田大学紛擾の真相及其の根本問題」を『太陽』に発表。
- 11月1日、「欧州戦乱と民主政治の新傾向」を『太陽』に発表(～12月1日)。同月、『日本一』時評欄を担当(～大正8年12月)。

大正7(1918)年

- 3月22日、文明協会主催第1回「時局研究会」(於大隈邸)で「開会の辞」。
- 5月25日、同志社大学で「立憲政治の根本義」、「世界平和と進歩」と題して講演。
- 6月1日、「新民主主義の提唱と対国家問題」を『大観』に発表。
- 7月17日、早稲田大学夏季巡回講演担当講師として、香川県高松市で「欧州大戦の意義」と題して講演。
18日、愛媛県松山着。19日、愛媛県松山市で「欧州大戦と立憲政治」と題して講演(於県公会堂)、20日、
広島市で「欧州大戦の意義」と題して講演(於市内立町崇徳教社)、臨時校友会に出席し挨拶。21日、厳
島神社に参詣、岡山の大観社講演会に出席(予定)し、帰京の途に就く。
- 8月28日、訳書『軍国主義政治学』上巻を早稲田大学出版部から刊行。同月、早稲田大学校外教育部主催
夏期講習会で四国、中国地方を巡回講演。
- 10月26日、文明協会十週年祝賀会の臨み開会の辞(於早稲田大隈侯爵邸)。30日、文明協会「学術講演会」
で「人類問題に就て」と題して講演。
- 大正7年度、早稲田大学大学部政治経済学科第1学年で近代政治史、第2学年で原書研究(Franklin Henry
Giddings, *The elements of sociology : a text-book for colleges and schools*)、同文学科史学及社会会学
科第3学年で近世西洋史を担当。

大正8(1919)年

- 1月31日、帰一協会主催の添田寿一氏欧州行送別会に出席し演説(於中央亭)。
- 2月5日、論文集『生活戦術』を実業之日本社から刊行。
- 3月9日、日本女子大学の創立者成瀬仁蔵の告別式に参列、告別の辞を読む(於日本女子大学校講堂)。
- 5月4日、早稲田大学岡山校友会に出席(於岡山市新西大寺町新花月)。18日、文明協会講演会で講演(於横
浜市記念館)。
- 7月11~24日、中国民報社主催の「新文化運動 自治思想の涵養と自助精神の宣伝」のため、岡山県下(倉
敷町、笠岡町、井原町、津山町、久世町、林野町、味野町、西大寺町、瀬戸町、総社町、高梁町)を巡
回講演。
- 8月、早稲田大学校外教育部主催夏期講習会で岡山、香川地方を巡回講演。
- 10月12日、文明協会「学術講演会」で「改造の意義」と題して講演。

大正9(1920)年

- 2月1日、立憲労働義会(会長蔵原惟郭)発会式に来賓として出席、「社会改造の根本義」と題して演説(於芝
増上寺)。7日、森戸辰男事件に抗議する連合大演説会で座長に推され宣言決議を採択、「思想言論の自
由の為に」と題して演説(於神田青年会館)。10日、『世界改造の目的と方法』を大日本文明協会から刊
行。27日、早稲田大学「科外講義」で「人間改造論の批判」と題して講義。
- 3月14日、文明協会「学術講演会」で「世界改造の十大原則」と題して講演。15日、渡欧送別会(於永楽倶楽
部)に出席。22日、欧米視察に出発。28日、訳書『軍国主義政治学』下巻を早稲田大学出版部から刊行。
- 4月1日、ホノルル寄港、ヌアヌ青年会主催の歓迎午餐会に出席し講演(於ヌアヌ青年会館)。2日、ホノ
ルル出帆。8日、サンフランシスコ着。9日、カリフォルニア大学を訪問、オークランド在留民状態、
堂本花園を視察。10日、サンマテオ墓地よりスタクトン大学を視察、日本人会会長牛島謹爾氏主催の
歓迎晩餐会に出席(於日本倶楽部)。11日、早稲田大学・同志社連合の校友会主催歓迎会に出席、サター
青年会館で「世界に於ける日本人の位置」と題して講演。12日、サンフランシスコ発。メリスビル着、
コルテ米作地を視察。サクラメント着、歓迎晩餐会に臨み(於千代志楼上)、日本小学校講堂で講演。14
日、スタクトン着、牛島農園を視察、歓迎会に臨み、講演(於朝日ホール)。16日、フレズノ着、晩餐会
に臨み(於ホテルフレズノ)、講演(於日本ホール)。18日、ロサンジェルス着。19日、早稲田校友会・熊
本県人会・羅府日本人会主催の歓迎会に臨み、本願寺仏教会ホールで「アメリカニズムと日本主義」と題
して講演。24日、サンフランシスコに戻る。25日、サンフランシスコからオグデン市着、晩餐会に臨み

講演。26日、シカゴに向け出発。
5月6日、シカゴで講演の予定。10日、ニューヨーク着。20日、ボストン着、ハーバート大学等を訪問。
26日、フィラデルフィア、ワシントンの視察に向かう。
6月5日、ニューヨーク日本人会主催の講演会で「アメリカニズムと日本主義」と題して講演(於ニューヨーク教会)。13日、熊本県人会の歓迎晩餐会に出席。16日、ロンドン着。ロンドン滞在中にラスキ(H. J. Laski)、コール(G. D. H. Cole)、ウェブ(S. Webb)と会見。気候の変化で体調を崩し療養。
11月17日、ロンドン発。
12月10日、共訳書『社会改造の理想と実際』が大日本文明協会から刊行。

大正10(1921)年

2月28日、早稲田大学上海校友会歓迎会に出席。
3月5日、帰国(神戸着)。7日、東京着。19日、欧米視察報告会で視察報告(於永楽倶楽部)。
4月9日、文明協会事業相談会で「文明協会研究要項」を提案(於大隈邸)。20日、日本女子大学創立記念式兼故成瀬校長追悼会に臨む(於日本女子大学)。24日、文明協会「学術講演会」で「海外より日本を見て」と題して講演。27日、帰一協会例会で「外遊感想談」(於如水会館)。
6月9日、帰一協会例会に出席(於如水会館)。
9月6日、帰一協会臨時会に出席、ニューヨーク・ユニオン神学校教授フオスデック博士の講演「人種平等に対するクリスト教徒の態度」を聴く(於渋沢邸)。

大正11(1922)年

3月17日、渋沢子爵一行の帰国歓迎会を兼ねた帰一協会例会に出席(於如水会館)。
4月15日、ラツド博士未亡人招待会に臨む(於渋沢邸)。22日、文明協会故会長(大隈重信)追悼会で演説。
5月24日、帰一協会例会に出席、千葉豊治の講演「日本国民の世界的適応性に関する考察」を聴く(於如水会館)。
7月1日、「国民主義から国際主義へ」を『実業之日本』に発表。

大正12(1923)年

3月21日、帰一協会例会に出席、姉崎正治の講演「我国目下の危機に関する一観察」を聴く(於如水会館)。
同月、故大隈侯追悼会で「偉大なる凡人としての大隈侯」と題して演説。
10月8日、早稲田大学図書館顧問に就任。
11月13日午前、岡山県金光町で、金光中学校生徒のため所感を述べ、午後、早稲田大学教育普及講演会で「岐路に立つ人類の危機」と題して講演(於金光教本部大教殿)、講演後、金光教管長の招待会に臨み、さらに金光校友会主催歓迎会に臨む。14日、広島県校友会に臨む(於焼津公園内太華楼)、15日、広島市立町崇徳神社で「アメリカニズムと日本の将来」と題して講演。
12月8日、早稲田大学沼南会主催の故島田三郎氏追悼演説会に登壇、「エドモンド・パークと島田沼南」と題して演説。

大正13(1924)年

6月11日、「自由の蹂躪と大学自治制の冒瀆」を『早稲田大学新聞』に寄稿。
7月1日、論文集『勝利への路』を実業之日本社から刊行。20日、移民法通過後の対米策に付き意見交換の会合(座長渋沢栄一)に出席(於丸ノ内工業倶楽部)。
9月、早稲田大学政治経済学部政治・経済学科で「政治学」「最近政治史」を、同文学部史学科で「フランス革命史」を担当。
11月13日、岡山県浅口郡教育会・金光中学校主催早稲田大学教育普及講演会で「岐路に立つ人類の危機」

と題して講演(於金光教大教殿)。

12月8日、明治文化発祥記念会主催講演会で「世界大勢より観たる日米問題」と題して講演予定(於帝国大学第三十教室)。

大正14(1925)年

5月18日、『早稲田政治経済学雑誌』(早稲田大学政治経済学会)創刊、「巻頭の辞」を寄稿。

6月1日、『日米非戦論』を実業之日本社から刊行。26日、矢島楯子の葬儀に参列。

7月22日、「財団法人文明協会」設立(大日本文明協会の財団法人化)にともない理事に就任。

9月20日、訳書『産業自治論』を大日本文明協会から刊行。

11月1日、「日本の対支政策」を「我観」に発表。

大正15・昭和元(1926)年

1月1日、「軍事教育の是非」を『太陽』に発表。

2月1日、「無産政党の使命と其大成期」を『我観』に発表。

4月1日、「太平洋上に於ける日本の国際的地位」を『太陽』に発表。

昭和2(1927)年

1月、神奈川県茅ヶ崎原安三郎別邸に転居。

4月20日、日本女子大学創立記念式に臨み祝辞(於日本女子大学)。

6月24日、文明協会臨時理事会で、文明協会編集長を辞し、編集顧問に就任(於大隈信常邸)。

10月20日、早稲田大学創立四十五周年「記念大講演会」で「現代政治界の重大問題」と題して講演(於大隈記念大講堂)。

12月25日、訳書『露西亞大観』を大日本文明協会から刊行。

昭和3(1928)年

1月1日、「現立憲政治の現状及将来」を「我観」に発表。

昭和4(1929)年

1月15日、訳書『労働の哲学』を大日本文明協会から刊行。

2月10日、帰一協会主催マシウス博士・ギューリック博士歓迎会に臨む(於上野精養軒)。

4月1日、「過渡期に直面せる日本帝国」を「我観」に発表。

10月20日、早稲田大学大隈講堂で、高田早苗、坪内逍遙、市島健吉とともに古希祝賀会に臨み、挨拶。

昭和5(1930)年

3月30日、『ボルシェヴィズムとアメリカニズム』を大日本文明協会から刊行。

10月29日、同志社第1回卒業生(明治12年)の会合に出席(於東京山王下幸楽)。

昭和6(1931)年

4月20日、『思想善導の唯一手段は何か』を大日本文明協会から刊行。

8月30日、訳書『世界の統一』を大日本文明協会から刊行。

11月15日、『史観』(早稲田大学史学会)創刊、「史学管見」を寄稿。

昭和7(1932)年

- 2月5日、早稲田大学学芸会において「満州問題と国際連盟」について「研究講演」。28日、京都で「同志社教育を中心とする座談会」に出席(於京都ホテル)、同志社・同志社校友会主催歓迎化に出席。
- 3月18日、同志社倶楽部3月例会で「満蒙座談会」に出席(於青山会館)。
- 4月、早稲田大学政治経済学部政治学科で「特殊研究」(R. M. MacIver, *The Modern State*)を担当、文学部史学科で「フランス革命史」を担当。
- 10月5日、『満州国独立と国際連盟』を早稲田大学出版部から刊行。10日、「日米愚戦論」を『文明協会ニュース』に発表。20日、大日本文明協会「時局研究会」で「リットン報告書を読みて」と題して講演。

昭和8(1933)年

- 1月18日、早稲田大学の学生サークル「婦人問題研究会」創立、会長に就任。
- 2月3日、英文論文“Reflections on the Independence of Manchukuo and the League of Nations”を海外に送付。
- 6月20日、早稲田大学政経学部政治学科有志による「京大滝川問題討論会」を指導。
- 8月10日、「老衰退嬰の文教当局 — 京大滝川問題に関して」を『文明協会ニュース』に発表。

昭和9(1934)年

- 2月10日、「教育改革の基礎的問題」を『文明協会ニュース』に発表(～9月10日)。
- 6月28日、『満州問題と日米親善論』を北文館から刊行。
- 10月10日、「教育改造の基礎的問題」を『文明協会ニュース』に発表(～11月10日)。

昭和10(1935)年

- 4月、早稲田大学の学生サークル「政治学会」創立、会長に就任。
- 5月22日、早稲田大学「政治学会」主催の河合栄治郎講演「独裁政治批判」に出席(河合栄治郎日記によると「今日浮田和民氏がラスキーやコールは余り書きすぎる。二、三年静かに考えるとよいと云った」とある)。
- 6月9日、「不老会」創立発起人となり、明石町治作で発起人会を開き趣旨を説明。
- 11月10日、天皇機関説事件に関して「危険なる憲法論」を『文明協会ニュース』に発表。

昭和11(1936)年

- 1月19日、「浮田先生喜寿祝賀会」(於永楽倶楽部)に出席。
- 3月10日、「総選挙の意義」を『文明協会ニュース』に発表(～6月10日)。

昭和12(1937)年

- 2月10日、「宗教の現実性と国際平和」を『文明協会ニュース』に発表(～4月10日)。
- 10月10日、「支那事変の動機及び終極目的を全世界に宣言せよ」を『文明協会ニュース』に発表。

昭和13(1938)年

- 1月10日、「世界に対する日本国民の責任」を『文明協会ニュース』に発表。
- 4月10日、「戦争平和に関する国際共同の責任を認識せよ」を『文明協会ニュース』に発表。
- 6月10日、大日本文明協会創立三十周年・大隈重信生誕百年記念式典に出席。

昭和 14 (1939) 年

2月10日、「十字街頭に立つ人類」を『文明協会ニュース』に発表。
10月1日、「現代文明の大矛盾」を『科学知識』に発表。
11月20日、京都着。21日、新島襄等の墓参。22日、同志社神学館で「現代文明の大矛盾 新重農政策の提唱」と題して講演。23日、京都発。

昭和 15 (1940) 年

10月16日、京都着。17日、新島会館で「信仰の告白」と題して講演。18日、新島会館で教育懇談会に出席。19日、新島会館で「現世時局大観」と題して講演。30日、全国教育関係勤続者並に功労者として表彰(文部省)。

昭和 16 (1941) 年

5月15日、早稲田大学退職、名誉教授に推挙。

昭和 18 (1943) 年

4月、「世界大戦全局観」の執筆に着手。
9月20日、早稲田大学史学会編『浮田和民博士記念史学論文集』(六甲書房)刊行。

昭和 21 (1946) 年

10月28日、東京市豊島区高田本町の自邸で逝去、多摩霊園に埋葬。

II 浮田和民著作目録

1.1 著書

- 『帝国主義と教育』民友社、1901年8月1日
- 『社会学講義』開発社、1901年11月26日[復刻版：<近代日本社会学史叢書 第1期 草創期・生成期(明治初年～30年代) 第25巻>龍溪書舎、2008年]
- 『社会学綱要』曹洞宗夏期講習会編、鴻盟社、1902年6月18日
- 『稿本希臘史』<歴史叢書>早稲田大学出版部、1902年10月11日
- 『国民教育論』民友社、1903年3月25日
- 『歴史講話』早稲田大学出版部内中等教育会、1903年3月25日
- 『歴史講話』早稲田大学出版部、1906年12月5日
- 『人格と品位』広文堂書店、1908年11月7日
- 『倫理的帝国主義』隆文館、1909年10月1日
- 『社会と人生』北文館、1912年12月23日
- 『新道德論』南北社、1913年8月16日
- 『新国民の修養』群書堂書店、1914年5月23日
- 『世界の一回転』富山房、1915年2月3日
- 『文明の世』博文館、1915年2月14日
- 『理想と現実』日月社、1915年3月25日
- 『生活戦術』実業之日本社、1919年2月5日[『近代生活風俗誌集 第3巻』(クレス出版、2010年)収録]
- 『世界改造の目的と方法』大日本文明協会、1920年2月10日
- 『勝利への路』実業之日本社、1924年7月1日
- 『日米非戦論』実業之日本社、1925年6月1日[『初期在北米日本人の記録 北米編 第91冊』(文生書院、2007年)収録]
- 『ボルシェヴィズムとアメリカニズム』大日本文明協会、1930年3月30日
- 『思想善導の唯一手段は何か?』大日本文明協会、1931年4月20日
- 『満洲国独立と国際聯盟』早稲田大学出版部、1932年10月5日
- 『満洲問題と日米親善論』北文館、1934年6月28日

1.2 訳書

- 『博愛美談』警醒社書店、1886年5月15日(原著：William Guest, *The Life of Stephan Grellet*)
- 『ラルネッド述経済学之原理』経済雑誌社、1891年9月9日
- 『ラウド述宗教哲学』大阪福音社、1892年8月

- 『比較行政法』東京専門学校出版部、1900年6月29日(原著: Frank J. Goodnow, *Comparative Administrative Law*)[『日本立法資料全集 別巻 388』(信山社出版、2006年)収録]
- 『ラッド講述教育学ニ応用シタル心理学』文学社、1900年7月13日
- 『ウイロビーボザンケ国家哲学』東京専門学校出版部、1902年2月28日(原著: W. W. Willoughby, *An Examination of the Nature of the State*. Bernerd Bosanquet, *Philosophical Theory of the State*)[復刻版『日本立法資料全集 別巻 1165』信山社出版、2017年]
- 『ツライチケ政治学上巻』早稲田大学出版部、1902年5月(原著: Heinrich von Treitschke, *Politik, Vorlesungen gehalten an der universitat*, 2. Aufl, 1899 - 1900)
- 『ラッド氏述教育学』三省堂書店、1907年7月29日
- 『軍国主義政治学』(上・下)早稲田大学出版部、1918年8月28日、1920年3月28日(原著: Heinrich von Treitschke, *Politik, Vorlesungen gehalten an der universitat*)
- 『社会改造の理想と実際』大日本文明協会、1920年12月10日(浮田和民訳「政治的理想」原著: Bertrand Russel, *Political Ideal*. 宮島新三郎訳「自由への道」原著: Bertrand Russel, *Road to Freedom*)
- 『産業自治論』大日本文明協会、1925年9月20日(原著: G. D. H. Cole, *Self - government in Industry*)
- 『人類の運命』大日本文明協会、1926年2月10日(佐藤惣三郎共訳、原著: Samuel Jackson Holmes, *The trend of the race*)
- 『露西亜大観』大日本文明協会、1927年12月25日(原著: Charles Sarolea, *Impressions of Soviet Russia*)
- 『労働の哲学』大日本文明協会、1929年1月15日(原著: Cecil Delisle Burns, *The philosophy of labour*)
- 『世界の統一』大日本文明協会、1931年8月30日(原著: Guglielmo Ferrero, *Unity of the World*)

* 浮田和民・定金右源次訳『自然淘汰に基く人類文化の展開』(大日本文明協会、1929年4月25日。原著: Alfred Martin, *Aspect of Man by Means of Natural Selection*)は、出版の都合で共訳としたもので、実際は定金右源次訳である。

* フィノー『幸福学』(大日本文明協会、1916年2月20日。原著: Jean Finot, *La Science du bonheur*)の再刊『幸福学』(大勝館、1935年4月25日)は、表紙に「浮田和民訳」とあるが、奥付では「開国文化史訳」とある。表紙に「浮田和民訳」とあるのは、文明協会版に、浮田署名の「序」が付されているためと思われるが、浮田の訳書とする積極的な根拠はない。

1.3 講義録

* 東京専門学校または早稲田大学出版部刊行の講義録は、刊行者を省略している。刊行年度は、確認しうる限り、最も早い年度を記した。

『史学原論』[1901年に『史学通論』として刊行、光緒29年に劉崇傑が『史学原論』と題して翻訳、以後『史学原論』となった]

『西洋上古史』

『西洋中世史』

『西洋今代史』明治41年度

『ラッド述倫理学講義』明治40年度

『倫理叢話』明治41年度

- 『倫理学講話』明治 41 年度
- 『社会学』明治 41 年度[早稲田大学(文科)講義録]
- 『応用社会学』日本女子大学通信教育会編、精美堂、明治 42 - 43 年度
- 『東京政治学校講義録 国家学』東京政治学校出版部、明治 35 年
- 『東京政治学校講義録 国家学史』東京政治学校出版部、明治 35 年
- 『国家学』
- 『ツライチユケ氏政治学 上巻』<名著綱要政法理財科>[明 33-34]
- 『政治学史 古代の部』
- 『政治学史 中世の部』
- 『政治学』明治 41 年度
- 『政治原論』明治 44 年度
- 『政治道德論』
- 『最新政治学』[1925 年頃]
- 『多元国家観批判』[『最新政治学』第 5 章、第 6 章を独立させたもの]
- *最近政治学『早稲田大学政治経済講義 2』早稲田大学出版部、1927 年頃<佐賀県立図書館所蔵>

1.4 共著

- 基督の教育主義及び青年の特質[「基督教と青年」]『学生の大会 第一回夏季学校演説集』露無文治編・刊、1889 年 11 月 25 日
- [国語改良について]『国語改良異見』自治館編輯局編、自治館、1900 年 5 月 15 日[『国語改良異見』<資料集成近代日本語<形成と翻訳>第 17 巻>(大空社、2016 年)収録]
- 社会観『先覚詞藻』進藤信義編、鐘美堂刊、1901 年 10 月 7 日
- 社会学綱要『曹洞宗青年夏期講習会講演集』鴻盟社、1901 年 11 月 10 日
- 戦後の社会政策『戦後経営』山本利喜雄編、早稲田大学出版部、1904 年 12 月 26 日[『倫理的帝国主義』収録]
- 公德と私徳の弁『早稲田大学清国留学生部講演』早稲田大学、1905 年 10 月??日
- 政党史『開国五十年史』上巻、大隈重信撰、開国五十年史発行所、1907 年 12 月 25 日
- 民間教育『開国五十年史』上巻、大隈重信撰、開国五十年史発行所、1907 年 12 月 25 日
- 立憲政治の三大要件『憲法記念早稲田講演』早稲田大学編輯部編、同大学出版部、1909 年 3 月 15 日
- 少年と独学『小学校卒業生立身訓』大日本国民中学会編、東京国民書院、1909 年 3 月 25 日
- [社会政策学会第 3 回大会来賓演説]『移民問題』社会政策学会編、同文館、1909 年 6 月 5 日
- 宗教と哲学『国民生活と宗教』東亜研究会編、弘道館、1909 年 7 月 4 日
- 宗教は国民生活の基礎『国民生活と宗教』東亜研究会編、弘道館、1909 年 7 月 4 日
- 宗教と教育『国民生活と宗教』東亜研究会編、弘道館、1909 年 7 月 4 日
- 三宅博士に答ふ『国民生活と宗教』東亜研究会編、弘道館、1909 年 7 月 4 日
- *応用社会学『女子大学講義』第 1 学年第 21 号(女子大学通信教育会 編、精美堂)、1910 年 2 月

- マホメツト論『我処世観』井上泰岳編、博文館、1910年3月25日
- 〔「社会政策より観たる移民問題討議」の中〕『移民問題』[社会政策学会論叢 第3冊]社会政策学会編・同文館、1910年6月5日[1909年12月19日社会政策学会第3回大会第1日於慶応義塾大学講堂]
- 洋学校及同志社時代『現代名士学修法』大岳小峽編、一星社、1910年11月16日
- 男が美か女が美か『四十大家現代女性観』加藤教栄編、日高有倫堂、1911年5月13日
- 新旧思想の衝突『四十大家現代女性観』加藤教栄編、日高有倫堂、1911年5月13日
- 男が女より受くる感化『四十大家現代女性観』加藤教栄編、日高有倫堂、1911年5月13日
- 此頃の人心[談]『南北朝正閏論』史学協会編、修文閣、1911年5月16日
- 国民の道徳『国民教育 東京講演』大隈家編修局編、丁未出版社・宝文閣、1911年7月1日
- 家庭ニ関スル倫理問題『西尾講演集 第一輯』西尾町教育会編・刊、1912年2月15日[『社会と人生』収録]
- 世界の進歩と平和『現代世界思潮』警醒社編輯局編、警醒社書店、1912年5月25日
- 日米新条約『現代世界思潮』警醒社編輯局編、警醒社書店、1912年5月25日
- 我が国教育の成功と欠陥『現代世界思潮』警醒社編輯局編、警醒社書店、1912年5月25日
- 文学美術に於ける宇宙主義『現代世界思潮』警醒社編輯局編、警醒社書店、1912年5月25日
- 余が信仰『現代名家信仰の告白』林碩次編、東京崇文館、1913年5月26日[林有隣編『名士の信仰 修養訓話』(キング書房出版部、1924年)収録]
- 宗教と教育『宗教と教育に関する学説及実際』大谷大学尋源甲斐編、無我山房、1913年11月5日[島菌進編『日本の宗教教育論 復刻 第1巻』(クレス出版、2009年)収録]
- 真教育の方針[科外講演、文責在記者]『現代評論叢書 第一編』現代評論会編、簡易生活社、1914年6月30日
- 歴史上より見たる世界現今の大勢『現代評論叢書 第二編』現代評論会編、簡易生活社、1914年9月28日
- 宗教上の所感『日蓮鑽仰天晴会講演録 第参輯』日蓮鑽仰天晴会、1915年3月6日
- 青年の修養[「名士の修養観」]『現代修養大観』高木斐川編、広文社、1915年5月10日
- 米国の政治『米国研究』教育学術研究会編、同文館雑誌部、1916年11月
- 国際政局の現在及将来『早稲田講演時局研究号』早稲田大学編輯部編、早稲田大学出版部、1917年5月22日
- 国民の道徳『鉄道修養講話 第一輯』鉄道青年会本部、1917年9月21日
- 修養としての読書『現代名家の實行せる学修勉強法』大畑匡山編、岡村書店、1918年5月4日
- 青年立志の三方面『修養世渡の道 現代五十名士講話』近代出版社、1918年10月15日
- 封建制度と男女尊卑『名士の観たる女世渡りの道』島中雄作編、本郷書院、1919年4月15日
- 世界の十字街[談、文責在記者]『太平洋之十字街』<『評論之評論』特別号>評論社、1920年7月26日
- 急がば廻れ『現代の精神修養』春日靖軒編、文武書院、1923年3月20日
- 〔追懐談〕『田中唯一郎君追憶録』前田多蔵編、小久江成一、1923年4月10日
- 人生僅かに三十又六歳『産児制限論』日本薬学協会出版部、1924年11月28日[復刻：『性と生殖の人権問題資料集成 第1巻』(不二出版、2000年)]

世界大勢より見たる日米問題『明治文化の記念と其批判』森脇美樹編、大日本文明協会事務所、1925年3月10日

*結婚せんとする処女へ『花嫁草紙 十五博士 性の講座』<『婦人世界』22-1 別冊付録>1927年1月1日
宗教的君子人(書翰)[綱島佳吉「思出づる事共」の内]『故横井時雄君追悼演説集』卜部幾太郎編、アルパ書店、1928年6月1日

大国民たれ『人生の殿堂』馬場峰月編、帝国講学会、1928年6月25日

ベリー先生の厚意を謝す『日本に於けるベリー翁』大久保利武編、東京保護会、1929年8月10日

婦選の理論化と実際化『婦選問題と婦人の要求』文明協会編・刊、1929年8月30日

青年の覚悟『これからの新しい演説』東京雄弁協会編、大阪堂刊、1930年1月20日[改題『新しい式辞と演説』東京雄弁協会編、大阪堂、1930年1月20日]

少年時代の蘇峰君『蘇峰先生古稀祝賀 知友新稿』蘇峰先生古稀祝賀記念刊行会編、民友社、1931年11月3日

大逆事件の責任判決に総選挙は絶好の機会『臣節蹂躪の犬養内閣』国体擁護聯盟編、春秋社、1932年2月8日

旧友長岡拓君を惜む『長岡教授の面影』長岡記念事業委員会編、三省堂、1932年7月4日

同志社に寄する教育の理想 国家の忠実なる市民と世界の善良なる市民とは同一であらねばならん『我等ノ同志社 同志社創立六十周年記念誌』<同志社校友同窓会報第百号特輯>同志社事業部、1935年10月27日

宗教の現実性と世界大戦の教訓[講演於第42回牧師会]『昭和十年組合教会講演集』日本組合基督教会本部、1936年8月30日

[[海老名弾正葬儀追悼]]『海老名弾正先生』渡瀬常吉著、龍吟社、1938年12月25日[復刻:<伝記叢書108>大空社、1992年]

下村孝太郎君『下村先生追懐録』若松兎三郎編・刊、1938年12月31日

思出の言『小崎全集第四卷 伝道日記』小崎全集刊行会編・刊、1939年2月10日

私の新島先生観『新島先生記念集』同志社校友会編・刊、1940年1月23日

略歴『浮田和民博士記念史学論文集』早稲田大学史学会編、六甲書房、1943年9月20日

外遊感想談[1921年4月27日婦一協会4月例会講演概要(於如水会館)]『渋沢栄一伝記資料』第46巻、1962年[p.647-649]「(婦一協会)協会記事四」の中]

増田明六宛書翰4通[1926年9月23日、12月1、6、12日]『渋沢栄一伝記資料』第57巻、渋沢栄一伝記資料刊行会、1964年12月20日

福沢氏と徳富氏『熊本バンド研究』同志社大学人文科学研究所、みすず書房、1969年8月15日

[一九二五年十二月、著名文化人への産児調節に関するアンケートに対する回答]『山本宣治全集第七巻 書簡集』汐文社、1979年12月20日

1.5 序文類

- 島田三郎君の如是我観を読む『如是我観 政教概論』島田三郎著、警醒社、1902年5月27日
- 序『欧米人の日本観』上巻、大日本文明協会編・刊、1908年10月1日
- 社会政策二論 全序『社会政策二論』イリー、ル・ラッシグナル著(安部磯雄・井上芳麿訳)、大日本文明協会、1909年1月10日
- 序『第二十世紀予想論』ウェルズ著(吉村大次郎訳)、大日本文明協会、1909年3月31日
- 序『八面鋒 朝野の政治家』中野正剛著・博文館、1911年10月28日
- 序『欧米人の極東研究』大日本文明協会編・刊、1912年10月1日
- 序『伊太利及伊太利人』ツィンメルン著(岸本能武太訳)、大日本文明協会、1912年11月1日
- 序『世界的米合衆国』クーリッジ著(瀧山良一訳)、大日本文明協会、1913年7月10日
- 跋『十九世紀欧洲政治思想史 附第二十世紀論』マクファーンソン、ウェルズ著、文明協会、1914年10月10日[ウェルズ『第二十世紀予想論』に寄せた「序」の転載]
- 序『独逸世界政策』ビューロー他著(杉山重義他編編)、大日本文明協会、1915年2月10日
- 序『幸福学』フィノー著、大日本文明協会、1916年2月20日
- 序『現代社会心理』マクスウェル著、大日本文明協会、1916年10月25日
- 序『暗黒面の独逸』ハルセーユ著、大日本文明協会、1917年3月15日
- 序『能力の研究』ドレッサー著、大日本文明協会、1917年9月25日
- 序『経済的道德主義』スミス著(田中達・蒲生治郷訳)、大日本文明協会、1918年8月10日
- 序『社会問題』タウン著(堀江湖訳)、大日本文明協会、1919年1月15日
- 『文明と女性』に寄す『文明と女性』ブラッドベリー著、大日本文明協会、1919年1月25日
- 序『歴史の精神的解釈』マシューズ著(田中達訳)、大日本文明協会、1919年2月15日
- 序『文明の極致』ウォルシュ著(伊勢泉蔵訳)、大日本文明協会、1919年4月30日
- 序『性的知識』ロビンソン著、大日本文明協会、1919年6月30日
- 序『新理想国』ヒューズ著、大日本文明協会、1919年9月6日
- 序『三重組織の国家と責任国家論』シュタイナー、ギディングス著(坂本義雄・鹽見清訳)、大日本文明協会、1922年3月10日
- 序『近代英国社会主義史』ベアー著(小島幸治訳)、大日本文明協会、1922年9月15日
- 巻頭言『無限生活』トゥライン著(塚越菊治訳)、大日本文明協会、1923年2月10日
- 序『如何にして希望を達す可きか』マーデン著(上谷統訳)、実業之日本社、1923年3月13日
- 序『社会理想学』コール著(竹内泰訳)、大日本文明協会、1924年3月20日
- 序『政局は斯くして動く』ビスマルク著(定金右源二訳)、大日本文明協会、1924年11月25日
- 序『聚団心理』マクドゥーガル著(宮沢末男訳)、大日本文明協会、1925年5月30日
- 序『現代政治の社会化及産業化』デュギー著(吉田作弥訳)、文明協会、1926年7月5日
- 序『戦機は斯くして動く：次の戦争の原因』パークリス著(石丸藤太訳)、文明協会、1927年9月25日
- 邦訳序文『北米合衆国』シーグフリード著(藤井新一・藤井千代子訳)、文明協会、1931年7月30日

1.6 没後刊行書

『世界大戦全局観』池田美代二編、非売品、1962年9月25日

『政治学 法学博士浮田和民遺稿』池田美代二編、非売品、1973年10月28日

『浮田和民論集』池田美代二編、非売品、1978年10月28日

2. 評論等(新聞・雑誌掲載)<1534 篇>

1878 (明治 11) 年

源因論『七一雑報』3-42、10月18日

1879 (明治 12) 年

二の終、二の道『七一雑報』4-8、2月21日

愛ノ理『七一雑報』4-36、9月5日

弁駁『七一雑報』4-42、10月12日

学の理『七一雑報』4-50、12月12日

1880 (明治 13) 年

奇蹟論『七一雑報』5-7、2月13日

理学史伝ノ概略『七一雑報』5-22~24、27~29、31、34、37、38、40、44、45、47、50~52、6-13、15~23、5月28日、6月4、11日、7月2、9、16、30日、8月20日、9月10、17日、10月1、29日、11月5、19日、12月10、17、24日、1881(明治14)年4月1、15、22、29日、5月6、13、20、27日、6月3、10日

1881 (明治 14) 年

心意論『六合雑誌』6、3月19日

物質ト心意ノ要理ヲ論ズ『六合雑誌』8、5月25日

1883 (明治 16) 年

英雄ト学者ノ異同ヲ論ズ『六合雑誌』36、8月30日

学問ノ要領ヲ論ズ『六合雑誌』37~39、9月29日、10月30日、11月30日

1884 (明治 17) 年

婦人ノ地位ヲ論ズ『六合雑誌』41、1月30日

進化説ト有神論ノ關係『六合雑誌』42、44~46、2月29日、5月2日、6月2日、7月2日[池本吉治編『基督教及哲学』<基督教文学 第2集>(警醒社 1889年)収録]

思想進化論『六合雑誌』49、12月2日

1885 (明治 18) 年

社会道徳論『六合雑誌』53、55、56、4月30日、6月30日、8月31日

1886 (明治 19) 年

文明ノ前途『六合雑誌』64、69、70、4月26日、9月30日、10月30日

心理学講義『六合雑誌』64～68、70～76、4月26日、5月30日、6月30日、7月31日、8月31日、10月30日、11月30日、12月30日、1887年1月31日、2月28日、3月31日、4月30日

1887 (明治 20) 年

文備拡張論『同志社文学雑誌』1、3月12日

演説文章の効用『同志社文学雑誌』2、5月21日

英雄崇拜論『国民之友』6、7月15日

1888 (明治 21) 年

史学ト哲学ノ関係『DOSHISHA 文学会雑誌』10、2月28日

新経済学『DOSHISHA 文学雑誌』14、6月20日

宗教上の遺伝説『六合雑誌』96、97、12月15日、**1889年**1月15日[池本吉治編『基督教及哲学』<基督教文学 第2集>(警醒社 1889年)収録]

1889 (明治 22) 年

尊皇奉仏大同団を駁す『国民之友』43、3月2日

我は途なり真なり生命なり[説教(於同志社学院礼拝堂)]『青年之手綱』6、3月21日

[[書目十種]]『国民之友』49、5月2日

礼記と哥林多前書『[同志社]文学雑誌』22、5月30日

朗読(路加四〇十八) 警者はみ跛者はあゆみ癩病人は潔まり聾者はきゝ死たる者は復活され貧者は福音を聞せらる[説教(於同志社礼拝堂)、T.I.生筆記]『反響 説教演説集』12、6月14日

汎神教を論ず『六合雑誌』102、6月15日[池本吉治編『基督教及哲学』<基督教文学 第2集>(警醒社 1889年)収録]

白楽天と聖書『[同志社]文学会雑誌』23、6月17日

基督教ト日本青年『DOSHISHA 文学会雑誌』24、7月31日

1890 (明治 23) 年

国民新聞の発行を祝す『国民新聞』1、2月1日

浮田末子の履歴及び志望『国民之友』73、2月13日

記念碑流行の弊害『国民新聞』19付録、2月19日

同志社の発起者設立者及び創業者『国民之友』78、4月3日

同志社の発起者設立者及び創業者『DOSHISHA 文学会雑誌』32、4月25日

英雄の商売替『DOSHISHA 文学会雑誌』34、7月5日

道徳之起原『六合雑誌』116、117、119、8月16日、9月15日、11月15日

真理之愛『DOSHISHA 文学会雑誌』38、12月31日

1891 (明治24) 年

教育の目的『同志社文学会雑誌』40、41、2月28日、3月25日

教説と信仰の分離『六合雑誌』124、4月15日[『社会と人生』収録]

人生の目的『国民之友』118、5月13日

筋骨的基督教『同志社文学会雑誌』44、6月30日

金森通倫氏の基督教論『六合雑誌』128、8月15日

聖書研究の方法『聖書之友月報』45、9月15日

記念文庫開設につきて『同志社文学会雑誌』47、10月31日

恩寵と真理『同志社文学雑誌』49、12月20日

1892 (明治25) 年

天然超自然説『六合雑誌』134、2月15日[『倫理的帝国主義』収録]

日本道徳論『国民之友』156、6月3日[『倫理的帝国主義』収録]

宗教哲学[ラッド講演訳]『同志社文学』55、56、6月20日、8月5日

日本及び日本に於る基督教『六合雑誌』139、7月15日[『倫理的帝国主義』収録]

基督教の本領『六合雑誌』141、9月15日

超然的宗教『九州文学』28、29、10月10日、11月10日

日本号に就て『中央学術雑誌』7、11月15日

立憲国に於ける教育の方針『国民之友』174、175、12月3、13日

1893 (明治26) 年

帰郷後のヂェンス先生『九州文学』34、35、4月15日、5月15日[(『日本ニ於ケル大尉ヂェンス氏』(警
醒社書店、1894年3月21日)収録]

帰郷後のヂェンス先生『六合雑誌』149、5月15日

米国の宗教及び道徳『国民之友』206、207、10月13、23日[『倫理的帝国主義』収録]

1894 (明治27) 年

建設の時代将に來らんとす『同志社文学』78、6月23日

人種と文明の関係『同志社文学』78、6月23日

外国宣教師論『六合雑誌』164、8月15日[『倫理的帝国主義』収録]

新日本建設の要素『国民之友』235、9月13日

1895 (明治28) 年

教勢不振の原因『六合雑誌』169、1月15日[『倫理的帝国主義』収録]

宗教衰微の原因『六合雑誌』176、8月15日[『人格と品位』収録]

1896 (明治29) 年

新日本の大問題『国民之友』277、1月4日

基督の基督教『六合雑誌』182、2月15日[『人格と品位』収録]

Christendom vs Heathendom, “*The Far East*” 1-1, Feb. 20

歴史と宗教『六合雑誌』187、7月15日[『倫理的帝国主義』収録]

Mr. Ukita and the Doshisha, *The Japan Weekly Mail*, Sept. 12

1897 (明治30) 年

校友会員諸君に呈するの書『[同志社]校友会報』1、2月14日

方今道德界の要務『六合雑誌』198、6月15日[『倫理的帝国主義』収録]

On the Study of History, from the Standpoint of an Oriental Student, “*The Far East*” 2-7, July. 20.

歴史上の見解及び日本の地位『早稲田学報』5、7月31日

社会上の無政府『国民之友』360、8月7日[『倫理的帝国主義』収録]

社会上の問題『六合雑誌』200、8月15日[『倫理的帝国主義』収録]

倫理思想の進歩『宗教』71、9月5日[『人格と品位』収録]

国民の国家国民の政府『国民之友』362、10月10日[『倫理的帝国主義』収録]

宗教と政治『国民之友』362、10月10日[『倫理的帝国主義』収録]

校友会員に告ぐ『[同志社]校友会報』3、10月31日

国家の真意義『国民之友』363、11月10日[『倫理的帝国主義』収録]

宗教界と人物[談話大要]『福音新報』128、12月9日

国民教育の理想『国民之友』364、12月10日[『倫理的帝国主義』収録]

1898 (明治31) 年

極東に於ける時勢の徴候『国民之友』367、3月10日[「国民将来の運命」と改題『倫理的帝国主義』収録]

多髯子の同志社問題論を駁す『万朝報』1623、4月8日
同志社問題『新世紀』1-3、4月10日
社会道德の進化『国民之友』370、6月10日
文明史上の問題『早稲田文学』7-12、号外、9月3日、10月8日[『倫理的帝国主義』収録]
歴史上に於ける重細重の地位『早稲田学報』20、10月25日
教育の過去現在及将来『教育公報』217、11月25日[『人格と品位』収録]
欧州現時之社会観[講演筆記]『六合雑誌』215、11月25日

1899 (明治 32) 年

理想的青年の特質[「寄書」]『青年日本』3、1月5日
理想的青年の特質[「青年日本」から転載]『基督教新聞』807、808、2月3、10日
社会の社会的観察[講演大要]『教育公報』221、3月15日
社会の社会的観察『社会』3、3月20日
学校教育と社会教育『早稲田学報』29、7月28日
教育上に於ける歴史の効用『教育公報』226、227、8月15日、9月15日[『人格と品位』収録]
加藤弘之先生の政治哲学を論ず『太陽』5-20、9月5日[『倫理的帝国主義』収録]
ラッド先生の来朝『教育公報』227、9月15日
自由教育の感化[ラッド講演訳]『早稲田学報』32、10月10日
[心理学講義閉会式に於けるラッド博士の挨拶への答辞]『教育公報』228、10月15日
習慣と品性との関係[ラッド講演訳]『躬行会雑誌』7、11月21日
習慣と品性との関係[ラッド講演訳]『六合雑誌』228、12月15日
再び加藤弘之先生の学説を論ず『太陽』5-27、12月20日[『倫理的帝国主義』収録]

1900 (明治 33) 年

社会観『国民新聞』3000、1月1日
第二十世紀の政治問題『読売新聞』1月1~3日
国家と宗教『東京毎週新誌』856、1月22日[『社会と人生』収録]
方今倫理界の二大急務『丁酉倫理会講演集』1、2、5月13日、6月28日[『人格と品位』収録]
新日本の建設[講演筆記]『教育公報』236、6月15日[『倫理的帝国主義』収録]
帝国教育会夏期講習会社会学講義綱領『教育公報』237、7月15日
[「少年の読書に関する意見」]『今世少年』1-4、7月23日
社会上の理想『社会』16、17、7月20日、8月20日

日本現今の社会道徳『上毛教界月報』22、23、8月20日、9月24日
[「夏季講習会証明状授与式」中の「告辞」]『教育公報』239、9月15日
社会的靈魂不滅説『警世』2、11月10日[『倫理的帝国主義』収録]
国家と宗教の關係『教育學術界』2-2、12月3日[『倫理的帝国主義』収録]

1901 (明治 34) 年

第十九世紀の政治的発達『東京毎週新誌』906、1月1日
社会精神の開發[講演筆記]『中学世界』4-1、2、1月10日、2月10日
第十九世紀の政治的発達『教育公報』243、1月15日
第二十世紀社会觀察の一端『新人』1-8、3月1日
第二十世紀の社会観『二十世紀』1、3、4、3月3日、6月29日、7月25日
日本の帝国主義『国民新聞』3394、3395、4月7、9日[『帝国主義と教育』収録]
帝国主義[講演大要]『東亜同文会報告』19、6月1日
国民の品性『日本人』140、6月5日[『倫理的帝国主義』収録]
歴史の研究『早稲田学報』54、6月25日
帝国主義の教育『国民新聞』3465～3471、6月29、30日、7月2～6日[『帝国主義と教育』収録]
帝国主義の教育『教育公報』249、7月15日[『国民新聞』より転載]
歴史哲学の問題『哲学雑誌』175、9月10日[『倫理的帝国主義』収録]

1902 (明治 35) 年

帝国主義の理想『国民新聞』3625～3636、1月10～12、14～19、21～23日[『国民教育論』収録]
活学問の必要『中学世界』5-2、2月10日[「学問の活用」と改題『學術講話集』(軍人講学会編・刊、1904年11月20日)収録]
社会主義に対する余の態度『労働世界』4、5、5月3、13日
第一九世紀の英国『中等教育』1、3、5月17日、7月18日[『歴史講話』収録]
史家の基督観『新人』3-1、8月1日[『人格と品位』収録]
偉大なる国民の特性『太陽』8-10、8月5日[「国民の品性」と改題『倫理的帝国主義』収録]
教育者の精神及任務[演説大要]『国民新聞』3812、8月20日
鉄血宰相ビスマルク『中等教育』5、6、9、11、9月10日、10月10日、12月10日、**1903年**2月10日[『歴史講話』収録]
教育者の精神及任務『教育公報』264、10月15日[『人格と品位』収録]
基督教と社会学『上毛教界月報』48、10月15日
一千号の発刊を祝し併せて所感を述ぶ『東京毎週新誌』1000、10月24日

歴史の効用に就て『中央教育』7<臨時増刊『講話集』>10月25日

教育者の精神及任務[『教育公報』より転載]『吾妻教育会雑誌』167、168、11月1日、12月1日

社会主義と基督教[演説概要摘記]『労働世界』21、11月3日

1903 (明治36) 年

基督教と社会問題『新人』4-1、1月1日[『新道徳論』収録]

青年時代の修養『中学世界』6-1、1月1日

新年所感[「名家時論」]『警世』48、1月10日

歴史の効用『中等教育』10、1月10日

[「現今の小学校に最も希望するもの」]『日本之小学教師』5-49、1月12日

ダルヴィニズムと基督教『警世』52、3月10日

ナポレオン第一世『中等教育』12、16、3月10日、6月10日[『歴史講話』収録]

基督教と社会問題『上毛教界月報』53、3月15日

社会進化の三時期『日本人』183、184、3月20日、4月5日[『倫理的帝国主義』収録]

開会の辞『中等教育』13<臨時増刊『第二講話集』>3月25日

青年の修養『国土』57~59、6月20日、7月20日、8月20日[『人格と品位』収録]

将来之宗教(廿七)『新仏教』4-7、7月1日[新仏教徒同志会編『将来之宗教』(新仏教徒同志会出版部、1903年)、『社会と人生』収録]

満州に処する道『太陽』9-9、8月1日

帝国主義の倫理『教育界』2-11、12、9月3日、10月3日[『倫理的帝国主義』収録]

文部省存廃の利害に就て『教育時論』663、9月15日

新年祈思『警世』48、10月1日

日露開戦論と満朝交換論の得失に就いて『太陽』9-11、10月1日

第一世ナポレオンの功業『中等教育』2-6、14、10月10日、1904年4月10日[『歴史講話』収録]

将来の宗教『六合雑誌』274、10月15日

史学研究法を読む『早稲田学報』93、11月25日

*読書法と修養『成功』3-3、12月10日

教育の新意義[1903年8月講演筆記於帝国教育会夏季講演会]『教育公報』278、12月15日

1904 (明治37) 年

進歩的楽天主義『新人』5-1、1月1日[『人格と品位』収録]

[「名士選択の『品性修養書』」]『成功』3-4、1月1日

日本国民の二大弱点『独立評論』2-1、1月3日
帝國的社會主義『國家學會雜誌』203、1月20日[『倫理的帝國主義』収録]
戦争と教育『中央公論』19-1、2月1日[『倫理的帝國主義』収録]
日本の外交政策『時代思潮』1、2月11日[『倫理的帝國主義』収録]
青年訓一則『丁酉倫理會倫理講演集』17、2月15日[『人格と品位』収録]
国民の修養と外交の方針『警世』77付録、3月25日
浮田先生演説の概要(紀元節祝賀式に於ける)『早稲田興風會雜誌』8-1、3月23日
道徳上の修養『早稲田學報』100、4月25日
道徳上の修養[講演筆記於早稲田大學土曜講話會]『をんな』4-5、5月15日
日露戦争と國際法『新人』5-7、7月1日[『倫理的帝國主義』収録]
青年と宗教『中學世界』7-9、7月10日
日本国民の特長と學生の理想『早稲田興風會雜誌』8-2、7月18日
生存主義の道徳『丁酉倫理會講演集』23、8月15日[『倫理的帝國主義』収録]
所謂大和魂の一面=武士道の形成『新潮』1-6、10月10日
日露戦争の倫理觀『毎日新聞』10月14~18日[『倫理的帝國主義』収録]
文學博士井上哲次郎君の批評に答ふ『日本』5473、10月22日[秋山梧庵編『現代大家武士道叢論』(博文館、1905年)収録]
日露戦争と教育[演説速記]『日本』5482、10月31日
演説速記弁明書『日本』5482、10月31日
[「青年の讀物」]『青年界』3-12、11月1日
日露戦争の倫理觀『時代思潮』10、11月5日
社會改良の方法『新人』5-12、12月1日[『倫理的帝國主義』収録]
西教史上の一節を見て感あり『早稲田興風會雜誌』8-3、12月10日
歴史上の基督教『基督教世界』1112、12月22日

1905 (明治 38) 年

神の王国『福音新報』497、1月2日[『人格と品位』収録]
人間の品位『新人』6-4、5、4月1日、5月1日[『人格と品位』収録]
國際上の道徳『早稲田學報』117、5月1日[『社會と人生』収録]
帝國主義の政策と道徳『丁酉倫理會講演集』32、5月15日[『倫理的帝國主義』収録]
*現時の青年『國民評論』5月[『人格と品位』収録]
浮田和民氏談片『家庭週報』25、6月3日
公開狀『向上主義』10、8月1日

- 理想的青年の精神『早稲田学報』121、8月1日[『人格と品位』収録]
将来の国民教育『向上主義』11、8月15日
*女学生攻撃、女子新教育『ムラサキ』1-3、9月1日
東西家庭の長短『家庭之友』3-6、9月3日
戦後の国民(日露戦争の効果如何)『時代思潮』21、10月5日[「日露戦争の効果如何」と改題『倫理的帝国主義』収録]
新聞紙第三面論『丁酉倫理会講演集』37、10月15日[『倫理的帝国主義』収録]
慈善事業の真意義に就いて『人道』6、10月15日
女子の理性[演説筆記抄(於女子教育演説会)]『やまと新聞』[ホノルル刊行の邦字新聞]10月23日
新島襄君の人格[談]『成功』7-6、11月1日
言論の自由『日本人』422、11月5日
「偉大になる」と云ふ事の真意義『早稲田興風会雑誌』9-3、11月??日[『人格と品位』収録]
年末の教訓『家庭之友』3-9、12月3日
女子の天職[於本郷教会婦人講演会]『婦女新聞』292、12月11日
模範人物たる尊徳翁『人道』8、12月25日[留岡幸助編『二宮翁と諸家』(人道社、1906年)収録]

1906 (明治 39) 年

- 婦人の天職『新人』7-1、1月1日[『人格と品位』収録]
欧米に比較なき美点[「日本婦人の美点」]『婦人世界』1-1、1月3日
婦人の天職[講演概要於本郷教会婦人会]『婦人新報』105、1月25日
[「経験の教訓 現代名家座右銘」]『実業之日本』9-3、2月1日
日本の憲法政治『太陽』12-2、2月1日[『倫理的帝国主義』収録]
女子教育の方針『教育学术界』12-5、2月5日[『人格と品位』収録]
偉傑マホメツトの人格[談]『成功』8-5、3月1日
[「予の愛読書」]『中央公論』21-3、3月1日
団体的交際[「男女交際」]『ムラサキ』2-3、3月1日
*女子の天分に就て『女子教育』3-[3]、4、[3月1日]、4月1日
選挙権拡張の標準及其範囲[「論説」]『毎日新聞』3月7日
[「当代学生の欠点」]『中学世界』9-3、3月10日
先づ基礎を樹てよ[「成功指針」]『実業世界太平洋』5-6、3月15日
我国に輿論あるか[演説大意於国民作新会「雑録」]『開拓者』1-3、4月1日
男女交際に就て『中央公論』21-4付録、4月1日

「宗教と理性 浮田和民氏」インタビュー『早稲田文学』4、4月1日[「早稲田文学記者に語りたる見神の実験に対する意見」と題して宇佐見英太郎編『見神論評』（金尾文淵堂、1907年4月25日）抄録]

学校と家庭の連絡[3月24日講話於聖坂母の会]『家庭之友』4-1、4月3日

戦後に於ける青年と教育『活動之日本』3-8、4月15日

人生に於ける宗教の意義『大阪講壇』66、67、4月20日、5月20日

*立憲政治と教育の方針『教育時報』16、4月[『倫理的帝国主義』収録]

*第二十世紀の政治問題『膨張之日本』4月[『倫理的帝国主義』収録]

青年男女の交際『丁酉倫理会講演集』44、5月15日[『人格と品位』『婚姻1』<家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇 第17巻>(クレス出版、2001年)収録]

我国に輿論あるか『新人』7-6、6月1日

成功とは何ぞや『早稲田興風会雑誌』10-1、6月4日[『人格と品位』収録]

戦後の政党『太陽』12-9、6月15日[『倫理的帝国主義』収録]

将来の文明に対する歴史上の観察『大阪講壇』68～71、6月20日、7月20日、8月20日、9月20日[『社会と人生』収録]

社会教育論『新時代』1-1、2、7月1日、8月1日

毎日新聞の改題を祝す『東京毎日新聞』11146、7月1日

学生の墮落とは何ぞや(敢て学生諸子の一読を煩はす)『中学世界』9-9、7月10日

新聞を選ばせよ[「家庭と新聞紙」]『文章世界』1-7、9月15日

「文相訓令に対する意見」『早稲田文学』10、10月1日

日本人排斥問題[演説大要(於国民作新会)]『衛生新報』59、11月10日

己れに適する学問及職業撰定法『実業之日本』9-24、11月15日

社会主義と教育『学生タイムス』9、12月15日

1907 (明治40) 年

写実と理想『演芸画報』1-1、1月1日[復刻版『演芸画報 明治篇 第一巻』(三一書房、1977年)収録]

浮田和民氏(娯楽信仰及文芸)『家庭文芸』1-1、1月1日[稲田薄光編『家庭文芸名論卓説』(日高有倫堂、1909年)収録]

社会主義と教育『新時代』2-1、2、1月1日、2月1日[『倫理的帝国主義』収録]

輓近教育の傾向[ラッド講演訳]『教育公報』316、2月15日

紀元節について『麻布中学校々友会雑誌』23、3月25日

「国字国語問題」『早稲田文学』16、4月1日

社会理想の進化[4月1、2日講演筆記於日本組合教会教役者修養会]『基督教世界』1233、1235、4月18日、5月2日[加藤直士編『最近思想と基督教』(基督教世界社、1907年10月15日)収録]

福沢翁の人格『実業之日本』10-9、5月1日

- 人格の三要素[講演筆記]『毎日電報』1273、5月18日
靈魂不滅論『新人』8-6、6月1日[『人格と品位』収録]
暑中休暇に就て『家庭之友』5-5、8月3日
偉大なる文芸は如何にして起る乎『早稲田文学』22、9月1日[『倫理的帝国主義』収録]
労働問題の前途『新時代』3-3、9月10日[『倫理的帝国主義』収録]
現代社会の理想『丁酉倫理会講演集』60、9月10日[『倫理的帝国主義』収録]
*時事評論『宇宙雑誌』5、9月15日
余は如何にして一日を送る乎『家庭之友』5-8、10月18日
能弁の準備[談話筆記]『学生タイムス』3-9、11月1日
倫理上より見たる自殺『青年之友』1-1、11月10日
[「現代名家幼児の記憶」]『少年時代』13-15、11月15日

1908 (明治 41) 年

- 耶蘇基督と世界の歴史『開拓者』3-1、1月1日[『社会と人生』収録]
将来の日本に関する三大疑問『太陽』14-1、1月1日[『倫理的帝国主義』収録]
人格教育『早稲田学報』156、2月1日[『人格と品位』収録]
余が不朽観『新人』9-4、4月1日[『人格と品位』、宗教大会事務所編『宗教大観』(仏都新報社、1908年)収録]
世界の平和と国家『中央公論』23-4、4月1日
書中の美人に惚れる[談]『東西南北』2-4、4月1日
国家と宗教『丁酉倫理会講演集』67、4月10日[『倫理的帝国主義』収録]
浮田博士の長寿談 百廿五歳は生理の原則に合す[談]『日布時事』4月25日
男女両性の優劣[4月5日於大阪教会講演]『家庭雑誌』1、5月1日
男女の自制力[談]『ムラサキ』5-5、5月1日
結婚法の改良『婦女新聞』419、5月18日
講壇の人としての経歴[名流経歴談]『文章世界』3-7、5月25日
天分と修養『東西南北』2-6、6月1日
[「人種問題」]『太陽』14-9、6月15日
真理とは何ぞや『新人』9-7、7月1日
宗教の定義『道』5、9月1日[『社会と人生』収録]
宗教とは何ぞや『基督教世界』1308、9月24日[『社会と人生』収録]
我国教育の将来[講演於京都市教育会]『京都教育時報』4[附録]、9月25日

地方雑感『早稲田学報』164、10月5日
国民道徳論『埼玉新報』2481、2483～2488、10月29、31日、11月1、4～8日
理想と現実『新人』9-11、11月1日[『倫理的帝国主義』収録]
儒教の復興を論ず『中央公論』23-11、11月1日[『倫理的帝国主義』収録]
女子と商業道徳[於日本女子商業学校記念式]『婦女新聞』444、11月13日
基督の基督教『新人』9-12、12月1日
最近に起るべき婦人界の変動[談話筆記]『婦人くらぶ』1-3、12月1日

1909 (明治 42) 年

新時代の親と子『家庭雑誌』2-1、1月1日
人格満足主義『新人』10-1、1月1日
平凡、不勉強、友達の感化『中学世界』12-1、1月1日
国民としての成功『日本及日本人』500、1月1日[『倫理的帝国主義』収録]
家庭の主人としての感想『婦人之友』2-1、1月1日
*基督の天国『仏陀の光』2-1、1月1日
博士は世界的武士道鼓吹の最適任者[「名士は新渡戸博士と我社との新関係を如何に見るか」]『実業之日本』
12-2、1月15日
*社会教育論『有声』30、1月[『倫理的帝国主義』収録]
太陽の読者に告ぐ『太陽』15-2、2月1日
国民教育と宗教的教養『基督教世界』1326、2月4日
人格と品位『基督教世界』1327、2月11日
家庭の経典とは何か『家庭雑誌』2-3、3月1日
共に憂ひ共に楽しむ事を念とせよ[「余は日本の富豪に如何なる事を望むか」]『実業之世界』6-3、3月1日
女子教育の方針[講演筆記]『女鑑』19-3、3月1日
一学校の盛大なるを望まず数多の学校の興らんことを望む『女学世界』9-4、3月1日
米国に於ける排日問題『太陽』15-4、3月1日[『文明の世』収録]
虚栄の為に結婚する婦人『婦人画報』24、3月1日
女子の教育『家庭之友』6-12、3月3日
第二十世紀の憲法政治『太陽』15-5、4月1日[『文明の世』収録]
将来の政党『太陽』15-6、5月1日
近年は風邪といふもの引いた事なし『実業之日本』12-11、5月15日
国民の品性[「修養」]『新声』20-5、6月1日
チャールズ、ダルウインの誕生百年祭に就て『太陽』15-8、6月1日

- 不朽的人格[「青年訓」]『道』14、6月1日
- 宗教及道徳の進化『基督教世界』1343、1344、6月3、10日[福永文之助編『回顧二十年』(警醒社、1909年10月15日)収録]
- 現代の婦人問題『新女界』1-4、7月1日
- 沢柳政太郎氏の「退耕録」を読む『太陽』15-10、7月1日
- 現時の青年に告ぐ『太陽』15-11、8月1日
- 教育上の立憲制度『太陽』15-12、9月1日
- 廿世紀の基督教『新人』10-10、10月1日[『社会と人生』収録]
- 実業家諸氏の渡米と日米関係『太陽』15-13、10月1日
- 社会教育の二問題『教育学術界』20-2、10月20日
- 女子の精神は何処に発現せらるゝか『家庭』1-9、11月1日
- 井伊大老直弼を論ず『太陽』15-14、11月1日
- 日本人の道徳観念『太陽』15-14、11月1日[「新日本の道徳」と改題『社会と人生』収録]
- 廿世紀宗教と日本教会[「宗教」]『道』19、11月1日
- 家康の遺訓に就いて『早稲田興風会雑誌』13-3、11月??日
- 女子教育に就て『新女界』1-9、12月1日
- 女子教育の主眼『新仏教』10-12、12月1日
- 東西文明の融合『太陽』15-16、12月1日
- 「工場法案と世論」『実業之横浜』6-26、12月15日

1910 (明治43) 年

- 天才と教育との関係[12月13日講演於帝国育英義会「最近講壇」]『開拓者』5-1、1月1日
- 天才と教育『新人』11-1、1月1日
- 英国近時の政局に就て『太陽』16-1、1月1日
- 義士の解釈『日本及日本人』524、1月1日
- 一般の婦人に有たせたま健全な思想『婦人画報』36、1月1日[『社会と人生』収録]
- 教育界に希望す『帝国教育』330、1月10日
- 「新島先生二十年紀念」『同志社時報』62、1月25日
- 「雑録 諸名士の遊戯と運動と読書」『開拓者』5-2、2月1日
- 工場法制定の必要『太陽』16-3、2月1日
- 学制改革の根本問題『太陽』16-3、2月1日
- 国民発展の大理想[文責在記者]『兵庫教育』244、2月1日

実業界の独立『商工世界太平洋』9-5、3月1日
英独及び日米の関係『太陽』16-4、3月1日
選挙権を拡張せよ『太陽』16-4、3月1日
政治と教育との関係『早稲田学報』181、3月1日
東西文明の融合『丁酉倫理会講演集』91、3月10日[『社会と人生』収録]
[「女子高等教育に対する諸名家の意見」]『家庭』2-4、4月1日
実業上の帝国主義『商工世界太平洋』9-7、4月1日
政治と教育『太陽』16-5、4月1日
Anglo - German relations and the relation between Japan and United States『太陽』16-5、4月1日
青年の修養『早稲田学報』182、4月1日
日本風と西洋風の優劣『新家庭』2-4、4月3日
現代生活の研究『基督教世界』1389、4月21日
工場法と武士道『商工世界太平洋』9-9、5月1日
児童の宗教教育『新人』11-5、5月1日
南米の将来と今後の移民政策『太陽』16-6、5月1日
大隈伯の「国民読本」を読む『太陽』16-6、5月1日
独逸人の此の商略を学べ『商工世界太平洋』9-11、6月1日
現代生活の研究『太陽』16-8、6月1日
自殺、暗殺及び復讐の悪徳を論ず『太陽』16-8、6月1日
The future of south America and our emigration policy『太陽』16-8、6月1日
実業家の海外発展策『商工世界太平洋』9-13、7月1日
余の新仏教観『新仏教』11-7、7月1日[『社会と人生』収録]
武士道に関する三種の見解『太陽』16-10、7月1日
模範的教育家『太陽』16-10、7月1日
Bushido and its defects in three different lights『太陽』16-10、7月1日
Suicide, assassination and Colonel Roosevelt『太陽』16-10、7月1日
加州労働局の日本移民調査の結果『商工世界太平洋』9-15、8月1日
完全なる健康『太陽』16-11、8月1日
米人シンクレエル氏の断食療法に就て『太陽』16-11、8月1日
如何にして成功し得べきや『鉄道青年』2-8、8月1日
歴史研究の精神『早稲田講演』4、8月20日
社会学より見たる今後の婦人『家庭』2-9、9月1日

- 現時の生活難『商工世界太平洋』9-17、9月1日
- 人種改良論『太陽』16-12、9月1日
- 白瀬中尉の南極探検に就て『太陽』16-12、9月1日
- 青年の陥り易き悲観思想『中学世界』13-11、9月10日
- 宗教と奈翁一世『学生』1-6、9月15日
- 新道徳論『早稲田講演』5~7、9月20日、10月20日、11月20日[『新道徳論』収録]
- 新商業道徳『商工世界太平洋』9-19、21、23、10月1日、11月1日、12月1日[「新商業道徳の二原則」と改題『新道徳論』収録]
- 韓国併合の效果如何『太陽』16-13、10月1日
- 国际上無比の平和『太陽』16-13、10月1日
- The Peace of the world as affected by the problem of China『太陽』16-13、10月1日
- 破壊思想の取締『大阪毎日新聞』10月4日[『法律世界』72、10月20日、『実業之横浜』7-23、11月1日に転載]
- 国家を持たぬ結合力『読売新聞』10月4日
- 文化的大国民の抱負『早稲田興風会雑誌』14-3、10月13日
- 何故に青年は都会に集らんとするか『[再刊]青年之友』1-1、10月15日
- ロ氏と米国[談]『布哇殖民新聞』213、10月24日
- 世界平和の目的は如何にして成就せらる可きか『平和』1-1、10月[『平和論集』(大日本平和協会編・刊、1911年12月9日)、『近代日本「平和運動」資料集成 第2巻』(不二出版、2005年)、『近代日本「平和運動」資料集成 付録』(不二出版、2005年)収録]
- 葡萄牙国の過去及び将来『太陽』16-14、11月1日
- Annexation of Korea and its Practical Effects『太陽』16-1、11月1日
- 世界的に同化せよ『雄弁』1-10、11月1日[『名家講話集』第2編(帝国軍事協会編・刊、1912年5月30日)収録]
- 日本に対する世界の誤解『太陽』16-14、16、11月1日、12月1日[『文明の世』収録]
- 青年の今昔に就て『実業世界』37、11月3日
- 実業の道徳『茶業界』5-8、11月25日
- 新国民の修養『精神修養』1-3、12月1日
- 米国政治上の危機『太陽』16-16、12月1日
- Misunderstanding of Japan by the West『太陽』16-16、12月1日
- デビス先生の永眠を弔す『同志社時報』72、12月25日
- The History of political parties in Japan, *Fifty Years of New Japan*, vol. 1.
- Education of the past, and their share in the modernization of Japan, *Fifty Years of New Japan*, vol. 2.

1911 (明治 44) 年

- 基督教の将来[「論叢」]『開拓者』6-1、1911-01月1日
- 現時青年の覚悟『青年』9-1、1月1日
- 藤公余影『太陽』17-1、1月1日
- 欧洲近世史論『太陽』17-1、1月1日
- ダルキン[「東西偉人録」]『中学世界』14-1、1月1日
- ソクラテス時代と日本の現代との比較『丁酉倫理会講演集』101、1月1日
- 人生の行路[「日曜論壇」]『日曜画報』1-1、1月1日
- 家庭に於て余の担当しつゝある仕事『婦女界』3-1、1月1日
- 『常盤は烈婦也』[「常盤御前論」]『婦人世界』6-1、1月1日
- The Progress of the world international peace, *Life and Lights*, 1 - 3, Jan. - Feb.
- 日本民族の新道徳『松陽新報』1月4日
- 新道徳に就て『早稲田学報』191、1月1日
- 英国政界の前途『太陽』17-2、2月1日[『新道徳論』収録]
- 政府及び議会の大責任『太陽』17-2、2月1日
- 女子教育の方針『婦人くらぶ』4-2、2月1日
- ソクラテス時代と現代との比較『基督教世界』1429、2月2日
- 日本民族の新道徳に就て『実業世界』40、2月3日
- 新道徳論『実業之友 新東洋』3-2、2月5日[連載第1回、3-3以下は未見]
- 大国民の新道徳『新公論』26-3、3月1日
- 富の福音(カアネギーとロツクフェラー)『太陽』17-4、3月1日
- 社会主義及び無政府主義に対する憲政上の疑義『太陽』17-4、6、3月1日、5月1日[『「思想善導」の唯一手段は何か』収録]
- 自己の家庭は過去と将来の連鎖也『婦人画報』53、3月1日
- 南北朝正閏論の断案『太陽』17-5、4月1日
- 日米新条約『太陽』17-5、4月1日
- 今後に於ける青年の覚悟『中学世界』14-5、4月1日
- *婦人の短所『婦女界』2-4、4月1日
- 基督教と社会問題『基督教世界』1438、1439、4月6、13日
- 新教育論[演説速記]『下野新聞』4月22~24、27~29日
- Japanese education: its merits and defects, *Life and Lights*, 1 - 4, Mar. - Apr.
- 西に東に漸なるべし『新公論』26-5、5月1日
- 偉大なる成功は大なる修養の後に来る(続)『新半島』7-5、5月1日

- 文芸協会の新活動『太陽』17-6、5月1日
- 新入学生の覚悟『早稲田学報』195、5月1日[「容易な学問より苦んで勉強した者が終局成功す」と題して
『新公論』26-6、6月1日に抄録]
- 個人も国家も成功は急ぐ可らず『新半島』7-6、5月8日
- 新道徳に就て『活青年』2-6、6月1日
- 英国皇帝の戴冠式に就て『太陽』17-8、6月1日
- 文部省の新事業と日本女子大学の新計画『太陽』17-8、6月1日
- 精神的生活の動揺と婦人の覚醒『婦人画報』57、6月1日[『社会と人生』収録]
- 大学を開放せよ[「女子と高等教育」]『婦人世界』6-6、6月1日
- The new Japan - American treaty, *Life and Lights*, 1 - 5, May - June.
- 活動主義の道徳『早稲田講演』1-3、7月1日
- 祖先に優る事業『学生』2-8、7月1日[『名家講話集』第3編(帝国軍事協会編・刊)1912年5月]
- 日本名勝会の創立『太陽』17-10、7月1日
- 露西亜と日本との比較研究『太陽』17-10、11、7月1日、8月1日[『文明の世』収録]
- 南北朝問題と教育『丁酉倫理会講演集』107、7月10日
- 青年の覚悟『下野教育』251、7月15日
- 中央線の途中[「十人十色涼しく思つた所」]『実業倶楽部』1-9、8月1日
- 教育を以て青年を撲殺する文部省『新公論』27-8、8月1日
- 田中喜一君の「書齋より街頭に」を評す『太陽』17-11、8月1日
- Russia and Japan: the comparison and contrast『太陽』17-11、12、8月1日、9月1日
- 人格的宗教『基督教世界』1459、8月31日[『社会と人生』収録]
- Cosmopolitanism on Art and Literature, *Life and Lights*, 1 - 6, July. - Aug.
- 英米仲裁条約と国際上の平和『太陽』17-12、9月1日
- 新渡戸部博士及び島田三郎君の渡米を送る『太陽』17-12、9月1日
- 政治と道徳[講演筆記於早稲田講習会]『帝国教育』350、351、9月1日、10月1日
- 政治と道徳の関係『実業世界』51、9月3日
- 平和主義の価値[9月7日談話筆記]『???』9月15日<操作ミスのため掲載誌データ消失>
- 憲法上の大義『太陽』17-13、10月1日
- ジョルダン博士及び平和の福音『太陽』17-13、10月1日
- 新時代の要求『教育時論』954、10月15日[奈良女子高等師範学校国語研究会編『女子現代文読本巻四』
(金港堂書籍、1920年)収録]
- 余の観たる婦人問題『桜風会通信』39、10月20日
- 巴爾幹問題に就て『家庭週報』200、11月1日

国民徳育機関の設備『実業之横浜』8-25、11月1日
モロツコ問題及び国際上の関係『太陽』17-14、11月1日
野球の遊戯と試験制度の弊害『太陽』17-14、11月1日
政治学研究方法『雄弁』2-11、11月1日
青年支那党の運命如何『太陽』17-16、12月1日
ジャパンメール記者に答ふ『太陽』17-16、12月1日
『人形の家』と婦人問題『婦人之友』5-6、12月1日
健康論『雄弁』2-12、12月1日
娼婦の根本問題『ときのごゑ』383、384、12月1、15日
清国革命の原因と革命に伴ふ諸事件『実業世界』56、12月3日
今後の婦人『大和なでしこ』12-2、12月15日

1912（明治45・大正元）年

公娼問題の三要点『廓清』2-1、1月1日[『新道徳論』収録]
ナポレオン論『国民雑誌』3-1、1月1日
税制整理の急務『山陽新報』1月1日
[「余の好きな英雄と好かぬ英雄」]『実業之日本』15-1、1月1日
新時代の要求[講演筆記於北佐久教育会総会]『信濃教育』303、1月1日
真の立憲国たらしめよ[「青年政党論」]『世界之日本』3-1、1月1日
選挙権を拡張せよ[「選挙法改正意見」]『大国民』43、1月1日
百年前の世界と百年後の世界『太陽』18-1、1月1日[『文明の世』収録]
政党の死活問題『太陽』18-1、1月1日
目出度き新年『日曜画報』2-1、1月1日
農村の改善『日本農業雑誌』8-1、1月1日
三つの疑問[「支那の前途」]『早稲田講演』1-10、1月1日[張競・村田雄二郎編『日中の120年 文芸・評論作品選 1 共和の夢 膨張の野望 1894-1924』(岩波書店、2016年)収録]
*家庭の読み物『家庭之友』10-1、1月3日
農村の改善『実業世界』57、1月3日
[「余の最も好むもの三つ厭なもの三つ」]『実業之日本』15-2、1月15日
動物的元氣と犠牲的精神[談]『冒険世界』5-2、1月15日
選挙法の根本的改革[「選挙法改正論」]『新日本』2-2、2月1日
選挙法と国民党[「選挙法改正の是非」]『日本及日本人』575、2月1日
東洋最初の共和国『太陽』18-2、2月1日[『文明の世』収録]

- 第二十世紀式の公共的事業家『太陽』18-2、2月1日
- 新らしき婦人の修養『婦人画報』66、2月1日
- 無形の文章と有形の文章『文章世界』7-2、2月1日
- 平和問題『雄弁』3-2、2月1日
- 世界的立法機関設立の必要『実業世界』58、2月3日
- 施薬救療を必要とするが如き極貧者の増加を予防する最良の社会政策は如何『国家医学会雑誌』299・300、2月9日
- 政治学の研究法『慶応義塾学報』175、2月15日
- クロムウェル及英国革命『太陽』18-3、2月15日
- 二十世紀式の公共的事業家『実業倶楽部』2-3、3月1日
- 内務省の宗教方針『太陽』18-4、3月1日[『社会と人生』収録]
- 公娼私娼の利害に就て『太陽』18-4、3月1日
- 理想実現の好機会[「新支那建設問題」]『早稲田講演』1-12、3月1日
- 新実業道徳[1911年12月5日講演於稲友会第一回講演会]『稲友会雑誌』1、3月20日
- 巴奈馬運河と我国の通商『海之世界』6-4、4月1日
- 支那の根本的改革『太陽』18-5、4月1日
- 男爵後藤新平君の「官僚政治」及び「青年訓」を評す『太陽』18-5、4月1日
- 総選挙と国民の覚悟[「説苑」]『社会政策』2-6、5月1日
- 社会生活の変化と女子の職業『新女界』4-5、5月1日
- 総選挙の進化『太陽』18-6、5月1日
- 海牙日を記念せよ『太陽』18-6、5月1日
- 人生の一大危機『中学世界』15-6、5月1日
- 形式に流れて自由を失した今の教育[談話筆記]『帝国教育』358、5月1日
- 婦人と参政権[「当今の社会問題」]『日本及日本人』581、5月1日
- 総選挙と国民の覚悟『実業世界』61、5月3日
- 支那之根本上改革『台湾日日新報』5月12、14～16、20、21日
- 国民倫理と選挙権[「思想の高壇より」]『国民雑誌』3-10、5月15日
- 教育者[「私が女であつたならば」]『淑女かがみ』7、6月1日
- 行政及び税制の根本的改革『太陽』18-8、6月1日
- 総選挙と国民道徳『太陽』18-8、6月1日
- 新しき婦人の道徳『婦人画報』70、6月1日[「婦人の新道徳」と題して、石川喜美子編『当代名家百人の観たる女』(日本書院、1918年)収録]
- 結婚の権利ある男女なき男女[「夫婦かゞみ」]『婦人之友』6-6、6月1日

今後の婦人の覚悟すべきこと『花紅葉』10、6月5日
新しき婦人『女学世界』12-9、6月12日
同志社の創立者新島襄先生『太陽』18-9、6月13日
過渡時代と婦人の修養『大和なでしこ』12-8、6月15日
予が執筆せし時代の思想界と今日の思想界『基督教世界』1500、6月30日
ルソーの政治思想に含まれたる誤謬と真理『新日本』2-7、7月1日
教育界の革命『太陽』18-10、7月1日
婦一協会の創立に就て『太陽』18-10、7月1日
社会政策上より見たる人口問題『地球』1-4、7月15日
教育革新論[談]『実業之横浜』9-19、8月1日
教育を以て青年を撲殺する文部省『新公論』27-8、8月1日
世界の偉観たる二大競争『太陽』18-11、8月1日
[「どちらが好きか 一、夏と冬と 二、山と海と 三、日本画と西洋画と 四、日本音楽と西洋音楽と 五、
日本家と西洋館と 六、日本髪と束髪と 七、日本料理と西洋料理と」]『婦人之友』6-8、8月1日
農村発達の要件[談]『神戸新聞』8月26日
先帝の御遺訓『太陽』18-12、8月30日[『新道徳論』収録]
新時代の使命[「思想の高壇より」]『国民雑誌』3-17、9月1日
最近時の倫理教育問題[講演筆記]『帝国教育』362、9月1日
旧道徳と新道徳に就て『実業世界』66、9月3日
旧道徳と新道徳『松陽新報』9月5~7日
国民道徳『福岡日日新聞』9月6~8、10、11、22、25~29日、10月12、13、15~17日
上杉の論は時勢遅れ[談]『二六新報』9月8日
神人的英雄明治天皇『冒険世界』5-12、9月10日
[「明治年代の著述にして不朽の生命あるもの」]『読書之友』5、9月15日
特別の例[談「乃木大将の殉死」]『東京朝日新聞』9月16日[青木米太良編『乃木大将夫人言行録』(帝国史
学会、1913年)収録]
大将自刃の効果『大阪毎日新聞』9月20日
悲惨の最期[「乃木將軍の自刃と世評」]『実業之横浜』9-24、9月21日
精神界の新紀元『護教』1104、9月27日[『社会と人生』収録]
精神界の独立[改元記念講演大要]『中外日報』9月28、29日
生活問題及び其の根本的救済策[「日本国民の生活問題」]『実業之世界』9-19、10月1日[実業之世界社編
輯局編『財政経済と生活問題』(実業之世界社、1914年)収録]
精神界の新紀元『新女界』4-10、10月1日[『社会と人生』収録]

- 精神界の新紀元『新人』13-10、10月1日[『社会と人生』収録]
- 無用なる憲法論『太陽』18-4、10月1日[星島二郎編『上杉博士対美濃部博士最近憲法論』(実業之日本社、1913年)、作品社編集部編『読本 憲法の100年 2 憲法の受難』(作品社、1989年)収録]
- 帰一の理想『六合雑誌』381、10月1日[『社会と人生』収録]
- 立憲君主の更改は政治に変動ありや『早稲田講演』2-6、10月1日
- 政治上国民の自覚を要す『早稲田講演』2-6、10月1日
- [「名家の読書時間」]『読書之友』1-6、10月5日
- [「百六十七名士の明治記念事業に対する断案」]『実業之日本』15-22、10月15日
- 国家発展の競争[「日本の前途を何うするか」]『大阪毎日新聞』10487、10月21日
- 大正の新時代『開拓者』7-11、11月1日
- 簡易生活の本領を誤る勿れ『実業』2-3、11月1日
- 自殺は道徳上有害なり[「自殺は認すべきか否認すべきか - 内外諸家自殺観 - 」]『新日本』2-11、11月1日
- 乃木大将の殉死を論ず『太陽』18-15、11月1日
- 婦人の積極的修養『婦人之友』6-11、11月1日
- 精神界の新紀元[於改元記念講演会]『雄弁』3-11、11月1日
- 精神界の新紀元『帝国評論』68、11月3日
- 不良老人と不良青年と不良少年『実業之世界』9-22、11月15日
- 婦人の天職『家庭週報』202、203、11月29日、12月13日
- 土耳其帝国の運命『太陽』18-16、12月1日
- エリオット博士来遊の置土産『太陽』18-16、12月1日
- 新大統領と政局の推移『帝国評論』69、12月3日
- 過渡時代の婦人『花紅葉』11、12月25日[『新道徳論』収録]
- 国民道徳[「講壇余響」12月17、18日講演大要於東京市教育課主催講演会]『福音新報』913、12月26日

1913 (大正2) 年

- 世界大勢論『国民雑誌』4-1、1月1日
- エリザベス女王『新日本』3-1付録、1月1日
- 支那の将来『太陽』19-1、1月1日[『新道徳論』収録]
- 新内閣存立の理由『太陽』19-1、1月1日
- 最近時の倫理教育問題『早稲田講演』3-1、2、1月1日、2月1日
- 農業趣味の鼓吹[「東西南北」]『農事新報』7-1、1月5日
- 大正の宗教界に望む『基督教世界』1529、1月9日

立憲治下に於ける国民道徳概論『時事評論』8-2、1月20日
文部大臣存廢論『現代』4-2、2月1日
第三次桂内閣と憲政の大義『太陽』19-2、2月1日
政党政治家の使命『太陽』19-2、2月1日
国民の道徳『鉄道青年』5-2、2月1日
日本文明に対する基督教の貢献[「東京の講壇」講演梗概於統一基督教会]『護教』1125、2月21日
日本文明に対する基督教の貢献『基督教世界』1536、2月27日
海外貿易と商業道徳『海之世界』7-3、3月1日
沢柳政太郎氏の教育意見を駁す『現代』4-3、3月1日
自覚せよ千載一遇の秋『新日本之実業』1-2、3月1日
日本の青年に望む『青年日本』1-2、3月1日
閔族太政を蹂躪す『大国民』56、3月1日
時局と国民の意志『太陽』19-3、3月1日
全国政治界の総試験『太陽』19-3、3月1日
新日本文明の導調『六合雑誌』33-3、3月1日
芸術的精神を發揮せよ『帝国評論』72、3月3日
学制根本改革論[「試験任用制度存廢問題論」]『時事評論』8-4、3月5日
新道徳の基礎『丁酉倫理会講演集』127、3月10日
不甲斐なき実業家連[「実業家の政治運動」]『地球』2-3、3月15日
今後の政界を如何にすべきか『世界之日本』4-4、4月1日
立憲政治の根本義『太陽』19-5、4月1日
文明の勇士『太陽』19-5、4月1日
続国民の道徳『鉄道青年』5-4、4月1日
[「憲法發布二十五年」]2月11日憲法發布二十五年祝賀会講演於築地精養軒『雄弁』4-4、4月1日
立憲的政治道徳の根本義『早稲田講演』3-4、4月1日[『新道徳論』収録]
世界の大勢と基督教『基督教世界』1541、4月3日
政治家の公生涯『帝国評論』73、4月3日
少年教育の欠陥[談]『中国民報』4月11日
国民の覚醒すべき三大要件『実業之世界』10-9、5月1日
第二維新の国是五か条『太陽』19-6、5月1日
日米問題の根本解決『太陽』19-6、5月1日
中国民報の新発展を賀す『中国民報』5月5日

- 排日問題の根本的解決[「講演」文責在記者]『基督教世界』1546、5月8日
- 理想の高き人『家庭週報』222、5月9日
- 教師の修養と社会の待遇『国民教育』4-5、5月15日
- 世界史上にける日本民族の位地と基督教『基督教世界』1548、1549、5月22、29日
- *婦人禍福の岐れ路『日本之婦人』5月
- 歴史上の観察よりせば…[「平和乎戦争乎」]『サンデー』226、6月1日
- 最近の婦人問題『女学世界』13-8、6月1日
- *政治家の理想『新世紀』1-2、6月1日
- 再び日米問題に就て『太陽』19-8、6月1日[『新道德論』収録]
- 婦人の正当なる主張と猥褻文字[「婦人界の新思潮に対する官憲の取締」]『中央公論』28-7、6月1日
- 社交道德根本義『早稲田講演』3-6、6月1日
- 結婚に適当な時期『新家庭』5-6、6月5日
- 婦人問題及び婦人運動『太陽』19-6、6月15日[『新道德論』収録]
- 方今日本の精神界を支配する主義及び現代の精神的要求『神学之研究』4-4、6月25日
- 無窮を祝す『同志社時報』100、6月25日
- 世界史上にける日本民族の位地と基督教『新人』14-7、7月1日
- 世道人心に及ぼす政治家の進退『世界雑誌』2-7、7月1日
- 時代を取違へたる国体擁護『太陽』19-10、7月1日
- 我が司法制度の威信『太陽』19-10、7月1日
- 陰謀事件の裁判[「朝鮮統治の批判」]『朝鮮公論』1-4、7月1日
- 日本に於ける婦人問題『家庭週報』230、7月11日
- 人種改良と結婚問題『人道』99、7月15日
- 支那の根本的改革[談]『松陽新報』7月16日
- 高等師範は無用の長物なり[「教育調査会の成立と高等師範問題」]『新日本』3-8、8月1日
- 教育界の第二維新『太陽』19-11、8月1日[『新道德論』収録]
- 二食生活の経験『婦人之友』7-8、8月1日
- 実業道德の要旨『早稲田講演』3-8、8月1日[『理想と現実』収録]
- 公娼問題の三要点『廓清』特別号、8月15日
- 青年に対する警告『太陽』19-12、9月1日
- 文芸と道德『太陽』19-12、9月1日
- 市街建築と住宅『家』6、9月15日
- 宗教的修養の回顧『成功』26-1、10月1日

拾人に一人位の割合を可とす[「選挙権拡張問題」]『世界之日本』4-10、10月1日
憲政擁護の失敗『太陽』19-13、10月1日[『新国民の修養』収録]
最近旅行中の所感『太陽』19-13、10月1日
言論の自由なき日本『第三帝国』1、10月10日
西洋民族文明史論『新日本』3-11、10月15日
芸術家の人生観『太陽』19-14、11月1日
大隈伯の文明的大運動『太陽』19-14、11月1日
和戦何れを択ぶかの根本問題『日米[The Japanese American News]』11月1日
青年男女の罪か良心の不徳か『婦女界』8-5、11月1日
[「当代名士日常生活に於ける修養」]『婦女界』8-5、11月1日
新道徳研究法[「東京の講壇」講演梗概於東亜協会]『護教』1163、11月14日
日本民族の発展す可き新天地『太陽』19-15、11月15日[『新国民の修養』収録]
道徳の基礎[西筑摩教育会夏季講習会課外講演大要]『信濃教育』326、12月1日
大正維新『初等教育』6-12、12月1日
新人の行くべき道『大国民』64、12月1日
日本宗教大会の效果に就て『太陽』19-16、12月1日
江木千之君の大学教育論『太陽』19-16、12月1日
余が好める人物『雄弁』4-12、12月1日
明治維新の趣旨と大正維新の方法『早稲田講演』3-12、12月1日

1914 (大正 3) 年

[「我国基督教の将来と其の使命」]『基督教世界』1580、1月1日
新道徳論『現代』5-1、1月1日
政治革新の三大要件『青年日本』2-1、1月1日
支那共和国の憲法問題『太陽』20-1、1月1日
大正維新と思想上の開国進取『中国民報』1月1、2日
政党の将来『大阪朝日新聞』1月4日
日米問題に対する米国大統領ルーズヴェルトの所論を駁す『太陽』20-2、2月1日
学校騒動の原因『中学世界』17-2、2月1日
静肅に大運動を起すべし『第三帝国』5、2月1日
新道徳論『東亜之光』9-2、2月1日
新道徳論『教育実験界』33-3、2月5日

- 政治運動と一般人『第三帝国』6、2月10日
- 〔子弟の方針問題に対する諸教授の意見〕『実業之日本』17-4、2月15日
- 新旧道徳の対照『新公論』29-3、3月1日
- 新政治思想と旧政治思想『青年』2-3、3月1日〔『新国民の修養』収録〕
- 世界の正義と憲政の大義『太陽』20-3、3月1日〔『新国民の修養』収録〕
- 新道徳論『雄弁』5-3、3月1日
- 史家の見たる輿論政治『六合雑誌』398、3月1日
- 嗚呼政界に斯の墮落あり〔民権奈辺に在りや〕『大正公論』4-3、3月5日
- 政治家の徳義〔講壇〕『護教』1182、3月27日
- 政治家の徳義『中外日報』3月29、30日
- 第三文明を建設せよ『新天地』3月号ノ2、3月??日
- 丸善書店に対する感想〔3月25日於丸善楼上講演大意〕『名士講演』23、3月??日
- 政府も政府なれば政党も政党〔政局面々観〕『新公論』29-4、4月1日〔海軍収賄問題に対する政府及び政党の態度〕と改題『理想と現実』収録。収録書本文のタイトルは「海軍収賄問題」とあるが、目次タイトルの「海軍収賄問題に対する政府及び政党の態度」の方が本文内容に即している
- 社会道徳—音信の影響—『新修養』5-4、4月1日
- 時局は国民に何を訓ゆる乎『太陽』20-4、4月1日
- 群衆の勢力を利用して国政を左右せんとする風潮を論ず『中央公論』29-4、4月1日〔今井清一編『大正思想集I』<近代日本思想大系33>(筑摩書房、1978年)収録〕
- 地位は低くとも人格の高き青年〔娘の婿に欲しいと思ふ青年 息子の嫁に貰ひうけたい娘〕『婦女界』9-4、4月1日
- 〔現代諸名士の青年に与ふる金科玉条〕『雄弁』5-4、4月1日
- 熊本〔我が郷里の記憶〕『読売新聞』4月1日
- 時局に対する我観〔講演大意〕『読売新聞』4月1、2日
- 自制忍耐の徳〔(一)日本の婦人は如何に変わりつつあるか(二)其の如何に変わらんことを希望するか〕『読売新聞』4月3日
- 後継者養成問題『基督教世界』1595、4月16日
- 将来の宗教〔講壇〕『護教』1186、4月24日
- 将来の宗教『中外日報』4月24、25日
- 歴史上より観たる世界現今の大勢『基督教世界』1597、4月30日
- 筆不精を戒む『新天地』4月号ノ2、4月??日
- 〔我が国の基督教青年会に対する感想と批評と要求と〕『開拓者』9-5、5月1日
- 我国に於ける政党政治と其将来〔政局面々観〕『新公論』29-5、5月1日〔『理想と現実』収録〕
- 新道徳と基督教『新人』15-5、5月1日〔『理想と現実』収録〕

勝てば官軍負くれば賊[「二大政党か小党分立か」]『新日本』4-6、5月1日
政界に於ける大隈伯の復活『太陽』20-5、5月1日
クーデターと革命『冒険世界』7-5、5月1日
最近三十年間に於ける政治思想の発展『六合雑誌』400、5月1日[『理想と現実』収録]
輿論政治と群衆心理『早稲田講演』4-5、5月1日
政治家の徳義『丁酉倫理会講演集』141、5月10日
宗教の盛衰と其将来『人道』109、5月15日
現下の政局と犬養氏の態度『世界之日本』5-6、6月1日
大隈内閣の政綱を読む『太陽』20-7、6月1日
自治体の自由精神『地方行政』22-6、6月1日[『理想と現実』収録]
時代と歴史『早稲田講演』4-6、6月1日[『理想と現実』収録]
新教育の方針『基督教世界』1602、6月4日
政党の過去現在及び将来『太陽』20-8、6月15日
新時代に入る前の問題『第三帝国』13、6月16日
宗教の新意義『中外日報』6月27~30日
簡易生活の両面『新公論』29-7、7月1日
国家と道徳『新修養』5-7、7月1日
宗教の真意義『新人』15-7、7月1日[『理想と現実』収録]
先づ国力の充実を計れ『新日本』4-8、7月1日[『理想と現実』収録]
世界の最新思潮と實際生活『生活』2-7、7月1日[『理想と現実』収録]
新青年修養論『青年』2-7、7月1日
文部大臣に望む『世界之日本』5-7、7月1日
国防問題の根本的解決『太陽』20-9、10、7月1日、8月1日
*偉大なる国民の養成『初等教育』73、7月[『理想と現実』収録]
悲観せられたる日本 予は決して我國民の前途を悲観せず『実業之横浜』11-8、8月1日
酷暑を征服せよ[「学生時代の銷夏法」]『中学世界』17-10、8月1日
歴史の真意義『雄弁』5-8、8月1日
民族發展と海外旅行[「休暇と旅行」]『雄弁』5-8、8月1日
実業道徳の要旨『早稲田講演』4-8、8月1日[『理想と現実』収録]
国民道徳の危機『第三帝国』17、8月16日
現代思潮の文明史的觀察[「特別付録 欧州現代思潮」]『新日本』4-10、9月1日
世界の平和を攪乱せる独逸皇帝『太陽』20-11、9月1日

- 新時代の婦人道德『婦人画報』100、9月1日
- 我が国資本家の覚醒を促す『実業之世界』11-18、9月10日
- 大戦と婦人問題『婦人評論』3-18、9月15日
- 平和維持の必要条件[文責記者]『平和時報』2-9、9月30日[山本弥内編『平和論叢』(大日本平和協会、1914年12月20日)、『近代日本「平和運動」資料集成 第2巻』(不二出版、2005年)、『近代日本「平和運動」資料集成 付録』(不二出版、2005年)収録]
- 戦後に於ける国民教育の変動『新公論』29-10、10月1日[『理想と現実』収録]
- [「婦人と平和」]『新真婦人』18、10月1日
- 欧亜大戦争講和後の予想『生活』2-10、10月1日
- 欧州大戦の動機と交戦列国の態度『太陽』20-12、10月1日
- 自由にさせて置く我家の子供[「新生活の色あひ」]『婦人之友』8-10、10月1日
- 日本憲政と独逸の影響『六合雑誌』405、10月1日[『理想と現実』収録]
- 日本人は果して潔癖なりや『衛生世界』1-1、10月5日[『理想と現実』収録]
- 言論思想の自由開放『第三帝国』20、10月5日[『理想と現実』収録]
- 今後の問題[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』10月6日
- 欧州戦争の教ふる物心両界の新問題『実業之世界』11-22、10月15日[『理想と現実』収録]
- 時局問題聴講記[談]『家庭週報』289~291、10月16、23、30日
- 日露の同盟を望む[「戦後に於ける極東の政局は如何に変化すべきか」]『新日本』4-13、11月1日[『理想と現実』収録]
- 世界戦争の倫理的大観『太陽』20-13、11月1日
- 中学生諸君に警告す『中学世界』17-14、11月1日
- *父兄及び教育者の失敗『婦女界』10-5、11月1日
- 犠牲となる婦人『婦人画報』102、11月1日[『理想と現実』収録]
- 欧州大戦争の由来『雄弁』5-11、11月1日
- 欧州大戦の由来『早稲田講演』4-11、11月1日[『理想と現実』収録]
- 戦乱を予想せる独逸の主戦論『早稲田講演』4-11、11月1日[『理想と現実』収録]
- 避妊と文明『衛生世界』1-2、11月5日[『理想と現実』収録]
- 欧州大戦と現代思潮『基督教世界』1625、11月12日
- 我国に於ける婦人問題『中外日報』11月18、19、25、27日
- 戦争と外交『静岡民友新聞』7289、11月19日
- 時局に就いて宗教家に警告す『中外日報』11月19~21日[『理想と現実』収録]
- 時局と国民の覚悟『教育の実際』9-2、12月1日[1914年10月18日講演要領於東京市本所区江東小学校増築改名記念講演会][『理想と現実』収録]

道徳上男女の平等[11月8日統一基督教会での講演の一節]『新真婦人』20、12月1日

日本の外交政策『太陽』20-14、12月1日

予の知れる高田君[「鎌田塾長と高田学長」]『中央公論』29-13、12月1日

輿論と言論の自由『雄弁』5-12、12月1日

悲観論に対する批評『予は決して我國民の前途を悲観せず』『御即位礼画報』6、12月29日

1915（大正4）年

戦後に於ける基督教の使命[「戦後文明の趨勢と基督教の使命」]『大阪講壇』169、1月1日[『理想と現実』収録]

社会問題に対する基督教の使命『基督教世界』1631、1月1日

独逸を如何に処分するか『神戸新聞』1月1日

*婦人問題の帰結『国民精神』3-1、1月1日

軍事教育と普通教育の併行を計れ『実業之世界』12-1、1月1日[『理想と現実』収録]

第三十五議會と増師問題『新公論』30-1、1月1日[『理想と現実』収録]

憲法政治と青年の覚悟『青年』3-1、1月1日

世界的反動思潮の廻転機『太陽』21-1、1月1日

既成宗教の運命『中外日報』1月1日

欧州大乱と東洋[談]『中国民報』1月1日

未亡人の再婚問題『婦人画報』104、1月1日[『理想と現実』収録]

早稲田大学の新年『早稲田学報』239、1月10日

欧洲出兵論を難ず『第三帝国』29、1月15日

総選挙と宗教家の覚悟『中外日報』1月17～19日

ラッド博士の独逸文明論を読む『新日本』5-2、2月1日[『理想と現実』収録]

戦後に於ける四大民族の消長『財政経済時報』2-2、2月1日[『理想と現実』収録]

我実業家に希望す 独逸は商業防禦同盟によりて斯くの如く発展せり『実業之布哇』4-2、2月1日

欧洲戦局と総選挙に対する國民の覚悟『太陽』21-2、2月1日

[「総選挙と國民の覚悟」]『地方行政』23-2、2月1日

戦局の外交に及ぼす影響『早稲田講演』5-2、2月1日[『理想と現実』収録]

文明人は強くならぬか『衛生世界』2-2、2月5日[『理想と現実』収録]

立憲政治と善人の利己主義『廓清』52、2月15日

大隈伯に倣へ『新天地』2月号ノ1、2月??日

國民の政治的覚醒を促す『新公論』30-3、3月1日

政界近時の新現象『太陽』21-3、3月1日

- 立憲的教育に就いて『内外教育評論』9-3、3月1日
- 政治と国民の内的修養『六合雑誌』410、3月1日
- 還俗候補者を望む『中外日報』3月3、4日
- 基督教と世界歴史との関係[「講壇」講演大意於東部年会教役者修養会]『護教』1232、1233、3月12、19日
- 国民の政治的覚醒を促す[講説摘要]『日本警察新聞』326、3月21日
- 紛糾を極むべき主なる媾和条件『欧州戦争実記』21、3月25日
- 世界将来の文明観『新人』16-4、4月1日
- 憲政教育の前途一大隈伯に新政党の組織を勧め併せて大隈伯後援会及教育者諸君の活躍を望む―『新日本』5-4、4月1日
- 総選挙の高等批評『太陽』21-4、4月1日
- 男は男、女は女『婦人画報』107、4月1日
- 男子は常に覚悟を要す『冒険世界』8-4、4月1日
- 明治大正の婦人問題『六合雑誌』411、4月1日
- 労働と健康[ローマ字欄]『労働及産業』44、4月1日
- 政局の将来『第三帝国』36、4月5日
- 歴史上より観たる世界現今の大勢『基督教世界』1597、4月30日
- 欧洲戦局及び講和『外交』1-8、5月1日
- 憲政発達の転回機『世界之日本』6-5、5月1日
- 政友会没落の原因『太陽』21-5、5月1日
- 憲政発達の回轉機『地方行政』20-5、5月1日
- 政界革新の急務『雄弁』6-5、5月1日
- 布教権問題と仏教徒の覚悟『中外日報』5月22、23、25、26日
- 对支外交上の大問題『太陽』21-6、6月1日
- 戦争終局後の欧洲列国の運命如何『早稻田講演』5-6、6月1日
- 時世に適応する青年の修養法[「縦談横議」]『農事新報』9-6、6月5日
- 独逸の横暴に対する米国の義憤『新日本』5-7、7月1日
- 我国議會及び政党の将来『太陽』21-9、7月1日
- 公共衛生と避暑の価値『衛生世界』2-7、7月5日
- 日支親善の善後策『第三帝国』45、7月5日
- 進歩的道德論『中央公論』30-8、7月15日
- トライチケー『中外日報』7月27～29日
- 欧州の戦争と婦人の覚悟『家庭週報』327、7月30日

教育調査会新提案の批評『太陽』21-10、8月1日
 トライチケーの政治哲学『第三帝国』49、8月15日
 独逸の運命[談「欧州戦局の前途 勝利は結局連合軍」]『読売新聞』8月31日
 青年男女の自殺について『新日本』5-6、9月1日
 国民教育の理想『世界之日本』6-9、9月1日
 欧州戦局の発展如何『太陽』21-11、9月1日
 支那に対する国民の謬想『朝鮮及満洲』98、9月1日
 日蓮主義に對する希望[分析在記者]『法華』2-9、9月1日
 欧州戦乱突発前後の列強外交『早稲田講演』5-9、9月1日
 共和政体の公民たる修養法『日布時事』9月5日
 トライチケ政治哲学一斑『丁酉倫理会講演集』157、9月10日
 日本国民の新道徳『博愛』341、9月10日
 優勝者たらん者は須らく一生書生の態度で邁進せよ『実業之日本』18-19、9月15日[『生活戦術』収録]
 教育基礎としての宗教『中外日報』9月18日
 *商略以て世界の覇者たれ『日本一』1-?、9月
 婦人問題の解釈と女子教育の普及『廓清』5-9・10、10月1日
 成功の真髓を道破せる大志望遂行の活經典『実業之日本』18-20、10月1日[『生活戦術』収録]
 社会問題として研究すべし[「我党の貞操論」]『新女界』7-10、10月1日
 支那の政体問題と日本『大陸』27、10月1日
 世界の平和を攪乱する独逸思想『太陽』21-12、10月1日
 貞操問題[談話筆記]『婦人雑誌』4-10、10月1日
 帝制問題と日本の態度[「支那帝制問題」]『早稲田講演』5-10、10月1日
 熊本の民族精神『日本及日本人』665、10月5日
 現代文明と理想の進化『基督教世界』1671、1672、10月7、14日[『生活戦術』収録]
 老年に成つて迎も出来ぬ事で青年時代に是非作り置くべき事三つあり『実業之日本』18-21、10月10日[『生活戦術』収録]
 凡庸でも必ず天才に打勝てる唯一の手段『実業之日本』18-22、10月15日[『生活戦術』収録]
 男女間の新道徳『婦人新報』220、10月28日
 芸妓の服装を脱せしめよ『廓清』5-11、11月1日
 実行数十年効果歴然精力と健康増進に必要な心的五訓練『実業之日本』18-23、11月1日[『生活戦術』収録]
 現代の我国婦人に対する希望[御大典に際して]『新女界』7-11、11月1日
 大正の政変を論じて国民教育の改善に及ぶ『新日本』5-11、11月1日

- 不良少年と不良青年 附不良青年不良壮年と『青年及青年団』6-11、11月1日
- 新大学令案に対する批評の批評『太陽』21-13、11月1日
- 一步社会に先んずる人[「高田文相論」]『中央公論』30-12、11月1日
- 戦後雄飛の第一歩『日本一』1-2、11月1日
- 女子教育を普及発達せしめし[「御大典の記念として」]『婦人之友』9-11、11月1日
- 強烈鮮明の輿論が喚起しない『雄弁』6-11、11月1日
- 御大典と芸妓問題に関する諸名士の檄文[安部磯雄・島田三郎らの署名になる檄文]『基督教世界』1675、11月4日
- 大学教育の問題は総合単科問題の外にあり[「研究機関設備に対する学園意見の一般」]『早稲田学報』249、11月10日
- 組織的協力の偉功を知り抜け駆けの功名を漁るな『実業之日本』18-24、11月15日[『生活戦術』収録]
- 親の監督する交際[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』11月24日
- 謹んで前古無比の御盛典を祝し奉る『太陽』21-14、11月25日
- 人格力量を偉大にし大発展大成功を望む者は必ず此四徳を備へよ『実業之日本』18-26、12月1日[『生活戦術』収録]
- 日本の対世界政策『太陽』21-15、12月1日
- 貞操問題の正誤『婦人雑誌』4-12、12月1日
- 人生は一度しかない最も危険なる航海『実業之日本』18-27、12月15日[『生活戦術』収録]

1916 (大正 5) 年

- 世界文化の新時代『[文明協会]学術講演録』1、1月1日
- 劣敗者惜しむべし兵法を知らず『実業之日本』19-1、1月1日[『生活戦術』収録]
- 議會を国民の議會たらしめよ[「如何にして議會の改善を行ふべきか」]『新修養』7-1、1月1日
- 十年後の日本『生活』4-1、1月1日
- 新年の所感と希望『太陽』22-1、1月1日
- 青年と立憲思想『中学世界』19-1、2、5、6、8、9、1月1日、2月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日
- 東洋政局の将来『中国民報』1月1日
- 大人物は鍛錬努力の結晶なり『朝鮮公論』4-1、1月1日
- 独逸の勝利と思想界『日本及日本人』671、1月1日
- 現代文明の趨向『横浜貿易新報』5318～5322、1月13～17日
- 弱者には弱者の兵法あり『実業之日本』19-2、1月15日[『生活戦術』収録]
- 国民性と国民的理想の戦争『基督教世界』1686、1月27日

男女交際の新道徳『廓清』6-2、2月1日
唯此二大確信ある者必らず成業す『実業之日本』19-3、2月1日[『生活戦術』収録]
大正革新の危機『太陽』22-2、2月1日
*全力傾倒の大英国『日本一』2-2、2月1日
百発百中の生活戦術『実業之日本』19-4、2月15日[『生活戦術』収録]
[「大正新女大学」]『婦人公論』1-3、3月1日
欧州大戦の新意義『[文明協会]学術講演録』3、3月15日
今は富の福音を歓迎すべき時代『実業之日本』19-6、3月15日[『生活戦術』収録]
大実業家たり得る三大秘訣『実業之日本』19-7、4月1日[『生活戦術』収録]
世界に於ける日本の地位『太陽』22-4、5、7、4月1日、5月1日、6月1日
実業成功の積極的七大資格『実業之日本』19-9、4月15日[『生活戦術』収録]
軍国主義 トライチユケの政治論『大阪毎日新聞』4月18～21日
処世十訓『実業之日本』19-10～12、5月1、15日、6月1日[『生活戦術』収録]
電車道徳[「問題の電車と市民の生活」]『新日本』6-5、5月1日
四面楚歌の中に善戦せる大独逸帝国の運命[「欧州列強の現状及び将来」]『日本一』2-5、5月1日
時勢に応じた中庸の女[「時代の要求する女(七)」]『婦女新聞』835、5月19日
国産奨励と青年団『国産時報』1-2、6月1日
中央政府の基礎を固めよ[「支那の政治組織を論ず」]『新日本』6-6、6月1日
教育及び教授に就いて[於高等師範部入学式]『早稲田学報』256、6月10日
業務を遊戯化する修養『実業之日本』19-13、6月15日[『生活戦術』収録]
男女交際の新道徳『国民精神』4-3、7月1日
最後の優勝者『実業之日本』19-14、7月1日[『生活戦術』収録]
腹式呼吸を実行した以後の私の態度『生活』4-7、7月1日
文明的国防の意義『第三帝国』70、7月1日
東西文明の代表者 飛行家スミスと詩聖タゴール『太陽』22-9、7月1日
親と子の行くべき道『婦人雑誌』5-7、7月1日
組織的の協力『実業之日本』19-15、7月15日
基督教の死活問題『基督教世界』1711、7月20日
努力の生活か有効の生活か『実業之日本』19-16、8月1日[『生活戦術』収録]
日露新協約と世界の平和『太陽』22-10、8月1日
青年と立憲思想 政党及び政治家『中学世界』19-10、11、13、8月1日、9月1日、10月1日
女子の体育を重ぜよ『婦人画報』125、8月1日

- 農村荒廃救済策『教育時論』1127、8月5日
- 偉人と天才『国論』2-8、8月5日
- 模範的組織者の資格『実業之日本』19-17、8月15日[『生活戦術』収録]
- 教育家の覚悟『初等教育研究雑誌小学校』21-10、8月15日
- 世界に於ける日本の地位[講演筆記]『秋田魁新報』8月28日
- 経営的才能の修養『実業之日本』19-18、9月1日[『生活戦術』収録]
- 日露新協約と帝国の使命『太陽』22-11、9月1日
- 結婚まで『婦人雑誌』5-9、9月1日
- 全米を風靡せる新実業哲学『実業之日本』19-19、9月15日[『生活戦術』収録]
- 動物的女性観『廓清』6-9・10、10月1日
- 科学的努力『実業之日本』19-20、10月1日[『生活戦術』収録]
- 国家の膨張と人種問題の将来『新日本』6-10、10月1日
- 日露新協約と太平洋問題『太陽』22-12、10月1日
- 今少しく自由に『婦人之友』10-10、10月1日
- 暇の無い人の最も有効な読書法『実業之日本』19-21、10月10日[『生活戦術』収録]
- 人間力の正用『実業之日本』19-22、10月15日[『生活戦術』収録]
- 国家主義と個人主義『第三帝国』76、10月15日
- 外国語問題『教育時論』1135、10月25日
- 米人の勇往邁進魂『実業之日本』19-23、11月1日[『生活戦術』収録]
- 日本の地位—列強の班に入るまで—『新修養』7-11、11月1日
- 過渡期に於ける変則内閣[「政治史上に於ける大隈内閣の意義」]『新日本』6-11、11月1日
- 戦時中政党の競争を停止せよ『太陽』22-13、11月1日
- 青年と立憲思想 将来に於ける政治家の資格『中学世界』19-14、11月1日
- 新商業道徳論『日本一』2-11、12、11月1日、12月1日
- 結婚さるゝ婦人へ『婦人雑誌』5-11、11月1日
- 社会と婦人『大陸』40、11月3日
- 実業上に於ける平時編成『実業之日本』19-24、11月15日[『生活戦術』収録]
- 戦時及平時の独逸工業『実業之日本』19-25、12月1日[『生活戦術』収録]
- 国民教育の理想『斯民』11-9、12月1日
- 我が政局の将来に就て『太陽』22-14、12月1日
- 日本に於ける政治家の将来『中学世界』19-15、12月1日
- 戦前及び戦後の独逸商工業『実業之日本』19-26、12月15日[『生活戦術』収録]

1917 (大正6) 年

- つまづくナ足元に石がある『実業之日本』20-1、1月1日
- ウイルソンの再選に際して平和問題の将来を想ふ『新人』18-1、1月1日
- 挙国一致の外政策『太陽』23-1、1月1日
- 青年と進歩的修養『中学世界』20-1、1月1日
- 独逸講和提議所感[談]『新潟新報』1月1日
- 婦人の世界は近づけり『日本一』3-1、1月1日
- 教育ある婦人へ『婦人雑誌』6-1、1月1日
- 思想の戦争と利益の戦争『極東時報』9、1月12日
- 前に眼の無き人『実業之日本』20-2、1月15日
- Unanimous Diplomatic Policy of the Empire『平和時報』5-1、1月20日[『近代日本「平和運動」資料集成 第4巻』(不二出版、2005年)収録]
- 偉大なる実業国民に最も必要な資格『実業之日本』20-3、2月1日
- 無意義なる議会解散『太陽』23-2、2月1日
- 『人格第一』の意義『中学世界』20-2、2月1日
- 先づ卒業証書を焼ひて了え『実業之日本』20-4、2月15日
- 欧州大戦の精神的文明に及ぼす効果『大阪講壇』195[18-3]、3月1日
- 世界大戦の効果『基督教世界』1473、3月1日
- 我実業家の三大悪弊『実業之日本』20-5、3月1日
- 憲政の進路尚遥なり『新日本』7-3、3月1日
- 憲法政治の三大特質と思想言論の自由『第三帝国』82、3月1日
- 寺内首相及後藤内相の訓示演説を読む『太陽』23-3、3月1日
- 自信力の二要素、或る意味に於て自信力は則ち自進力である『中学世界』20-4、3月1日
- 戦後の婦人問題『婦人画報』132、3月1日
- 実業家の人格的大資本『実業之日本』20-6、3月15日
- 成功の予約付きの人『実業之日本』20-7、4月1日
- 総選挙の意義『太陽』23-4、4月1日
- 学資は自己に在り『中学世界』20-5、4月1日
- 露国革命の真相『中国民報』8161、4月3日
- 伯爵家若夫人の情死と世論 憐むべき犠牲[談]『日布時事』4月3日
- 戦後の国際思想『実業之日本』20-8、4月10日
- 景気のいゝ商売をする人『実業之日本』20-9、4月15日
- International Thought after the War『平和時報』5-4、4月20日[『近代日本「平和運動」資料集成 第4

巻』（不二出版、2005年）収録]

今日以上の成功請合の人『実業之日本』20-10、5月1日[「成功心理」と題して[「修養録」]『日本警察新聞』406、6月11日に抄録]

戦後の国際関係『斯民』12-2、5月1日

革命の烽火を背景とするロマノフ家の悲劇『新日本』7-5、5月1日

欧州大戦と露国の革命『太陽』23-5、5月1日

寺内内閣に対する希望[「総選挙後の寺内内閣に執るべき態度」]『中央公論』32-5、5月1日

学問は独習に限る『中学世界』20-6、5月1日

真に意義ある社交『婦人画報』134、5月1日

女子墮落の真原因『婦人公論』2-5、5月1日

婦人問題と教育『基督教世界』1752、1753、5月3、10日

普通選挙で腐敗を去れ『第三帝国』84、5月10日

必ず客を惹く主人番頭の心懸『実業之日本』20-11、5月15日

人間としての生活[談]『向上』11-6、6月1日

金銭は商人の魂と思へ『実業之日本』20-12、6月1日

総選挙の回顧的批評『太陽』23-6、6月1日

楽な学問は役に立たぬ『中学世界』20-8、6月1日

欧州戦後の平和問題『基督教世界』1757、6月7日

世界の犬勢と我国体『第三帝国』85、6月10日

欧州大戦と国民の理想『丁酉倫理会講演集』178、6月10日

大統領ウイルソンと外交上の大革命『太陽』23-7、6月15日

男女交際と恋愛問題『婦女新聞』893、6月29日

婦人問題と貞操『廓清』7-7、8、7月1、8月1日

戦後商戦に対する修養『実業之日本』20-14、7月1日

戦後の平和問題『第三帝国』86、7月10日

寺内内閣の強点と弱点『太陽』23-8、7月1日

学問は活動なり『中学世界』20-9、7月1日

日本国民の一大事『実業之日本』20-15、7月15日

人の子を殺す勉強の押売『家庭及学校』1-3、8月1日

武士道と商道『実業之日本』20-16、8月1日

世界大戦三周年の回顧『太陽』23-9、8月1日

[「修学訓」]『中学世界』20-10、8月1日

戦後商業家の必ず有すべき二大資格『実業之日本』20-17、8月15日

欧州大戦の史的観察『平和時報』5-8、8月30日[『近代日本「平和運動」資料集成 第5巻』(不二出版、2005年)収録]

戦後商業大成功の秘訣『実業之日本』20-18、9月1日

相州葉山にて[「此夏を如何に暮せしか」]『実業之日本』20-18、9月1日

支那大観と細観を読む『太陽』23-10、9月1日

自己の心を師とせよ[「修学訓」]『中学世界』20-12、9月1日

[「紅葉の名所と其印象」]『ツーリスト』5-5、9月1日

国体之研究『東亜之光』12-9、10、9月1日、10月1日

家庭改善の根本『婦人画報』138、9月1日

貿易発展上の根本設備『実業之日本』20-19、9月15日

実力主義『神戸新聞』9月28、29日

家族制度の問題『廓清』7-9・10、10月1日

世の中で一番貴い人間『実業之日本』20-20、10月1日

新聞紙及新聞記者論『新時代』1-1、10月1日

早稲田大学紛擾の真相及其の根本問題『太陽』23-12、10月1日

世界を家とせよ『中学世界』20-13、10月1日

[高橋都素武「所謂『浮田博士』問題」中の「浮田和民会見記」]『日本一』3-10、10月1日

戦後の世界組織『実業之日本』20-21、10月10日

杉村君足下[「投書欄」]『東京朝日新聞』11239、10月13日

商人は人中の獅子たれ『実業之日本』20-22、10月15日

World Organization after the War『平和時報』5-10、10月30日[『近代日本「平和運動」資料集成 第5巻』(不二出版、2005年)収録]

商業は一種の交際『実業之日本』20-23、11月1日

教界時言[「下記2篇：光瑞師還俗問題／奠都祭举行是非」]『新修養』8-11、11月1日

欧州戦乱と民主政治の新傾向『太陽』23-13、14、11月1日、12月1日

民本主義の思想と我国体『地方行政』25-11、12、11月1日、12月1日

修養としての読書『中学世界』20-14、11月1日

浮田博士より高橋主幹へ[「書翰」]『日本一』3-11、11月1日

現内閣と調査会[「時事短評」]『日本一』3-11、11月1日

米国参戦の真意義[「時事短評」]『日本一』3-11、11月1日

税制の改良を断行せよ[「時事短評」]『日本一』3-11、11月1日

昔の武門武士と今の富豪[「時事短評」]『日本一』3-11、11月1日

実業上の先進国と戦ふ武器『実業之日本』20-24、11月15日
 人間万事此の呼吸で行け『実業之日本』20-25、12月1日
 予の『新聞紙論』の批評に就て『新時代』1-3、12月1日
 前途尚遠也[「日米共同宣言を如何に見る乎」]『日本一』3-12、12月1日
 出兵は破産を意味す[「時事短評」]『日本一』3-12、12月1日
 巴里会議の議題[「時事短評」]『日本一』3-12、12月1日
 露国遷都の必要[「時事短評」]『日本一』3-12、12月1日
 光瑞師還俗と憤死者[「時事短評」]『日本一』3-12、12月1日
 一度深く考へて繰返すな『実業之日本』20-26、12月15日

1918 (大正7) 年

教育制度全廃論『新時代』2-1、1月1日
 米大統領の教書を読む『太陽』24-1、1月1日
 奈翁なき奈翁時代(勝・福沢両翁を憶ふ)『日本及日本人』721、1月1日
 露国革命の我国に及ぼす影響『実業之日本』21-2、1月15日
 一生の自覚は此自覚唯一『実業之日本』21-3、2月1日
 戦後の経営を策せよ『新時代』2-2、2月1日
 日本帝国参戦の目的『太陽』24-2、2月1日[『復録版・大正大雑誌』(流動出版、1978年)収録]
 文明国共通の問題[「時事短評」]『日本一』4-2、2月1日
 米合衆国の情誼[「時事短評」]『日本一』4-2、2月1日
 経済界の封建時代[「時事短評」]『日本一』4-2、2月1日
 露国の分離は不可能[「時事短評」]『日本一』4-2、2月1日
 人才発見誘致の秘訣『実業之日本』21-4、2月15日
 凡人が天才化する秘訣『実業之日本』21-5、3月1日
 国際上の民主主義と日本の国体『太陽』24-3、3月1日[太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)収録]
 中欧帝国の運命[「時事短評」]『日本一』4-3、3月1日
 世界列国の恐怖[「時事短評」]『日本一』4-3、3月1日
 目賀田男の使命[「時事短評」]『日本一』4-3、3月1日
 民主主義の外交[「時事短評」]『日本一』4-3、3月1日
 妥協は憲政の本義[「時事短評」]『日本一』4-3、3月1日
 現代の危険なる思想『実業之日本』21-6、3月15日

危険思想の国家及び社会に及ぼす害『実業之日本』21-7、4月1日
参戦目的と出兵問題『太陽』24-4、4月1日
西伯利亚出兵問題[「時事短評」]『日本一』4-4、4月1日
単独講和と联合国[「時事短評」]『日本一』4-4、4月1日
東洋に於ける日米関係[「時事短評」]『日本一』4-4、4月1日
民主々義の解決[「時事短評」]『日本一』4-4、4月1日
製鉄所事件[「時事短評」]『日本一』4-4、4月1日
実質無き教育『教育時論』1187、4月5日
人皆天下[「天下を取るの法」]『日本及日本人』728、4月5日
浪費亡国論『実業之日本』21-8、4月10日
危険思想退治策『実業之日本』21-9、4月15日
危険思想は此真理の穿き違ひから『実業之日本』21-10、5月1日
明年又は明後年まで[「欧州西部大戦に徴して戦争は長引くかどうか」]『実業之日本』21-10、5月1日
戦中戦後の世界的三大勢力『太陽』24-5、5月1日
仏蘭西大革命の戦争と現欧州大戦との比較『大観』1-1、5月1日
誤解を一掃せよ[「日本一時評」]『日本一』4-5、5月1日
米国の対露政策[「日本一時評」]『日本一』4-5、5月1日
歴史上の偉観[「日本一時評」]『日本一』4-5、5月1日
統一は分離の端[「日本一時評」]『日本一』4-5、5月1日
危険思想の解毒剤『実業之日本』21-11、5月15日
転業の際熟考すべき二要点『実業之日本』21-12、6月1日
新民主主義の提唱と对国家問題『大観』1-2、6月1日[太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』
(新泉社、1971年)収録]
田尻式の伝播[「日本一時評」]『日本一』4-6、6月1日
帝大の改革[「日本一時評」]『日本一』4-6、6月1日
次の内閣に望む[「日本一時評」]『日本一』4-6、6月1日
青年団の指導[「日本一時評」]『日本一』4-6、6月1日
独逸の平和運動[「日本一時評」]『日本一』4-6、6月1日
部下の心服を得る主人『実業之日本』21-13、6月1日
新時代の雇主と雇人の関係『実業之日本』21-14、7月1日[『生活戦術』収録]
戦後米国の外交は帝国主義か平和主義か『大観』1-3、7月1日
新亜細亜主義(東洋モンロー主義の新解釈)『太陽』24-9、7月1日
後藤外相は名人乎[「日本一時評」]『日本一』4-7、7月1日

- コ殿下の御来朝[「日本一時評」]『日本一』4-7、7月1日
- 独逸の攻勢[「日本一時評」]『日本一』4-7、7月1日
- カイゼルのエネルギー[「日本一時評」]『日本一』4-7、7月1日
- 新卒生に望む[「日本一時評」]『日本一』4-7、7月1日
- 理想の避暑法[「日本一時評」]『日本一』4-7、7月1日
- 新式実業経営策『実業之日本』21-15、7月15日
- 自発的努力と組織的協力『実業之日本』21-16、8月1日
- 英国前外相グレー卿の国際同盟論に就て『太陽』24-10、8月1日
- 西伯利亚と出兵[「日本一時評」]『日本一』4-8、8月1日
- 飛行機の不備[「日本一時評」]『日本一』4-8、8月1日
- 大学学制問題[「日本一時評」]『日本一』4-8、8月1日
- 日本と水害論[「日本一時評」]『日本一』4-8、8月1日
- 浪費国たる勿れ[「日本一時評」]『日本一』4-8、8月1日
- 科学的研究と人格の尊厳『実業之日本』21-17、8月15日
- 売るよりも買はせ目録を示すよりも品物を直ちに示せ『実業界』17-3、9月1日
- 根本的に改革すべき人物採用法『実業之日本』21-18、9月1日
- 組織なければ自由なし『大観』1-5、9月1日
- トライチケの軍国主義政治学を読む『太陽』24-11、13、9月1日、11月1日
- 此の一路あるのみ[「日本一時評」]『日本一』4-9、9月1日
- 独軍敗退[「日本一時評」]『日本一』4-9、9月1日
- 諸民族の崛起[「日本一時評」]『日本一』4-9、9月1日
- 第二維新の国是[「日本一時評」]『日本一』4-9、9月1日
- 米暴動と立憲政治[聖代の不祥事米騒動]『日本一』4-9、9月1日
- 作業的教育と教育的作業『実業之日本』21-19、9月15日
- 新経営法の教示する労働者待遇法『実業之日本』21-20、10月1日
- 上層階級の險悪なる風潮『大観』1-6、10月1日
- 終を完うして政党内閣をして本及第たらしめよ[「原内閣に対する希望」]『中央公論』33-10、10月1日
- 後継内閣の使命[「日本一時評」]『日本一』4-10、10月1日
- 国民経済調査会[「日本一時評」]『日本一』4-10、10月1日
- 政党何故に無力なる乎[「日本一時評」]『日本一』4-10、10月1日
- 婦人の決定的勢力『婦人画報』152、10月1日
- 新経営法の要求する将来の実業家『実業之日本』21-22、10月15日

民本主義の工業『実業之日本』21-23、11月1日
ウイルソン氏の宣言と媾和の基礎『大観』1-7、11月1日
独逸講和提議の真意如何[「日本一時評」]『日本一』4-11、11月1日
原内閣と二大政党 果して政党政治実現すべきか[「日本一時評」]『日本一』4-11、11月1日
山県公と元老会議の立消[「日本一時評」]『日本一』4-11、11月1日
時代錯誤の思想[「講和問題と日本」談]『大阪朝日新聞』11月4日[『新聞集成大正編年史 大正七年度版 下』
(明治大正昭和新聞研究会、1977年)収録]
工業経営の新研究『実業之日本』21-24、11月15日
平和主義と国力の充実『やまと新聞[夕刊]』10744~10746、11月23~25日
欧米の工業者と失敗の同轍に立てる我工業者『実業之日本』21-25、12月1日
独逸の革命と大戦終局の意義『太陽』24-14、12月1日
独逸失敗の根本原因『実業之日本』21-26、12月15日

1919 (大正8) 年

平和第一年の新所感『実業之日本』22-1、1月1日
必ず革新施設を要すべき点[「世界大戦の与へたる教訓」]『実業之日本』22-1、1月1日
大戦の教訓と社会問題『財政経済時報』6-1、1月1日
世界の大大勢と日本の態度 戦後に於ける我国策を如何にすべきか『朝鮮公論』7-1、1月1日
大正八年を迎ふ『日本一』5-1、1月1日
文明改造の道德的方面『廓清』9-1、1月15日
世界的大国民としての修養『実業之日本』22-2、1月15日
親の自覚を要す『教育時論』1216、1月25日
講和会議の段取[「日本一時評」]『日本一』5-2、2月1日
支那和平問題[「日本一時評」]『日本一』5-2、2月1日
使命を果せるルーズヴェルト[「日本一時評」]『日本一』5-2、2月1日
国際聯盟と国民教育『実業之日本』22-3、2月1日
働かぬ人の前途は暗黒なり『ときのこゑ』556、2月11日
国際的国民教育の二要素『実業之日本』22-4、2月15日
国際的同情と謙遜『実業之日本』22-5、3月1日
日本のデモクラシー『大観』2-3、3月1日
巴里講和会議の難関[「日本一時評」]『日本一』5-3、3月1日
日支両委員の反目[「日本一時評」]『日本一』5-3、3月1日
普通選挙要求運動[「日本一時評」]『日本一』5-3、3月1日

- 労働問題と当局の意見[「日本一時評」]『日本一』5-3、3月1日
- 成功と個性発揮『武侠世界』8-4、3月1日
- [「労働組合公認可否」]『労働及産業』91、3月1日
- 一国の利益と世界の利益『実業之日本』22-6、3月15日
- 四十年の旧友『家庭週報』508、3月21日[仁科節編『成瀬先生伝』(桜楓会出版部、1928年)、日本女子
大学校二十五回生編『成瀬先生追懷録』(桜楓会出版部、1928年)収録]
- 民主主義と我が国体『向上』13-4、4月1日
- 国産奨励と戦後の新経営『国産時報』4-4、4月1日
- 世界的の大運動となったデモクラシーの新意義『実業之日本』22-7、4月1日
- 選挙法改正案の通過[「日本一時評」]『日本一』5-4、4月1日
- 人種的差別撤廃問題[「日本一時評」]『日本一』5-4、4月1日
- 徴兵制度廃止と日本[「日本一時評」]『日本一』5-4、4月1日
- 朝鮮暴動と朝鮮自治策[「日本一時評」]『日本一』5-4、4月1日
- 社会主義取締に関する質問[「日本一時評」]『日本一』5-4、4月1日
- 婦人問題は科学的に解決せよ『婦人問題』2-4、4月1日
- 米人を理解する九つの急所『実業之日本』22-8、4月10日
- 人種差別撤廃の提案を評す『実業之日本』22-9、4月15日
- デモクラシーの教育『現代教育』70、5月1日
- 人種問題と国民教育『実業之日本』22-10、5月1日
- 再考を要する人種平等案[「日本一時評」]『日本一』5-5、5月1日
- 国際労働問題と我が資本家[「日本一時評」]『日本一』5-5、5月1日
- 日本のデモクラシー[「日本一時評」]『日本一』5-5、5月1日
- 過激派全欧に瀰蔓[「日本一時評」]『日本一』5-5、5月1日
- 輿論教育の必要『実業之日本』22-11、5月15日
- [「男子大学開放問題」]『婦女新聞』993、5月15日
- 国際上に於ける輿論の力『実業之日本』22-12、6月1日
- ウイルソン氏のモンロー主義を評す『大観』2-6、6月1日
- ウキルソン氏の宣伝的外交『太陽』25-7、6月1日
- 独逸屈従す可き乎[「日本一時評」]『日本一』5-6、6月1日
- 外交は失敗か成功か[「日本一時評」]『日本一』5-6、6月1日
- 朝鮮統治の根本的改善[「日本一時評」]『日本一』5-6、6月1日
- 海外移民は最早や奨励す可からず[「日本一時評」]『日本一』5-6、6月1日

国内労働改善の急務[「日本一時評」]『日本一』5-6、6月1日
大正の青年と新道徳『岡山市聯合青年会雑誌』12、6月10日
東洋モンロー主義の樹立『実業之日本』22-13、6月15日
海外移民は最早や奨励す可きに非ず 日本の人口繁殖率減退 移民奨励は国民的自殺の政策なりと浮田博士
の新意見[談]『日布時事』6月22日
カウエル嬢の死は何を語るか『実業之日本』22-14、7月1日
日本内部の社会的な大戦[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
支那の排日騒動と我朝野[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
御し難きは官僚軍閥浮浪人[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
朝鮮人虐殺事件善後策[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
労働組合の新紀元[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
俸給賃銀の値上の第一策[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
低能児のみが教員軍人に[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
将来の軍備は航空軍[「日本一時評」]『日本一』5-7、7月1日
[「日本青年の発展すべき天地」]『冒険世界』12-7、7月1日
世界的の渦巻に『海か陸か』8-7、7月5日
大戦後に於ける国民の覚悟『中国民報』7月8~10、13、14日
労働問題は今や国際的にも斯く重大となつた『実業之日本』22-15、7月15日
ヒューズフィラン両氏の対日宣言批判『実業之日本』22-16、8月1日
講和条約成立と新世界の形勢(日本は如何にして世界の大勢に順応すべきか)[「平和克復と日本の将来」]『朝
鮮公論』7-8、8月1日
平和と英米仏三国同盟[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
独逸の再興は何時の日か[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
国際労働大会委員の人選[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
前独帝を如何に処分する[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
支那委員の調印拒絶[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
支那に対する米国の同情[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
小学教員の同盟罷業[「日本一時評」]『日本一』5-8、8月1日
人種問題の解釈[於第8回時局研究会]『時局の研究』7、8月10日
労働組合速に生れよ『実業之日本』22-17、8月15日
一五新聞職工の同盟罷業[「日本一時評」]『日本一』5-10、9月1日
新聞大合同を慫慂[「日本一時評」]『日本一』5-10、9月1日
内相の所謂縦断的職工組合[「日本一時評」]『日本一』5-10、9月1日

- 朝鮮総督の更迭[「日本一時評」]『日本一』5-10、9月1日
- 世襲貴族の運命[「日本一時評」]『日本一』5-10、9月1日
- 同盟罷業解決の一提案『実業之日本』22-18、9月1日
- 試金石上に立てる刻下の日本『実業之日本』22-19、9月15日
- 国際労働会議と日本の態度『中国民報』9月30日、10月1~4日
- 世界最初の国際労働会議[「日本一時評」]『日本一』5-11、10月1日
- 我が労働会議委員[「日本一時評」]『日本一』5-11、10月1日
- 講和大使に対する頌徳の程度[「日本一時評」]『日本一』5-11、10月1日
- 同盟罷工と官憲の態度一変[「日本一時評」]『日本一』5-11、10月1日
- 斎藤総督の遭難は何を物語る[「日本一時評」]『日本一』5-11、10月1日
- 日本の為に此の上無き幸[「日本一時評」]『日本一』5-11、10月1日
- 平等要求の運動と精神『大観』2-10、10月1日
- 思想の健不健を測る標準『実業之日本』22-20、10月1日
- 此際我政府資本家の取るべき方針[「国際労働問題」]『実業之日本』22-21、10月15日
- 第一流の執務家となる資格『実業之日本』22-22、11月1日
- 普通選挙の真意義[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- 税制改革は不可能[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- 最初の世界的労働会議[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- 婦人労働者既に斯くの如し[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- 労働者教育の急務[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- 不可解なる巡查の内職[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- 米国大統領と上院[「日本一時評」]『日本一』5-12、11月1日
- *精神的労働運動[談]『大阪新報』11月4日<神戸大学付属図書館「新聞記事文庫」所蔵>
- 絶対に改造不可の三事あり『実業之日本』22-23、11月15日
- 日本政府の労働会議に誓約した三大事『実業之日本』22-24、12月1日
- 戦後の世界と改造の根本義『朝鮮及満洲』150、12月1日
- 朝鮮統治の過去及未来[「如何に朝鮮を統治すべきか」]『朝鮮及満洲』150、12月1日
- 新支那内閣成立[「日本一時評」]『日本一』5-13、12月1日
- 『健康第一』を提唱す『海か陸か』8-12、12月5日
- 大仕掛に暴露せられた我國民の短所『実業之日本』22-25、12月15日
- 我憲政の前途『早稲田叢誌』2、12月25日

1920（大正9）年

- 資本家と労働者の根本的謬想『実業之日本』23-1、1月1日
- 新人物出現の必要条件『東方時論』5-1、1月1日
- 国際労働会議の成績批判『日本一』6-1、1月1日
- 危険思想『読売新聞』1月6日
- 貴族的本能満足の機会を万人に與へよ『実業之日本』23-2、1月15日
- 学究発表の圧迫は立憲政治の無視 政党は何故に黙するか クロボトキン宣伝なら悪いが[談]『河北新報』1月16日
- 〔「普通選挙標語(我社に寄せたる諸名家の論集)」〕『国民新聞』1月23日
- 解決すべき三個の重大問題『実業之日本』23-3、2月1日
- 改造よりも創造『日本一』6-2、2月1日
- 歴史哲学上より見たる現今の思想統一問題『早稲田学報』300、2月10日
- 国の大計を誤る二大事件〔「西伯利駐屯軍を撤するの可否」〕『実業之日本』23-4、2月15日
- 新社会は新思想を要求す『実業之日本』23-5、3月1日
- 教育の社会化—国家の人的発展と教育の刷新—『内外教育評論』14-3、3月1日
- 産業上に立憲代議制の活用『実業之日本』23-6、3月15日
- 思想言論の自由の為に〔於森戸問題大演説会〕『廓清』10-3、3月31日
- 今次の解散に対する厳正批判『大観』3-4、4月1日
- 東洋連盟を主張す『東亜日報』創刊号、4月1日
- 布哇現下のストライキも力の強弱が勝敗を決する 労働者の要求が正当であり有力な労働同盟の組織あらば勝つ道理だ 二重教育を施すのは考物である[談]『日布時事』4月1日
- 母国を去るに臨みて『日本一』6-4、4月1日
- 思想言論の自由の為に〔2月7日講演(於森戸氏筆禍事件大講演会)〕『文化運動』111、4月1日
- 布哇現下のストライキも力の強弱が勝敗を決する 労働者の要求が正当であり有力な労働同盟の組織あらば勝つ道理だ 二重教育を施すのは考物である[談]『日布時事』4月1日
- 在留民は心機一転の必要がある 布哇は大和民族の世界的発展を試験する地である 排米的態度は不可也 浮田博士今朝来社して語る[談]『日布時事』4月2日
- 普通選挙問題と二重教育〔4月1日歓迎会席上の演説概略(於ヌアヌ青年会館)〕『布哇報知』4月2日
- 日本人が米国に同化するは米国が日本に同化する所以 真に世界に同化し得る大和民族の創造 日本語学校は進んで処決せよ〔4月1日講演筆記於ヌアヌ青年会主催歓迎午餐会〕『日布時事』4月2日
- 在留同胞よ、後を見ず故国を顧ずして進め 世界の市民として立ち排日は尊敬と思ひて努力せよ〔4月11日講演「世界に於ける日本人の位置」概要(於サター青年会館)〕『日米[The Japanese American News]』4月12日
- 浮田博士の講演会 危険思想の比較研究〔4月12日講演概要於サクラメント日本小学校講堂〕『日米[The Japanese American News]』4月14日

- 他人の立場で自己を観る修養『実業之日本』23-8、4月15日
- 浮田博士演説会 正義に実力兼併せよ[4月16日講演要旨於プレスノ市日本ホール]『日米[The Japanese American News]』4月19日
- 米国主義と日本主義[講演梗概]『羅府新報』4月21～23日
- 外遊に際して青年諸君に告別する『寸鉄』2-5、5月1日
- 人間改造の十大原則『大観』3-5、5月1日
- 宗教大改革の必要『道』145、5月1日
- Nippon wa Rikkennokoku darô ka 『RÔMAJI』15-5、5月1日
- 欧米の跡をたどる日本の思想界は未だ幼稚[談]『紐育新報』620、5月15日
- 支那人の愛郷心『新支那』5月19日
- アメリカニズムと日本主義 民主々義は変形せる英国の貴族主義『紐育新報』627、6月5日
- 社会改造の十大原則『文明協会講演集』4、6月25日
- 人間改造論の批判『早稲田叢誌』3、7月13日
- 世界の十字街『太平洋之十字街』<『評論之評論』特別号>7月30日<大阪府立中之島図書館所蔵>

1921 (大正 10) 年

- 自由正義の原則に基く社会『自由評論』9-1、1月1日
- 外遊中に痛感した四事件『実業之日本』24-7、4月1日[『勝利への路』収録]
- 欧州文明の新傾向『大観』4-4、4月1日
- 帰朝第一眼に映じたる日本の現状と恢復策『日本一』7-4、4月1日
- 日米間の禍根、海外発展の大障害 在米邦人の二重国籍問題『実業之日本』24-8、4月15日[『勝利への路』収録]
- 欧米旅行感想談『文明協会講演集』4月15日
- 行悩める欧亜両大陸の国際政局『大観』4-5、5月1日
- 科学的軍備制限に対する私の見解『ちから』1、5月1日
- 創立者若し存命ならば『家庭週報』611・612、5月3日
- 日米人相互理解の鍵『実業之日本』24-10、5月15日[『勝利への路』収録]
- 文明協会研究要項と外遊感想『文明協会講演集』5月15日
- [文明協会]研究要項(草案)『文明協会講演集』5月15日
- 海外から日本を回顧『新支那』5月17、20、21日
- 海外より観たる日本『斯民』16-6、6月1日
- 欧米お墓行脚[談話大意於永楽倶楽部]『寸鉄』3-6、6月1日
- 貞操の倫理と離婚の自由『大観』4-6、6月1日

米国の外交振りを評す『中央公論』36-6、6月1日
海外より見たる日本『中外新論』5-6、6月1日
ブルッセルの曙『帝国青年』6-6、6月1日
英国も議会は死物『日本一』7-6、6月1日
戦後一変せる英人の対米観念『実業之日本』24-12、6月15日[『勝利への路』収録]
海外より見たる日本『文明協会講演集』6月15日
日本人の常識を改造せよ『実業之日本』24-13、7月1日[『勝利への路』収録]
大奈翁の墳墓を訪ねて『大観』4-7、7月1日
国を離れて観た日本婦人『婦人画報』186、7月1日
蓄妾廃止と恋愛結婚『婦人世界』16-7、7月1日
欧洲大戦の歴史的意義に就て『早稲田学報』317、7月10日
ナポレオンの墓『文明協会講演集』7月15日
我が実業界に応用したき米国会社工場の立憲代議制『実業之日本』24-15、8月1日[『勝利への路』収録]
不安動揺の世界を周遊して切にエマーソンの思想的復活を想ふ『大観』4-8、8月1日
欧州大戦の歴史的意義『太陽』27-10、8月1日
社会改善の両端 道路改善と漢字全廃『日本一』7-8、8月1日
ラッド教授を憶ふ[談]『東京朝日新聞』8月12日[『新聞集成大正編年史 大正十年度版 中』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]
エマーソンの墓『文明協会講演集』8月15日
英国議会政治改造論『文明協会講演集』8月15日
欧州大戦の教訓[5月8日講演於龍門社第65回春季総集會講演会]『龍門雜誌』399、400、8月25日、9月25日
パカード会社の従業規約5ヶ条『実業之日本』24-17、9月1日[『勝利への路』収録]
太平洋上か大西洋上か[「太平洋上の争覇戦と日本」]『大観』4-9、9月1日
将来の世界平和を左右す可き太平洋會議問題『日本一』7-9、9月1日
恋愛を解放せよ『恋愛』1-9、9月1日
英米の争覇と世界平和『文明協会講演集』9月30日
協調難に陥れる日英米『大観』4-10、10月1日
米國に於ける民意自発の宣伝実例『実業之日本』24-20、10月15日[『勝利への路』収録]
英米の調和難『文明協会講演集』10月15日
世界平和政策の樹立如何『大観』4-11、11月1日
教育費削減問題と教育の改善『日本一』7-11、11月1日
邦人世界発展の最捷経路『実業之日本』24-22、11月15日[『勝利への路』収録]

国際聯盟と太平洋會議『文明協會講演集』11月15日
覚めよ時代の迷路に立てる国民『大観』4-12、12月1日
文明と平和とは両立するか否か『家庭週報』641、12月2日

1922 (大正 11) 年

社会を護る武器と自分を護る武器『実業之日本』25-1、1月1日[『勝利への路』収録]
新道徳の中心問題と婦人の解放『大観』5-1、1月1日
吾人の大隈侯に就いて学ぶべき中心点は何か『実業之日本』25-3<大隈侯哀悼号>、2月1日[『勝利への路』収録]
政治家としての大隈侯『大観』5-2、2月1日
国際政局上の新気運[「四国協商と東洋の平和」]『大観』5-2、2月1日
婦人問題に就いて『文明協會講演集』2月15日
華府會議の結果必然改造すべき国内の社会生活『実業之日本』25-5、3月1日[『勝利への路』収録]
海軍縮小より陸軍縮小へ『大観』5-3、3月1日
日本に於ける基督教の前途『道』167、3月1日
独露復活の曙光『大観』5-4、4月1日
今は方法を研究の時代[「産児制限の可否問題」]『婦人世界』17-4、4月1日
先頃来遊せる英国新聞王ノースクリフ卿の『日本観』に対し特に国民の傾聴し反省すべき重要点『実業之日本』25-8、4月15日[『勝利への路』収録]
余の一身上の苦しき経験の自白『実業之日本』25-10、5月15日[『勝利への路』収録]
ゼノア會議に現はるべき二大傾向『文明協會講演集』5月15日
世界文明の新傾向『自由評論』10-6、6月1日
新時代の貞操と再婚奨励論[「貞操道徳の新しい解釈」]『婦人世界』17-6、6月1日
文化国の具備すべき四大条件『実業之日本』25-12、6月15日[『勝利への路』収録]
国民主義から国際主義へ『実業之日本』25-13、7月1日[『勝利への路』収録]
宿題としての日米問題『文明協會講演集』7月25日
墓地撰定委員『同志社時報』200、8月1日
我が国民将来の死活問題『実業之日本』25-16、8月15日[『勝利への路』収録]
青年男女の自由交際に就いて時代遅れの母に与ふる公開状『婦人世界』17-9、9月1日
人間完成の三大要件『実業之日本』25-18、9月15日[『勝利への路』収録]
克己の理想『実業之日本』25-19、10月1日[『勝利への路』収録]
現代の悩みを救ふものは婦人『婦人世界』17-10、10月1日
団体的自治精神の涵養『実業之日本』25-21、11月1日[『勝利への路』収録]

アメリカでも珍しい試験結婚『婦人世界』17-11、11月1日
クエ式療法を青年の処世に活用せよ『実業之日本』25-23、12月1日[『勝利への路』収録]
カアライルの家『住宅』7-12、12月1日
恋愛と自由結婚『性』6-6[通号40]、12月1日
新時代の婦人は何を恥とすべきか『婦人世界』17-12、12月1日

1923 (大正12) 年

運命を支配する力の修養法『実業之日本』26-1、1月1日[『勝利への路』収録]
人類の破滅を救ふは女性の力『婦人世界』18-1、1月1日
斯の如き青年は必ず社中有用の人人とならん『実業之日本』26-3、2月1日[『勝利への路』収録]
人の夫たるものの新道徳『婦人世界』18-2、2月1日
現代政治の新活路[「台日講壇」]『台湾日日新報』2月10、13、14日
米国工場の立憲代議制『工場世界』4-4、2月20日
奮闘の戦場へスタートを切つた人人に『実業之日本』26-5、3月1日[『勝利への路』収録]
主婦が職業を持つことの幸不幸『婦人世界』18-3、3月1日
熱誠には福音来る『実業之日本』26-7、4月1日[『勝利への路』収録]
男女相愛の外になし[「私の望む理想の結婚」]『主婦之友』7-4、4月1日
世界の再生は婦人の双肩にかかる『婦人世界』18-4、4月1日
Nippongo no uchi kara Shinamoji wo sute yo 『RÔMAJI』18-3・4、4月1日
浮田和民博士演説[3月22日演説「雑録 故総長御一周年追悼会」の中]『早稲田学報』338、4月10日
十五年の回顧『文明協会講演集』4月25日
一日は一日より善くあれ『実業之日本』26-9、5月1日[『勝利への路』収録]
頻々たる凌辱事件の勃発に際し社会の輿論は何故に沸騰せざるか『婦人世界』18-5、5月1日
根気は青年の最強武器『実業之日本』26-11、6月1日[『勝利への路』収録]
私は不言実行主義で今日までかうして娘に性教育を施して来た『婦人世界』18-6、6月1日
青年と不動心『実業之日本』26-13、7月1日[『勝利への路』収録]
人間の生活に必要な条件『実業之日本』26-15、8月1日
社会改造の根本義『表現』3-8、8月1日
誘惑に超越する心の構へ方『婦人世界』18-8、8月1日
人生の旅路には此態度を取れ『実業之日本』26-17、9月1日
新しき時代の母の責任『婦人世界』18-9、9月1日
平生の解決[震災と宗教体験]『基督教世界』2085、11月1日

真に自覚して進め[談「帝都復興と青年」]『新青年』4-13、11月15日

軍隊の精神と国民の元気『後援』1313、12月3日

1924 (大正 13) 年

復興の精神『廓清』14-1、1月10日

[「普通選挙の可否に関する名士の意見」]『太陽』30-1、1月1日

前進する日本[「最近の感想」]『東京朝日新聞』1月29日[『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 上ノ上』
(明治大正昭和新聞研究会、1986年)収録]

復興問題に就て『文明協会講演集』3月10日

エドモンド、パークと島田三郎氏[12月8日演説於早稲田大学沼南会主催故島田三郎氏追悼演説会]『廓清』
14-3、3月10日

[「余が日常試みつつある健康法」]『実業之日本』27-7、4月1日

自由の蹂躪と大学自治制の冒涇『早稲田大学新聞』36、6月11日

真剣となつて此警鐘を聴け『実業之日本』27-13、7月1日

恐ろしきは火災[「大震災後一ケ年間の感想」]『太陽』30-11、9月1日

[1924年9月14日付アーヴィング・フィッシャー宛書簡]『文明大観』5、10月20日

調停は第三者に委せよ[「郵船争議を中心として見たる重役社員を如何に観るか」]『太陽』30-13、
11月1日

社会問題としての誘拐事件[「我社同人の家庭に起つた女中誘拐問題」]『婦人世界』19-12、12月1日

今後人類の運命を決するは生物学的科学である—『世界化学史』を讀みて—[談話筆記]『読売新聞』付録「ブ
ック・マン」1-1、12月15日

日米問題の解決案[「探してみるもの」]『東京朝日新聞』12月26日

1925 (大正 14) 年

啖と唾[「余が外遊の所感中是丈けは是非日本で改良したいと思ふ事」]『実業之日本』28-1、1月1日

今後人類の運命を決するは生物学的化学である 『世界化学史』を讀みて『同志社時報』227、2月1日

普選実施の影響と女子参政権問題『太陽』31-4、4月1日

巻頭の辞『早稲田政治経済学雑誌』1、5月18日

国家的の国家を形成するローマ法王『太陽』31-8、6月15日

宮島君を送る『文明大観』7月1日

同志社柱石のラーネツト先生に就いて『同志社時報』234、10月1日

日本の対支政策『我観』25、11月1日

1926（大正15・昭和元）年

軍事教育の是非『太陽』32-1、1月1日

無産政党的使命と其大成期『我観』28、2月1日

〔国際聯盟常任理事国問題に対する諸氏の意見〕『国際知識』6-4、4月1日

太平洋上に於ける日本の国際的地位『太陽』32-4、4月1日

国民に相応の議会〔此の醜悪劣等極る政治を革清するには〕『新使命』3-5、5月1日

精神の改造『道』215、5月1日

米国憲法論 藤井新一氏の新著を読む〔読書ペーヂ 新著週評〕『東京朝日新聞』6月13日

英国の炭坑と我小作争議〔我国にも総罷業は起り得る?〕『我観』33、7月1日

国家問題として見たる産児調節『太陽』32-12、10月1日

1927（昭和2）年

模範青年十二則『キング』3-4、4月1日

我は世界の市民なり〔海外発展者諸子におくる言葉〕『植民』6-4、4月1日

女子大学の創立者成瀬仁蔵君を偲ぶ『家庭週報』886、4月29日

1928（昭和3）年

現立憲政治の現状及将来『我観』51、1月1日

大偉人ナポレオン〔世界英傑伝ナポレオン〕『キング』4-1、1月1日

総選挙に際して〔談〕『日本警察新聞』739、2月10日

現代立憲政治の虚脱〔思潮〕『日本警察新聞』750、6月1日

アメリカの新しい哲学〔訳：原著 Bertrand Russel, "The new philosophy of America", *The Fortnightly Review*, May, 1928〕『文明協会ニュース』8月10日

政治上の民族主義と経済上の国際主義『早稲田政治経済学雑誌』11、9月1日

1929（昭和4）年

昭和維新の意義に就て『早稲田学報』408、2月10日

試みに言はしめよ『成瀬君若し世に在らば』『家庭週報』975、3月15日

過渡期に直面せる日本帝国『我観』65、4月1日

日本の維新と神の王国『基督教世界』2371、6月27日

教育の三要件『家庭週報』1000、10月10日

〔記事「高田坪内市島浮田四先生古希祝賀会」中の挨拶〕『早稲田学報』417、11月10日

1930（昭和5）年

- 吉田作弥兄を憶ふ『道』261、3月1日
成瀬君を憶ふ『家庭週報』1022、3月21日
「政党学」を読む『東京朝日新聞』3月28日
諸君侏儒に終ること勿れ—マーデン博士の自己大成訓『キング』6-6、6月1日
諸君常に微笑せよ—マーデン博士の名訓『キング』6-7、7月1日
日本を脅威する腹背の敵『文明協会ニュース』8月10日

1931（昭和6）年

- 「明日の女性に要求される一つの資格」『婦人之友』25-1、1月1日
「今後十年の予言」『婦人之友』25-6、6月1日
現代社会思想と女子教育『家庭週報』1088、1089、7月23日、8月7日
史学管見『史観』1、11月15日

1932（昭和7）年

- 死ぬまで一貫した侯独特の抵抗力[故大隈重信侯十年祭談話]『報知新聞』4月10日
「浮田博士を囲む座談会二つ」中の談『同志社校友同窓会報』63、4月15日
満州問題と国際聯盟『文明協会ニュース 日本と世界』2、5月20日
十年祭に際し故大隈侯を憶ふ『文明協会ニュース 日本と世界』2、6月5日
「湯浅治郎翁を悼む」『基督教世界』2524、6月23日
日本は聯盟を脱退すべきか『文明協会ニュース 日本と世界』3、7月10日
夢いずこ『早稲田学報』437、7月10日
「同志社教育を中心とする座談会」『同志社校友同窓会報』63、7月??日
議会政治はどうなるか『文明協会ニュース 日本と世界』4、8月10日
Reminiscence of the late Marquis Okuma upon his tenth anniversary『DAI NIPPON 大日本』1-2、8月10日
満州国の後に来るもの—中華民国は何処へ行く『文明協会ニュース 日本と世界』5、9月10日
日米愚戦論『文明協会ニュース 日本と世界』6、10月10日
リットン報告書を読み『文明協会ニュース 日本と世界』7、11月10日
国際聯盟と満州問題—再びリットン報告書に就て『文明協会ニュース 日本と世界』8、12月10日
「巴里規約三年間の発展」概括短評『文明協会ニュース 日本と世界』9、12月10日

1933 (昭和 8) 年

- 「世界からなくしたいもの」『婦人之友』27-1、1月1日
- 国際聯盟の本質的使命『文明協会ニュース 日本と世界』10、1月10日
- 日本は何を採るべきか—フアシズムとポリシエヴィズムを検討して『文明協会ニュース 日本と世界』11、2月10日
- 第二維新の到来『文明協会ニュース』12、3月10日
- 永久に新しい成瀬先生の人格『家庭週報』1168~1170、3月10、17、24日
- 満州国独立及国際聯盟『文明協会ニュース 日本と世界』4月10日
- Reflections on the independence of Manchukuo and the League of nations『文明協会ニュース 日本と世界』4月10日
- 新モンロー主義『文明協会ニュース 日本と世界』5月10日
- 世界経済会議所感『文明協会ニュース 日本と世界』7月10日
- 老衰退嬰の文教当局—京大滝川事件に関して『文明協会ニュース 日本と世界』8月10日
- 大山・中野・永井君「教へ子の思ひ出」『実業之日本』36-19、10月1日
- ナショナリズム対インターナショナリズム『文明協会ニュース 日本と世界』0月10日
- 国際経済戦争と世界平和『文明協会ニュース 日本と世界』12月10日

1934 (昭和 9) 年

- Reflections on the independence of Manchukuo and the League of nations『DAI NIPPON 大日本』1月30日
- 教育改革の基礎的問題『文明協会ニュース 日本と世界』2月10日、3月10日、4月10日、5月10日、6月10日、7月10日、9月10日
- 大国民と自負する勿れ『新国民』59-4、7月5日
- 総合教育の実現「[新教育への期待—自由学園男子部新設についての感想—]」『婦人之友』28-9、9月1日
- 国民主義から国際主義へ『新国民』59-6、9月5日
- 熱誠には福音来る『新国民』60-1、10月5日
- 教育改造の基礎的問題『文明協会ニュース 日本と世界』10月10日、11月10日

1935 (昭和 10) 年

- 「いまの日本に欲しいもの」『婦人之友』29-1、1月1日
- 克己なき所に成功なし『新国民』60-6、3月5日
- 現代戦争、その究竟の原因及び文明の将来に対する意義『文明協会ニュース 日本と世界』102、103、3月10日、4月10日[『浮田和民論集』収録]
- 青年と不動心『新国民』61-1、4月5日

人間完成論『新国民』61-4、7月5日

世界の公議輿論『文明協会ニュース 日本と世界』106、108、7月10日、9月10日[『浮田和民論集』収録]

人生の学校に卒業なし『新国民』61-5、8月5日

先づ自己に忠実たれ『新国民』61-6、9月5日

運命を支配せよ『新国民』62-1、10月5日

危険なる憲法論『文明協会ニュース 日本と世界』110、11月10日[『浮田和民論集』収録]

The modern war, its ultimate cause and significance on the future of the civilization 『DAI NIPPON 大日本』6月5日

1936 (昭和 11) 年

世界の公議輿論(上)『進む日本』1-2、2月1日

無題[「雑録」欄]『丁酉倫理会講演集』400、2月1日

人生行路の羅針『新国民』62-5、2月5日

浮田博士謝辞[浮田先生喜寿祝賀会]『早稲田学報』492、2月10日

総選挙の意義『文明協会ニュース 日本と世界』114、115、117、3月10日、4月10日、6月10日[『浮田和民論集』収録]

完備した図書館学園の誇り朝河教授『早稲田大学新聞』144、7月1日

時間に恵まれぬ人達に与へる最も有効な読書法『新国民』63-6、9月5日

On the realities of religion and the International peace 『DAI NIPPON 大日本』12月1日

1937 (昭和 12) 年

[「1. 私の憂ひ 2. 私の喜び(又は希望)】『婦人之友』31-1、1月1日

[「婦人公民権は時機到来か】『女性展望』11-2、2月1日

宗教の現実性と国際平和『文明協会ニュース 日本と世界』124～126、2月10日、3月10日、4月10日
[『浮田和民論集』収録]

[「名士の観た第二世】『日布時事』5月5日

支那事変の動機及び終極目的を全世界に宣言せよ『文明協会ニュース 日本と世界』132、10月10日[『浮田和民論集』収録]

1938 (昭和 13) 年

[「1. 日本のために欣ぶ 2. 日本のために慍く】『婦人之友』32-1、1月1日

世界に対する日本国民の責任『文明協会ニュース 日本と世界』135、1月10日

戦争平和に関する国際共同の責任を認識せよ『文明協会ニュース 日本と世界』138、4月10日[『浮田和

民論集』収録]

七十年の回顧『廓清』28-4、4月10日

〔「小崎名誉牧師の追憶」』『人道』59、4月15日

Humanity at the crossroads, *The Waseda Guardian*, No. 9, Oct. 25

人種改良と結婚問題[文責在記者]『人道』66、11月15日

1939 (昭和 14) 年

〔「1. 長期の努力によつて出来た事 2. 長期にわたつて建設したい事」』『婦人之友』33-1、1月1日

十字街頭に立つ人類『文明協会ニューズ 日本と世界』148、2月10日[『浮田和民論集』収録]

平沼淑郎博士を偲びて『経済史学』5、5月8日

不老長寿の法『科学知識』19-9、9月1日

現代文明の大矛盾『科学知識』19-10、10月1日

現代文明の大矛盾[『科学知識』より転載] 『文明協会ニューズ 日本と世界』156、10月10日[『浮田和民論集』収録]

現代文明の大矛盾 新重農政策の提唱[11月22日講演概要(於同志社神学館)] 『同志社新報』41、11月20日

1940 (昭和 15) 年

〔「皇紀二千六百年の女性に望む」』『婦選』14-1、1月1日

〔「二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ」』『婦人之友』34-1、1月1日

1941 (昭和 16) 年

〔「新総長大学長に望む」』『同志社新報』61、9月20日

新時代の政治『[早稲田大学]政治経済講義』??月??日

1961 (昭和 36) 年

『我が宗教観』を読み我が人生観を述ぶ『早稲田大学工業高等学校研究年誌』4、3月??日[池田美代二「浮田和民博士遺稿・『我が宗教観』を読み、我が人生観を述ぶ(後編)」中]

III 文明協会刊行書目

大日本文明協会が叢書として刊行した書目は、文明協会編『財団法人大日本文明協会三十年誌』（文明協会、1938年）16～19、66～67、223～226頁に、「第1次刊行書目」（1908～1911年）51巻、「第2次刊行書目」（1912～1914年）48巻、「第3次刊行書目」（1914～1915年）24巻、「第4次刊行書目」（1916～1920年）60巻、「大正十年度刊行書」（1921年）12巻、「精訳叢書」（1922～1927年）60巻、「文明レクチュア」（1926～1927年）12巻、「文明協会ライブラリ」（1928～1931年）48巻が記載されている。ただし、「文明レクチュア」として記載されている書目には混乱があり、「精訳叢書」12巻、「文明協会ライブラリ」12巻が混入している。また、刊行された書名と若干異なる場合もある。

以下は、上記叢書として刊行された書目、合計315巻である。原本は、早稲田大学中央図書館・国立国会図書館・奈良県立奈良図書館・奈良女子大学付属図書館・大阪市立大学学術情報総合センター・静岡県立中央図書館で確認した。

上記叢書以外にも、新刊の単行書、既刊書の書名変更による再刊等がある。これらは、刊行年次末に注記した。翻訳原典等の注記は[]に示した。「序」または「例言」等で編訳者が明記されているものは個人名を記した。「文明協会編集部」の署名のある序文等には、浮田執筆と思われるものもあるが、浮田署名の序文・跋文があるものについてのみ、*を付した。

第1次刊行書目(1908～1911年)

1908(明治41)年

*大日本文明協会編『欧米人の日本観』全3巻(～1909年)

トインビー(吉田巳之助訳)『英国産業革新論』[Arnold Toynbee, *Lectures on the industrial revolution of the eighteenth century in England*]

1909(明治42)年

大日本文明協会編(北崎進著)『日米交渉五十年史』

大日本文明協会編(松浦政泰訳)『近世名婦伝』

*イリー、ル・ラッシングナル『社会政策二論』[安部磯雄訳『社会主義と社会改良主義』(Richard Theodore Ely, *Socialism, an examination of its nature, its strength and its weakness, with suggestions for social reform*)と、井上芳麿訳『排社会主義論』(James Edward Le Rossignol, *Orthodox socialism: a criticism*)を収録]

ウィリアムズ(中瀬古六郎訳)『十九世紀科学之進歩』[Henry Smith Williams, *The story of nineteenth century science*]

ウェルズ(梅若誠太郎訳)『近時の経済変動』[David Ames Wells, *Recent economic changes: and their effect on the production and distribution of wealth and the well-being of society*]

*ウェルズ(吉村大次郎訳)『第二十世紀予想論』[Herbert George Wells, *Anticipations of the reaction of mechanical and scientific progress upon human life and thought*]

カルデコット(水崎基一訳)『英国植民史』[Alfred Caldecott, *English colonization and empire*]

セーニョボス(煙山専太郎訳)『現代文明史』[Charles Seignobos, *Histoire de la civilisation contemporaine*]

ブーミー(加藤直士訳)『大英国民』[Emile Gaston Boutmy, *The English people: a study of their political psychology*]

ピアスン(中島茂一訳)『国民性情論』[Charles Henry Pearson, *National life and character: a forecast*]

ボザンケ夫人(田中達訳)『家族論』[Helen Dendy Bosanquet, *The family*]
ライヒ(宮井安吉訳)『国民功業論』[Emil Reich, *Success among nations*]
ロリア(平沼淑郎訳)『社会の経済的基礎』[Achille Loria, *La teoria economica della costituzioni politica*.
仏語版 *Les bases économique de la constitution sociale*. 英語版 *The economic foundations of society*]

1910(明治 43)年

大日本文明協会編『世界の宗教』
大日本文明協会編(煙山専太郎・大類伸編)『近世泰西英傑伝』全5巻(～1911年)
イナマ・シュテルネク(姉齒準平訳)『現代生活の新問題』[Karl Theodore Ferdinand Michael von Inama-Sternegg, *Neue Probleme des modernen Kulturlebens*]
イリー(後藤長栄訳)『産業社会の進化』[Richard Theodore Ely, *Studies in the evolution of industrial society*]
ウイアー(和田琳熊訳)『近世欧洲文化史論』[Archibald Weir, *The historical basis of modern Europe*]
カルデコット(水崎基一訳)『英国植民史補遺』[Alfred Caldecott, *English colonization and empire* 日本語版のための補遺および著者序文を収録]
ジード(安藤忠義訳)『社会経済学』[Charles Gide, *Economie sociale*]
セーニョボス(山崎直胤・山崎直三訳)『欧洲現代政治史』全2巻(～1911)[Charles Seignobos, *Histoire politique de l'Europe contemporaine*]
セリグマン(三上正毅訳)『租税論』[Edwin Robert Anderson Seligman, *Essays in taxation*]
ドーソン(東讓三郎訳)『現代独逸の発展』[William Harbutt Dawson, *The evolution of modern Germany*]
バーカー(村井知至訳)『仏国人之仏国』[Edward Harrison Barker, *France of the French*]
バートン(古仁所豊訳)『恐慌論』[Theodore Elijah Barton, *Financial crises and periods of industrial and commercial depression*]
メチニコフ(中瀬古六郎訳)『人性論』[Elie Metchnikoff, *Etudes sur la nature humaine*]
モンロー(石田新太郎他訳)『世界教育史要』[Paul Monroe, *A brief course in the history of education*]
ライヒ(村田勤訳)『近世欧羅巴の基礎』[Emil Reich, *Foundations of modern Europe*]
ラティマー(松平康国訳)『十九世紀末年史』[Elizabeth Wormeley Latimer, *The last years of the nineteenth century*]
ル・ボン『群衆心理』[Gustave Le Bon, *La psychologie des foules*. 英訳版 *The crowd: a study of the popular mind*]
ル・ボン(前田長太訳)『民族発展の心理』[Gustave Le Bon, *Lois psychologiques de l'évolution des peuples*]
レッキー(徳広萬・三浦範三訳)『欧洲道德史』全2巻(～1911)[William Edward Hartpole Lecky, *History of European morals, from Augustus to Charlemagne*]
ローリエ(戸川秋骨訳)『比較文学史』[Frédéric Auguste Loliée, *Histoire des littératures comparees des origines au XXe siècle*. 英訳版 *A short history of comparative literature from the earliest times to the present day*]

1911(明治 44)年

ヴィリアーズ・ウォーデル(久松貞明訳)『西班牙人の西班牙』[Mrs. Janie Villiers-Wardell, *Spain of the Spanish*]
エリオット(井上留次郎他訳)『土耳其帝国』[Sir Charles Norton Edgcumbe Eliot, *Turkey in Europe*]
ギルマン夫人(大多和たけ・小山順子・小出貞子訳)『婦人と経済』[Charlotte Perkins Stetsson Gilman, *Women and economics: a study of the economic relation between men and women as a factor in social evolution*]
クロマー(安田勝吉・古谷頼綱訳)『最近埃及』全2巻[1st Earl of Evelyn Baring Cromer, *Modern*

Egypt

マクファアソン(大庭寛一訳)『政治的發展の一世紀』[Hector Carsewell Macpherson, *Century of political development*]

ミュンスターバーク(岡村多志計訳)『米国民』[Hugo Münsterberg, *The Americans*]

1912(明治45・大正元年)

フォスター(平沼淑郎校訂・大庭寛一訳)『米国の対東外交』[John Watson Foster, *American diplomacy in the Orient*]

第2次刊行書目(1912~1914年)

1912(明治45・大正元年)

*大日本文明協会編『欧米人の極東研究』

*ツインメルン(岸本能武太訳)『伊太利及伊太利人』[Helen Zimmern, *Italy of the Italians*]

フイエ(稲垣末松訳)『欧洲各国国民の心性』全2巻[Alfred Fuillé, *Esquisse psychologique des peuples Européens*]

ミーキン(武市綾子・雨宮三亥子訳)『過渡時代の婦人』[Annette M. B. Meakin, *Woman in transition*]

メチニコフ(中瀬古六郎訳)『不老長寿論』[Elie Metchnikoff, *Etudes optimistes sur vieillesse, longevité, et morts naturelle*]

1913(大正2年)

大日本文明協会編(伊藤重次郎訳・解説)『国際商業及交通』[第1篇「対外商業政策」(George Mygatt Fisk, *International commercial policies* 訳)、第2篇「海洋運輸論」(Amory R. Johnson, *Ocean and inland water transportation* と *Elements of transportation : a discussion of steam railroad electric railway and ocean and inland water transportation* による解説、Léon Clément Colson, *Transports et tarifs* 抄訳)、第3篇「鉄道及鉄道政策」(Josef Grunzel, *System der Verkehrspolitik* と *Verkehrspolitik* [Grundriss der Wirtschaftspolitik, Bd. 5])による解説]

大日本文明協会編『舞踊と歌劇』[アーリン『舞踊』(Ethel L. Urlin, *Dancing, ancient and modern*)と、ストリートフィールド『歌劇』(R. A. Streatfield, *The opera*)を纂訳]

ウォード(遠藤隆吉・伊藤輔利・葛西又次郎訳)『応用社会学』[Lester Frank Ward, *Applied sociology*]

ウォレス(中瀬古六郎・吉村大次郎訳)『生物の世界』[Alfred Russel Wallace, *The world of life*]

カーリントン、ミーダー(松本雲舟訳)『死の研究』[Hereward Carrington & John Richard Meader, *Death, Its causes and phenomena*]

ギブソン(広部一訳)『近世応用電気学』[Charles R. Gibson, *The romance of modern electricity*]

ギブソン(広部一訳)『今日の科学思想』[Charles R. Gibson, *Scientific ideas of to-day*]

キロス(野明儀右衛門訳)『近代犯罪学説』[C. Bernaldo de Quirós Constancio, *Las nuevas teorías de la criminalidad*. 「附録」として、浮田直樹訳「最近一世紀間に於ける監獄改良の進歩」(*A century of progress in prison reform*)、留岡幸助「ジョン、ハワード伝」を収録]

クラフト・エビング(黒沢良臣訳)『変態性欲心理』[Richard von Krafft-Ebing, *Psychopathia Sexualis*]

*クーリッジ(瀧山良一訳)『世界的米合衆国』[Archibaldo Cary Coolidge, *The United States as a world power*]

クレマンソー(前田長太訳)『今日の南亜米利加』[Georges Clémenceau, *Notes de voyage dans l'Amérique du sud*]

ケブナー(塩沢昌貞訳)『植民政策』[Otto Koebner, *Einführung der Kolonialpolitik*]

ナウマン(岡田甲子之助訳)『経済政策』全2巻[Friedrich Karl Naumann, *Neudeutsche*]

Wirtschaftspolitik

- ハーター(後藤格治訳)『生物学的人性観』[Christian A. Herter, *Biological aspects of human problems*]
フィッシャー(横山昌次郎訳)『資本及収入論』[Irving Fisher, *The nature of capital and income*]
ベアリング(衛藤利夫訳)『露国民』[Maurice Baring, *The Russian people*]
マクファーソン(戸川明三訳)『近代思想界の変遷』[Hector Macpherson, *A century of intellectual development*.「附録」として、「人間の王国」(Edwin Ray Lankester, *The kingdom of man* 抄訳)を収録]
マシューズ(中村吉蔵訳)『欧洲演劇史』[Brander Matthews, *The development of the drama*]
マーティン(広部一訳)『近代化学の勝利』[Geoffrey Martin, *Triumphs and wonders of modern chemistry*]
ミヘルス(森孝三訳)『政党社会学』[Robert Michels, *Zur Soziologie des Parteiwesens in der modernen Demokratie*]
ラック(中村康之助訳)『動力』[Charles Edward Lucke, *Power*]
ロック(阿部文夫訳)『趨異遺伝及進化』[Robert Heath Lock, *Recent progress in the study of variation, heredity, and evolution*]
ロース(高橋正熊訳)『社会統制論』[Edward Alsworth Ross, *Social control*]

1914(大正 3)年

大日本文明協会編『墨西哥』

- アダムズ、サムナー(安部磯雄訳)『労働問題及びサンデイカリズム』[「労働問題」(Thomas Sewall Adams and Helen Laura Sumner Woodbury, *Labor problems: a text book*)と、「サンデイカリズムと労働問題」(Sir Arthur Temple Felix Clay, *Syndicalism and labour: notes upon some aspects of social and industrial questions of the day* 抄訳)を収録]
ウェッブ夫妻(安部磯雄訳)『国民共済策』[Sidney Webb & Beatrice Potter Webb, *The prevention of destitution*]
エリス(大鳥居奔三・田制佐重訳)『夢の心理』[Havelock Ellis, *The world of dreams*]
オイケン(三並良訳)『宗教の真諦』全 2 巻[Rudolf Eucken, *Der Wahrheitsgehalt der Religion*]
オストワルト(後藤格次訳)『価値の哲学』[Wilhelm Ostwald, *Die Philosophie der Werte*]
ジョーズ(井上留治郎訳)『濠洲及其諸島』[Arthur W. Jose, *History of Australasia*]
ダヴェンポート(中瀬古六郎・吉村大次郎訳)『人種改良学』[Charles B. Davenport, *Heredity in relation to eugenics*]
ノルダウ(中島茂一訳)『現代の墮落』[Max Simon Nordau, *Entartung*.「附録」として、内ヶ崎勝次郎訳「非墮落論」(*regeneration, a reply to Max Nordau*)を収録]
プライス(大日本文明協会訳)『西比利亚』[Morgan Philips Price, *Siberia*]
ファイフ(犬塚岸三訳)『現今の南阿』[Henry Hamilton Fyfe, *South Africa to-day: with an account of modern Rhodesia*]
ブラウン(佐久間秀雄訳)『近代立法の精神』[William Jethro Brown, *The underlying principles of modern legislation*]
ブレイ(留岡幸助訳)『都市の児童』[Reginald George Arthur De Bray, *The town child*]
メイ(衛藤利夫訳)『軍事世界地理』[Edward Sinclair May, *An introduction to military geography*]
モーガン(大鳥居奔三訳)『比較心理学』[Conwy Lloyd Morgan, *An introduction to comparative psychology*]
ライト(大日本文明協会編輯部訳)『北極』[Helen Saunders Wright, *The great white north*]
ルナール(森純正編訳)『航空学』[「航空学」(Paul Renard, *L'aeronautique*)と「飛行学」(Paul Renard, *L'aviation*)を編訳]

第3次刊行書目(1914~1915年)

1914(大正3)年

- 大日本文明協会編『国際的現代日本』
 ウイリアムズ(本田親二訳)『科学の奇蹟』[Henry Smith Williams, *Miracles of science*]
 ガーバー(中島半次郎訳)『現代の教育的運動』[John Palmer Garber, *Current educational activities*
抄訳]
 トムソン(安藤喜一郎訳)『遺伝』[J. Arthur Thomson, *Heredity*]
 ヘッケル(後藤格次訳)『生命の不可思議』全2巻(～1915)[Ernst Heinrich Haeckel, *Die Lebenswunder*]
 ル・ボン(前田長太訳)『革命の心理』[Gyustave le Bon, *La révolution française et la psychologie des révolutions*]

既刊書の一部書名を変更して「現代欧洲叢書」全10巻を刊行。既刊書名は[]に記す。

セーニョボス『欧洲現代政治史』上・下、セーニョボス『欧洲現代文明史』[『現代文明史』]、ドーソン『現代独逸』[『現代独逸の発展』]、バーカー『現代仏蘭西』[『仏国人之仏国』]、ブーミー『現代英国及英国国民』[『大英国国民』]、ラティマー『十九世紀末年史』、ライヒ『近世欧羅巴の基礎』、ウイアー『近世欧洲文化史論』、マクファーソン、ウェルズ『十九世紀欧洲政治思想史 附第二十世紀論』[マクファーソン『政治的發展の一世紀』とウェルズ『第二十世紀予想論』の合冊本]。

1915(大正4)年

- 大日本文明協会編(阪田貞一・市川忠一・鈴木達治編)『欧米の製造業』全2巻
 ギブソン(安藤喜一郎訳)『学術的発見史』[Charles R. Gibson, *The romance of scientific discoveries*]
 クローチェ(桂井當之助訳)『実際の哲学』[Benedetto Croce, *Filosofia della pratica*]
 グロース(寺田精一訳)『犯罪心理学』[Hans Gustav Adolf Gross, *Kriminal-Psychologie*]
 ダーウィン(阿部文夫訳)『種の起原の基礎』[Charles Darwin, *The foundations of the origin of species*]
 ツィーグラ(岡田甲子之助訳)『近世独逸社会思潮』全2巻[Theobald Ziegler, *Die geistigen und sozialen Strömungen Deutschlands im neunzehnten Jahrhundert*]
 * ビューロー(ほか(杉山重義編)『独逸世界政策』[ビューロー(菊池剛太郎訳)『独逸帝国』(Fürst Bernhard von Bülow, *Imperial Germany*)、アッシュャー(吉川潤二郎訳)『汎日耳曼主義』(Roland Greene Usher, *Pan-Germanism*)、リヒテンベルジェ(井上留次郎訳)『現時の独逸』(Henri Lichtenberger, *L'Allemagne moderne*)の編訳]
 フォーレル(黒沢良臣訳)『性慾研究』[Auguste Forel, *Die sexuelle Frage*]
 フラートン(石沢久五郎訳)『列強権力問題』[William Morton Fullerton, *Problems of power*]
 ヘルパツハ(渡辺徹訳)『風土心理学』[Willy Hellpach, *Die geopsychischen Erscheinungen*]
 ベロー(前田長太訳)『実証道徳』[Gustave B lot, *Etudes de morale positive*]
 ホイットビ(横山有策訳)『人物の要素』[Charles J. Whitby, *Makers of man : a study of human initiative*]
 ホエザム(藤井繁一訳)『科学思想発達史』[William Cecil Dampier Whetham & Catherine Durning Whetham, *Science and the human mind*]
 マイノット(荒木文助訳)『年齢成長及死』[Charles Sedgwick Minot, *The problem of age, growth, and death*。「附録」として、フォーレル「生命と死」(Auguste Forel, *Leben und Tod*)を収録]
 ルーピン(大日本文明協会訳)『現今の猶太種族』[Arthur Ruppin, *Die Juden der Gegenwart*]

日本史料調査会(版權所有兼発行者：大鳥居奔三)から、叢書「現代五大強国」全5巻として、バーカー『仏国人之仏国』、ドーソン『現代独逸の発展』、ブーミー『大英国国民』、ベアリング『露国民』、ミュンスターバーグ『米国民』を、『現代独逸』『現代英国及英国国民』『現代仏蘭西』『現代米国』『現代露国及露国民』と題して刊行。

既刊の大日本文明協会編『世界の宗教』、ローリエ(戸川秋骨訳)『比較文学史』、メチニコフ(中瀬古六郎訳)『人性論』のほか、モンロー『世界教育史要』を『提要世界教育史』と題して再刊、ル・

ボンの『民族発展の心理』と『群衆心理』を合冊して、ル・ボン『民族心理及群衆心理』と題して再刊。

第4次刊行書目(1916~1920年)

1916(大正5年)

大日本文明協会編『欧洲大戦の経験』

大日本文明協会編『日本人の海外発展』

大日本文明協会編『墺地利匈牙利』

寺田精一『婦人と犯罪』

服部文四郎編『戦時及戦後の経済』

キング(田制佐重纂訳)『教育と社会』[Irving King, *Social aspects of Education*]

クリステンゼン(佐久間秀雄訳)『群衆と政治』[Arthur Christensen, *Politics and crowd morality*.「附録」として、エムリー「政治家政党及国民」(Henry Crosby Emery, *Politician, party and people*)を収録]

コンクリン(原田三夫訳)『遺伝と境遇』[Edwin Grant Conklin, *Heredity and environment in the development of men*]

* フィノー『幸福学』[Jean Finot, *La science du bonheur*]

フェルスター『結婚と両性問題』[Friedrich Wilhelm Foerster, *Sexualethik und Sexualpädagogik*]

* マクスウェル『現代社会心理』[Joseph Maxwell, *Psychologie sociale contemporaine* 抄訳]

ルカ(衛藤利夫訳)『恋愛の進化』[Emil Lnocka, *Eros: the development of the sex relation through the ages*, tr. by Ellie Schleussner]

1917(大正6年)

大日本文明協会編『日本の科学界』

アリオッタ(田制佐重訳)『現代哲学の批判』[Antonio Aliotta, *La reazione idealistica contro la scienza* の英訳版 *The idealistic reaction against science*]

グッドノウ(佐久間秀雄訳)『憲政の運用』[Frank Johnson Goodnow, *Principles of constitutional government*]

センプル(小田内通敏訳)『地的環境と人生』[Ellen Churchill Semple, *Influences of geographic environment* 抄訳]

ゾンバルト(佐久間秀雄訳)『資本主義の精髓』[Werner Sombart, *Die Quintessenz des Kapitalismus*]

* ドレッサー『能力の研究』[Horatio Willis Dresser, *Human efficiency*]

* ハルセーユ『暗黒面の独逸』[Henry de Halsalle, *Degenerate Germany*]

ヒッピウス(飯塚半衛訳)『児童生活と其教養』[Alexander duardovich Hippus, *Der Kinderarzt als Erzieher*]

ホルムズ『人格養成論』[Arthur Holmes, *Principles of character making* 抄訳]

ル・ボン(川合貞一訳)『欧洲大戦の心理的教訓』[Gustave Le Bon, *Enseignements psychologiques de la Guerre Européene*]

ロックウッド『富の創造』[James Harry Lockwood, *The creation of wealth*.「附録」として、カーネギー「近代的の富」(Andrew Carnegie, *Problems of to-day*)を収録]

ロッジ(藤井白雲訳)『心霊生活』[Sir Oliver Lodge, *Survival of Man*]

1918(大正7年)

大日本文明協会編『民衆芸術』

- アボット(勝俣銓吉郎・小島幸治訳)『日米問題』[James Francis Abbot, *Japanese expansion and american policies*.「附録」として、アッシュヤー「汎亜米利加主義」(Roland Greene Usher, *Pan-Americanism: a forecast of the inevitable clash between the United States and Europe's victor* 抄訳)を収録]
- カーペンター『愛と死』[Edward Carpenter, *The drama of love and death*]
- ケー(原田実訳)『婦人運動』[Ellen Karolina Sofia Key, *The woman movement*]
- ケラー(志水義暉訳)『社会進化論』[Albert Galloway Keller, *Societal evolution*]
- コリアット(佐藤亀太郎訳)『変態心理学』[Isador Henry Coriat, *Abnormal psychology*]
- シュマッカー(本田親二編訳)『進化の意義』[Samuel Christian Schmucker, *The meaning of evolution*]
- * スミス(田中達・蒲生治郷訳)『経済的道德主義』[James Haldane Smith, *Economic moralism*]
- ノイハウス(岡田甲子之助訳)『独逸の職業組織』[Georg Neuhaus, *Die berufliche und soziale Gliederung des deutschen Volkes*]
- フェルスター(島村民蔵訳)『少年と道徳』[Friedrich Wilhelm Foerster, *Jugend Lehre* 抄訳]
- マーティン(黒田道行訳)『最近化学界の驚異』[Geoffrey Martin, *Modern chemistry and its wonders* 抄訳]
- ル・ボン『民族心理及群衆心理』[縮刷版]のほか、ジェラード(島谷亮輔訳)『独逸は何故敗ぬか』[James Watson Gerard, *My four years in Germany*]、モリス(田中達訳)『生物界と人生』[『明日の問題叢書』(Robert T. Morris, *Tomorrow's topics series*)抄訳]、エレン・ケー(本間久雄訳)『戦争平和及将来』[Ellen Karolina Sofia Key, *War, peace, and the future* 抄訳]を刊行。

1919(大正 8)年

- 市川忠一『科学的管理法』
- * ウォルシュ(伊勢泉蔵訳)『文明の極致』[Correa Moylan Walsh, *The climax of civilisation*]
- オッグ(柳田泉・宮沢末男訳)『現代の社会的進歩』[Frederic Austin Ogg, *Social progress of contemporary Europe*]
- オーブル(田制佐重・石田善佐編訳)『英独教育の比較』[Frans de Hovre, *German and English education : a comparative study*]
- キング(柳田泉・宮沢末男訳)『生活費削減問題』[Clyde Lyndon King, *Lower living costs in cities: a constructive programme for urban efficiency*]
- * タウン(堀江朔訳)『社会問題』[Ezta Thayer Towne, *Social problems*]
- ニコライ(田制佐重訳)『生物学的戦争観』[Georg Friedrich Nicolai, *The biology of war* 抄訳]
- バーカー(吉川潤二郎訳)『経済的経国論』[J. Ellis Barker, *Economic statesmanship*]
- ヒル『欧洲の改造』[David Jayne Hill, *The rebuilding of Europe: a survey of forces and conditions*.「附録」として、ヒル「近代の国家組織」(*World organization and modern state* 抄訳)を収録]
- * マーヴィン『西洋文明の統一』[Francis Sydney Marvin, *The unity of Western civilization*]
- * マシューズ(田中達訳)『歴史の精神的解釈』[Shailer Mathews, *The spiritual interpretation of history*.「附録」として、「革命後の進歩」(Francis Sydney Marvin, *The living past: a sketch of western progress* 抄訳)を収録]
- * ロビンソン『性的知識』[William Josephus Robinson, *Sex knowledge for men* と *Sex knowledge for women* の意訳]
- ロリア他(村岡清次訳)『戦争と経済関係』[「戦争と経済関係」(ロリア『社会の経済的基礎』Achille Loria, *Les bases économiques de la justice internationale*. 英訳版 *The economic causes of war*, tr. by John Leslie)、ピグー「戦費の分配」(Arthur Cecil Pigou, *The economy and finance of the war: being a discussion of the real costs of the war and the way in which they should be met*)]
- カーペンター(宮島新三郎訳)『民本主義の産業』[Edward Carpenter, *Towards industrial freedom*]、* ヒューズ『新理想国』[Thomas J. Hughes, *State socialism after the war : an exposition of complete state socialism, what it is: how it would work*]、* ブラッドベリー『文明と女性』[Harriet Bowker Bradbury, *Civilization and womanhood*]を刊行。

メチニコフ『不老長寿論』の再刊のほか、既刊書の一部書名を変更し「社会問題叢書」全6巻(～1920)として、アダムズ、サムナー『労働問題』(既刊『労働問題及びサンデイカリズム』)、ウェッブ夫妻『防貧策』(既刊『国民共済策』)、イリー『産業社会の進化』、ジード『労働の改造』(既刊『社会経済学』)、イリー『社会主義論』(既刊『社会政策二論』所収『社会主義と社会改良主義』)、ロリア『社会の経済的基礎』(既刊『戦争と経済関係』所収『社会の経済的基礎』)を再刊。

1920(大正9)年

- 大日本文明協会編『欧洲大戦と発明』
グレゴリー(田制佐重訳)『科学の精神と其効用』[R. A. Gregory, *Discovery or the spirit and service of science*]
ゴリカン(伊勢県蔵訳)『結婚の心理』[Walter Matthew Gallichan, *The psychology of marriage*]
ジョンストン(小野寺一勇訳)『生物の哲学』[James Johnstone, *Philosophy of biology*]
ステナー(薄田貞敬訳)『日本の侵略』[Jesse Frederick Steiner, *The Japanese invasion: a study in the psychology of inter-racial contacts*]
トトミアンツ『消費組合論』[Vakhan Fomich Totomians, *Theorie, Geschichte und Praxis der Konsumentenorganisation*]
ハーンショウ(田制佐重訳)『岐路に立つデモクラシー』[Fossey John Cobb Hearnshaw, *Democracy at the crossways*]
ビーブル『商業的露国及亜比利』[William Henry Beable, *Commercial Russia*]
ブレンド(金木萩花訳)『国家と保健』[William Alfred Brend, *Health and the state*]
ラッセル(浮田和民・宮島新三郎訳)『社会改造の理想と実際』[浮田和民訳「政治的理想」(Bertrand Arthur William Russel, *Political ideals*)と宮島新三郎訳「自由への道」(Bertrand Arthur William Russel, *Road to freedom*)を収録]
ペリー(田中達訳)『現代理想の葛藤』全2巻[Ralph Barton Perry, *The present conflict of ideals: a study of the philosophical background of the world war*抄訳]

既刊のゾンバルト『資本主義の精髓』、クリステンゼン『群衆と政治』のほか、浮田和民『世界改造の目的と方法』を刊行。

1921 年度刊行書

- ヴァン・ダイク(奥俊郎訳)『亜米利加魂』[Henry Van Dyke, *The spirit of America*]
カーソン(幡谷正雄・伏見茂雄訳)『結婚の革命』[William E. Carson, *The marriage revolt*]
カールトン(田制佐重訳)『教育と産業進化』[Frank Tracy Carlton, *Education and industrial evolution*]
キング(宮沢末雄訳)『産業の人道化』[William Lyon Mackenzie King, *Industry and humanity*]
ダンカン(小野寺一勇訳)『現代科学之基礎』[Robert Kennedy Duncan, *The new knowledge*]
デッケルト(煙山専太郎訳)『英国と其領土』[Emil Deckert, *Das Britische Weltreich* 訳と Hereford Brooke George, *A historical geography of the British Empire* の抄訳を合本]
デュラント(西宮藤朝訳)『哲学と社会問題』[Will Durant, *Philosophy and social problems*]
ブラス(武者金吉訳)『生の神秘』[Stanley de Brath, *Mysteries of life*]
マッキーヴァー(田制佐重訳)『世界の変遷と労働』[Robert Morrison MacIver, *Labor in the changing world*]
モダーウェル(横山有策訳)『近代劇研究』[Hiram Kelly Moderwell, *The theatre of today*]
リーチ(柳田泉訳)『人と人』[John Leitch, *Man-to-man*]
ウォーラス(大島居奔三訳)『社会の心理的解剖』[Graham Wallas, *The great society: a psychological analysis*, 1914]

スロソソ(大日本文明協会訳)『アインシュタインの相対性原理解説』(Edwin Emery Slosson, *Easy lessons in Einstein*)を刊行。既刊のカーリントン、ミューダー(松本雲舟訳)『死の研究』、オイケン(三

並良訳『宗教の真諦』のほか、コリアット(佐藤亀太郎訳)『変態心理学』を『変態心理』と題して再刊。

精訳叢書(1922～1927年)

1922(大正 11)年

- キッド(田制佐重訳)『社会遺伝』[Benjamin Kidd, *Science of power*]
 ケネリー(大鳥居兼三訳)『婦人解放と性の壊滅』[Arabella Kenealy, *Feminism and sex-extinction*]
 * シュタイナー、ギディングス(坂本義雄、鹽見清訳)『三重組織の国家と責任国家論』[坂本義雄訳『三重組織の国家』(Rudolf Steiner, *The threefold state: the true aspect of the social question*)と鹽見清訳『責任国家論』(Franklin Henry Giddings, *Responsible state, a reexamination of fundamental political doctrines in the light of world war and the menace of anarchism*)を収録]
 バーンズ(竹内泰編訳)『世界政治へまで』[Cecil Delisle Burns, *International politics*と *Political ideals : an essay*]
 * ベアー(小島幸治訳)『近代英国社会主義史』[Max Beer, *History of British socialism* 抄訳]
 ポペノー、ジョンソン(照沼哲之助訳)『応用優生学』[Paul Bowman Popenoe & Roswell Hill Johnson, *Applied eugenics*]
 マロック(尾原亮太郎訳)『社会主義批判』[William Hurrell Mallock, *A critical examination of socialism*]
 ランケスター(武者金吉訳)『海陸の神秘』[Sir Edwin Ray Lankester, *Secrets of earth and sea*]
 レウイス(荘保勝蔵訳)『現代都市計画』[Nelson Peter Lewis, *The planning of the modern city*]
 ローレンス(今村源三郎訳)『国際社会史論』[Thomas Joseph Lawrence, *The society of nations*]
 ロェブ(宇田一訳)『生体論』[Jacques Loeb, *The organism as a whole*]
 既刊のホイットビ(横山有策訳)『人物の要素』を刊行。

1923(大正 12)年

- 大隈重信『東西文明の調和』[出版者:早稲田大学出版部、共同刊行:実業之日本社・大日本文明協会]
 カナン(飯田敏雄訳)『社会組織の解剖』[Gilbert Cannan, *The anatomy of society*]
 ゴローピン(赤司繁太郎訳)『今日の太平洋問題』[Nikolai Nikolaevich Golovin, *The problem of the Pacific in the twentieth century*]
 スタンダール(大戸徹誠訳)『性愛』[Stendhal, *De l'amour* 抄訳]
 スミス(武者金吉訳)『百歳不老』[A. Laphorn Smith, *How to be useful and happy from sixty to ninety*]
 * トウライン(塚越菊治訳)『無限生活』[Ralph Waldo Trine, *In tune with the infinite*]
 ニッチ(村田勤訳)『平和なき欧羅巴』[Francesco Saverio Nitti, *Peaceless Europe*]
 パトリック(薄田貞敬訳)『弛緩心理論』[George Thomas White Patrick, *The psychology of relaxation*]
 ブートルー(村山勇三訳)『哲学に於ける科学と宗教』[Etienne Emile Marie Boutroux, *Science et religion dans la philosophie contemporaine*]
 マッケープ(武者金吉訳)『世の終り』[Joseph McCabe, *The end of the world*]
 リップマン(山崎勉治・中島行一訳)『輿論』[Walter Lippmann, *Public opinion*]

1924(大正 13)年

- 文明協会編『日米国際紀要』
 大日本文明協会編(辻井真編)『燃料問題の将来』
 大日本文明協会編(武者金吉編)『近代科学の諸問題』

- イヴァーノフ(片上伸訳)『インティエリゲンツィヤ』[Razumnik Vasil'evich Ivanov, *Обинтелигенци* 抄訳]
- ヴァルワ(鈴木貫一郎訳)『新経済学』[Georges Valois, *L'économie nouvelle* 抄訳]
- カーペンター(宮島新三郎訳)『吾が日吾が夢』[Edward Carpenter, *My days and dreams* 抄訳]
- * コール(竹内泰訳)『社会理想学』[George Douglas Howard Cole, *Social theory*]
- コンクリン(寺尾新訳)『人類進化の帰趨』[Edwin Grant Conklin, *The direction of human evolution*]
- ドンキャスタ(宇田一訳)『性の決定』[Leonard Doncaster, *The determination of sex*。「附録」として、モルガン(Thomas Hunt Morgan)「性の遺伝」を収録]
- バーカー(小島幸治訳)『晩近英国政治思想論』[Sir Ernest Barker, *Political thought in England from Herbert Spencer to the present day*]
- ハッチンソン(青木茂訳)『文明と保健』[Woods Hutchinson, *Civilization and health* 抄訳]
- ハンチントン(武者金吉訳)『地球と太陽』[Ellsworth Huntington, *The earth and the sun*]
- * ビスマルク(定金右源二訳)『政局は斯くして動く』[Fürst von Otto Eduard Leopold Bismarck, *Gedanken und Erinnerungen* 抄訳]
- マーヴィン(丸山岩吉訳)『世界文明の統一』[Francis Sydney Marvin ed., *Western races and the world*]

1925(大正 14)年

- 大日本文明協会編『明治文化の記念と其批判』
- 渡辺幾治郎『日本社会問題史観』
- アスキス夫人(岡島亀次郎訳)『アスキス夫人自叙伝』[Margot Asquith, *The autobiography of Margot Asquith*]
- ウォーラス(岡島亀次郎訳)『社会伝統論』[Graham Wallas, *Our social heritage*]
- エリス(岡島亀次郎訳)『生命の舞踏』[Havelock Ellis, *The dance of life*]
- コール(浮田和民訳)『産業自治論』[George Douglas Howard Cole, *Self - government in Industry*]
- ジェンティール(田中豊訳)『改造教育』[Giovanni Gentile, *La riforma dell'educazione*]
- チェーホフ(三宅賢訳)『サガレン紀行』[Anton Pavlovich Chekhov, *Ostrov Sakhalin*]
- ホブソン(今村源三郎訳)『失業経済』[John Atkinson Hobson, *Economics of unemployment*。「附録」として、カークコンネル「失業の国際的観察」(Watson Kirkconnell, *The international aspect of unemployment* 抄訳)を収録]
- * マクドゥーガル(宮沢末男訳)『聚団心理』[William McDougal, *The group mind*]
- ミシュレ(林柁木訳)『詩の昆虫』[Jules Michelet, *L'insecte*]

1926(大正 15・昭和元年)

- カイザーリンク(下山鎌吉・江川和彦訳)『カイザーリンクの日本観』[Hermann Keyserling, *Das Reisetagebuch eines Philosophen*. 英訳版 *The travel diary of a philosopher* 抄訳]
- * デュギー(吉田作弥訳)『現代政治の社会化及産業化』[Léon Duguit, *Les transformations du droit public*]
- パイウォーター(石丸藤太訳・評)『太平洋戦争と其批判』[Hector C. Bywater, *The great Pacific War*]
- ハーバート(堀江頼広訳)『民族と其問題』[Sydney Herbert, *Nationality & its problems*] 研カ 1 03355-03356
- フィッシャー(横山昌次郎訳)『物価安定論』[Irving Fisher, *Stabilizing the dollar, a plan to stabilize the general price level without fixing individual prices*]
- ホルムズ(浮田和民・佐藤惣三郎訳)『人類の運命』[Samuel Jackson Holmes, *The trend of the race*]
- ロー(横山有策訳)『カーライル及ラスキンの社会哲学』[Frederick William Roe, *The social philosophy of Carlyle and Ruskin*]

以下、「文明レクチュア」叢書

文明協会編『波斯より土耳其まで』[縫田栄四郎「ペルシヤ事情」、志賀重昂「日本人の閑却してゐたアラビヤ地方」、山岡光太郎「回教国と回教徒の生活」、笠間梶雄「トルコの近情」]

佐藤寛次『日本農業其特質と改善』

杉山重義『食糧問題の解決として産児制限の価値』

中島半次郎『公民教育要領』

服部文四郎『国際貿易と金融』

林久治郎・古谷重綱『日本人の斧鉞を待つ暹羅と墨西哥』

1927(昭和2)年

文明協会編(井関忠正訳)『比例代表制度論』[「政治的代表的改革」(J. Fisher Williams, *The reform of political representation*)と「世界は如何に選挙するか」(Charles Seymour and Donald P. Frary, *How the world votes*)の抄訳編纂]

クローチェ(薄田貞敬訳)『現世訓』[Benedetto Croce, *The conduct of life*]

サローリー(浮田和民訳)『露西亞大観』[Charles Sarolea, *Impressions of Soviet Russia*]

* バークリス(石丸藤太訳)『戦機は斯くして動く：次の戦争の原因』[John Edwin Bakeless, *The origin of the next war*]

フライシュマン(長崎常訳)『穀類専売論』[Edgar Fleischmann, *Das Gestreidemonopol in der Schweiz, Seine rechtlichen, wirtschaftlichen und geschichtlichen Grundlagen*]

フラマリオン(武者金吉訳)『星空遍路』[Camille Flammarion, *Rêves étoilés*]

ミシュレ(近藤正夫訳)『女性』[Jules Michelet, *La femme*]

以下、「文明レクチュア」叢書

草間八十雄『浮浪者と売笑婦の研究』

後藤朝太郎『支那今日の社会相と文化』

清水泰次『支那の家族と村落の特質』

下位春吉『フアツショ運動とムツソリーニ』

平賀謹・石丸藤太『補助艦問題と最近の我軍艦』

宮島新三郎『イギリス魂』

文明協会ライブラリ(1928~1931年)

1928(昭和3)年

文明協会編『明治戊辰』[文明協会創立二十周年記念]

文明協会編『大戦後の世界の動き』[信夫淳平「戦後日本を中心とする世界の動き」、ウォーラス(下山鎌吉訳)「戦後十年の世界の動き」(William Kay Wallace, *Fifty years of modern history*抄訳)]

小磯国昭・武者金吉『航空の現況と将来』

大浜信泉『英国社会主義立法』

関末代策『輓近仏国に於ける経済学説 社会主義と個人主義』

藤井新一『米國政治外交概観』

藤木九三編『山の呼ぶ声』

山崎勉治『消費組合運動概観』

横山有策『芸術による生活改造』

和田伝『自然・田園・農人』

バイウォーター(石丸藤太縮訳)『列国海軍と其国民』[Hector C. Bywater, *Navies and nations: a review of naval developments since the Great War* 抄訳]

シッフ(長崎常訳)『奥国農産政策』[Walter Schiff, *Die Landwirtschaftliche Produktionspolitik in Osterreich* 抄訳]

既刊の寺田精一『婦人と犯罪』を刊行。

1929(昭和 4)年

文明協会編『現代政治是非』[浜口雄幸「吾党内閣の責務」、犬養毅「吾党の使命」、田中義一「地方分権の必要と其方策」、幣原喜重郎「外交の本質と対支外交」、中村巍「我が国際的地位の現状」、同「政権争奪本位の外交を排す」、井上準之助「国民経済の立直しと金解禁」、三土忠造「金解禁に就て」、同「税制整理の目的」、山榊儀重「義務教育費国庫負担の根本理由」]

文明協会編『婦選問題と婦人の要求』

今井忠直『注目すべき東阿と南阿』

草間八十雄『水上労働者と寄子の生活』

小楨和輔『倫敦軍縮会議と日本』

武者金吉『日光と健康』

オッペンハイマー(藤井新一訳補)『新独逸の政治組織』[Heinrich Oppenheimer, *The Constitution of the German Republic* 抄訳]

オブライエン他(長崎常訳編)『現代丁抹の農村研究』[ジョンズ「農村問題」(Hugo Jhons, *Modern Denmark, its economic and agricultural life*)と、ゴードン、オブライエン共著(Smith Gordon and O'Brien, *Co-operation in Denmark*)を編訳]

ドレイサー(下山鎌吉訳)『ドレイサーの見たソヴイェト・ロシア』[Theodore Dreiser, *Dreiser looks at Russia* 抄訳]

バーンズ(浮田和民訳)『労働の哲学』[Cecil Delisle Burns, *The philosophy of labour*]

マーティン(浮田和民・定金右源次訳)『自然淘汰に基く人類文化の展開』[Alfred Martin, *Aspect of man by means of natural selection*]

リンドバーク(宇都宮爽平訳)『我れ等 リンドバーク半自叙伝』[Charles Augustus Lindbergh, *We*]

既刊のスミス『百歳不老』を『老いて益々旺んなる健康法』と題して刊行。

1930(昭和 5)年

文明協会編『労働組合法案批判』

稲田謹『浅草』

今中次磨『現代独裁政治論』全2巻

浮田和民訳著『ボルシェウイズムとアメリカニズム 外現世の五大問題』[モーリス「現世紀軍備制限の新意義」(Sir F. Maurice, “The limitation of armaments”, *The Contemporary Review*, Oct., 1928)、ケンウォージー「支那の将来」(J. M. Kenworthy, “The next step in China”, *Review of Reviews*, July-Aug., 1928)、同「世界進歩に於ける植民地の位置」(J. M. Kenworthy, “The position of the colonies in world progress”, *The Fortnightly Review*, Jan., 1929)、J. H. ハンプリーズ「一九二八年の独逸総選挙」(John H. Humphreys, “The German general election”, *The Contemporary Review*, July, 1928)、同「議会と安定なる政府」(John H. Humphreys, “Parliaments and stable government”, *The Nineteenth Century and After*, Dec., 1928)、浮田和民「世界の脅威 — ボルシェウイズムとアメリカニズムとの対照」を収録]

尾佐竹猛・渡辺幾治郎『近世文化史に於ける大隈重信侯』

村山重忠『日本労働争議史概観』

藤井新一『現行英国憲法論』

藤井新一『現代政党の社会階級関係史編』

ウォーレス(藤井新一訳)『英国政治制度論』[David Duncan Wallace, *The government of England* 概訳]

ポロック(安武貞雄訳)『政党資金論』[James Kerr Pollock, *Party campaign funds*]
 ムーア(石丸藤太訳)『現代の海権争覇』[Frederick Moore, *America's naval challenge*]

1931(昭和 6)年

浮田和民『思想善導の唯一手段は何か?』[浮田和民「思想善導の唯一手段は何か」、同「社会主義及び無政府主義に対する憲政上の疑義」(『太陽』17-4、6、明治44年3月1日、5月1日)、大杉栄「無政府主義の手段は果たして非科学的乎」、カイザーリンク「新暗黒時代」[(Hermann Keyserling, "A new dark age", *The Fortnightly Review*, March, 1928)、ミューア「英国議会政治の欠陥」(Ramsay Muir, "What is wrong with the British system of government", *The Nineteenth century and after*, Nov., 1930)を収録]

夏秋亀一『共産主義社会主義の解剖』

カウントツ(文明協会編輯部訳)『自動車にて赤軍を探る』[George Sylvester Counts, *A Ford crosses Soviet Russia*]

ギボンス(武者金吉訳)『ワイダー・ホライゾンス:世界の新天地図』全2巻[Herbert Adams Gibbons, *Wider horizons: the new map of the world*]

* シーグフリード(藤井新一・藤井千代子訳)『北米合衆国』[André Siegfried, *Les Etats-Unis d'aujourd'hui*. 英語版 *America comes of age*, tr. by Henry Harold Hemming and Doris Hemming]

トンプソン(石丸藤太訳)『亜細亜の人口問題』[Warren Simpson Thompson, *Danger spots in world population* 抄訳]

フェレーロ(浮田和民訳)『世界の統一』[Guglielmo Ferrero, *Unity of the world*.]

ミューア、ボウリー(文明協会編訳)『世界大戦の政治並経済的影響』[ミューア「大戦の政治的影響」(Ramsay Muir, *The political consequences of the great war*)、ボウリー「大戦の経済的影響」(Sir Arthur Lyon Bowley, *Some economic consequences of the great war*)を収録]

1932(昭和 7)年

文明協会編『ソヴェト聯邦の現状』

平野常治編『世界経済恐慌の経過と現勢』全2巻[国際連盟編「世界経済恐慌の経過と階梯」(*The course and phases of the world economic depression*, 1931)、ワーゲマン「世界経済のリズムと構成」(*Wagemann, Structur und Rythmus der Weltwirtschaft*, 1931)等]